

官渡シナカラ右調書ヲ探テ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○本案ノ如キ互ニ相關係スル事件ニ在テハ甲件ニ付法律ノ規定ニ抵觸ナキコトヲ認メ、宣誓セシメタル證人ノ供述ヲ乙件ノ證據ニ供スルモ決シテ不法ニ非ス要スルニ此論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷ニ對シ漫ニ苦情ヲ訴フルニ過キス上告適法ノ理由トナラス

其第三點ハ證人中川ヒサヨナル者ハ一件記録中曾テ斯ル氏名ノ者アルコトナシ又證人安武昌夫市原正治野見山俊一ノ調書ハ原院カ有罪ト認メタル事項ニ對シテハ被告ニ不利ナル申立ノ以テ凡ルヘキモアルコトナシ又證人池田岩吉ノ調書ハ只不法逮捕ヲ受タリト申立ニ過キスシテ被告ノ命令ニ出タリトノ點ニ付テハ一言ノ申立モナシ其他原院カ明示シタル證據ハ勿論一件記録中被告ノ指揮命令ニ出タリトノ證據ノ端緒タモアルコトナシ然ルニ右等ノ調書ヲ探リ池田岩吉ニ對スル不法逮捕ノ罪アリト認メタルハ越權不法ノ判決ナリト云フニ在リ○因テ訴訟記録ヲ查閱スルニ明治二十七年九月二十四日附證人中川ヒサヨノ調書アリ原判決ニ中川ヒサヨノ豫審調書トアルハ即チ此調書ヲ指シタルモノニシテ中川トアルハ中田ノ誤記ナルコト明瞭ナリ餘ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ採擇事實ノ認定ヲ批難スル論旨ニシテ固ヨリ上告適法ノ理由トナラス

其第四點ハ賄賂罪ハ専ラ贈與者ノ意思ニ依ルチ正當トス今贈與者即チ證人山本與平中村早苗ノ贈與ニ徴スルモ事後ノ報酬タリシハ等フヘカウサルノ事實ナリ加之被告カ犯罪捜査ハ其職務上ノ雜信ニ依リ適法ニ且ツ熱心ニ從事シタルモノニシテ與平ノ囑託ヲ待テ着手シ若クハ其

囑託ニ基クモノニ非ス且ツ其捜査ハ決シテ不正ノ處分ヲ目的ト爲シ若クハ與平カ囑託アリト假定スルモ不正ノ處分ニ對スル囑託ニ非スシテ只與平カ衷心喜ヲ表スルノ意思ニテ贈與シタリト云フニ過キサレハ取賄罪ヲ構成セス原判決ハ此點ニ於テ擬律錯誤アルヲ免カレシト云フニ在リ○因テ審按スルニ官吏收賄罪ハ官吏タル者人ノ囑託ヲ受ケ其囑託ニ應スルハ報酬トシテ現ニ金品ノ贈與ヲ受ケ若クハ其贈與ハ約束ヲ爲スニ因テ成立スルモノニシテ人ノ囑託ヲ受ケルニ當リ金品ノ授受若クハ約束ヲ爲サハルモノハ縱令爾後贈與ヲ受ケルモ刑法上罪トシテ論ス可キモノニ非ス今原判決ヲ查閱スルニ(前署)被害者與志介ノ養子與平ハ先キニ數々被告謹太郎ニ加害者ノ捜査ヲ囑託シタルニ今謹太郎カ數名ノ者ヲ加害者トシテ檢事局ニ送致シ捜査ニ力ヲ盡スヲ見テ之ヲ總トシ明治廿六年三月十八九日頃福岡市船町ノ謹太郎寄留所ニ於テ其謝禮トシテ金三百圓ヲ贈與シ尙又同月廿三四日頃謹太郎カ該犯罪捜査ノ勞ヲ慰セン爲メ温泉ニ行クト聞キ費用ヲ要スルモノト察知シ前同一ノ謝禮トシテ前同所ニ於テ金三百圓ヲ贈與シタルニ被告謹太郎ハ共ニ之ヲ收受シタリトアリテ被告カ金圓ノ贈與ヲ受ケル前ニ於テ與平ヨリ數々加害者捜査ノ囑託ヲ受ケタル事實アルモ其囑託ヲ受ケタルノ當時豫メ後日ノ贈與ヲ暗黙ニモ約束シタル事實ナシ唯被告ハ其職務上受ケ可カラサルモノヲ受ケタリト云フニ過キス然ルニ原院カ之ヲ刑法第二百八十四條第一項ニ開擬シ處罰シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ此論旨ハ其理由アリトス

其第五點ハ原院カ有罪ト認メタル第二ノ不法逮捕強訊監禁等ノ點並ニ第三ノ不法逮捕ノ點ニ

付テハ其各被告入カ自己辯護ノ方法トシテ種々申立タル外證人ノ資格アル者ノ證言ノ以テ徵スヘキモノアルコトナシ又第一審判決ハ各罪共二等ノ酌減ヲ與ヘラレタルニ原院ハ單ニ其酌量減輕ヲ不當トスルトノ附帶控訴ヲ採リ酷刑ニ處シタルハ事件ノ事情ニ適セス且ツ不當ノ附帶控訴ヲ採用シタルモノニシテ最モ不當ノ判決ナリト云フニ在リテ○前段ハ證據ノ採擇ニ對スル批難ニ過キヌ後段ハ檢事ハ刑ノ輕キニ失スルヲ理由トシ控訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ原院カ其控訴ヲ理由アリトシ之ヲ採用シタルハ決シテ不法ニ非ス

其第六點ハ第四偽證ノ點ニ付原院ノ認ル處ニ依レハ被告ハ中村敬照ヲ教唆シ敬照ハ更ニ長ハルヲ教唆シ偽證セシメタルノ事實ト爲レリ然ラハ教唆者ニ對スル教唆ニシテ刑法第百五條ノ教唆者ニ非ス加之原院ノ認ムル事實ニ依レハ信二郎カ有罪ノ處分ヲ受クルニ於テハ當時熱心捜査中ノ使用ノ便ヲ欠クヲ以テ引續キ其捜査ヲ爲サントスルヲ以テ直接ノ目的ト爲シ曲庇ハ不得已結果即チ其末ニ屬スルモノナレハ刑法上論スル所ノ曲庇ヲ直接ノ目的ト爲スモノト其所爲大ニ異ナリ然ルニ此事實ニ對シ有罪ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリ酌量減輕ニ對スル不法ノ附帶控訴ヲ採用シタルハ前第五ニ申立タル所ニ同シト云フニ在レトモ○原院ハ被告ヲ以テ教唆者ノ教唆者ト認メタルニ非サルコトハ其判文ニ照シテ明瞭ナルノミナラスハルヲシテ信二郎ヲ曲庇セシメ刑ヲ免カレシメント圖リ中村敬照ニ偽證囑託ノ事ヲ教唆シタル上ハ其罪責ヲ免カル、コトヲ得サルモノトス檢事ノ附帶控訴ノ點ニ付テハ前段ノ說明ニ依リテ了解ス可シ

其第七點ハ明治廿六年二三月頃金五百圓二口ヲ與平ヨリ騙取シタリ又ハ賄賂收受シタリトノ點ニ付テハ内第一回ノ五百圓ニ對シテハ元來誹道ナク豫審決定書ニモ決定シテ又第一審公判始末書ニ徵スルモ原檢事ノ誹道ナキヲ明ナリ然ルニ原二審ニ於テ立會檢事ヨリ突然騙取又ハ賄賂トシテ收受セリトノ論告アリタルニ付原院ハ本案ノ判決ヲ與ヘス直ニ公訴提起ナキ不法ノ論告ナリトノ理由ヲ以テ棄却スヘキハ當然ナルニ假令無罪ヲ言渡シタリト雖トモ公訴事件トシテ本案ノ審理ヲ爲シ判決シタルハ不當ナリト云フニ在リテ○無罪ノ判決ニ對スル批難ナレハ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

被告ハ尙ホ上告趣意追申書ヲ差出シタルモ右ハ前趣意書中ノ訂正並ニ原院檢事長答辯ニ對スル辯駁ニ係ルヲ以テ則ニ辯明ヲ與ヘス

以上辯明シタル如ク上告論旨第一點乃至第三點及第五點乃至第七點ハ其理由ナキモ第四點ハ其理由アルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ則リ之ニ關スル原判決ノ部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

右

山本 鑑太郎

被告カ山本與平ヨリ賄賂トシテ二回ニ合計金六百圓ヲ收受シタリトノ點ハ法律上罪ト爲ラサルヲ以テ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪餘ハ原判決ノ通り

明治二十八年十二月二日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○強盜殺人ノ件

明治二十八年第一三三五號  
明治二十八年十二月三日宣告

○判決要旨

陳述ノ幾部トハ被告ノ不利益トナル供述ノ部分ヲ指シタルモノトス(判旨第三點)  
豫審判事差支アルトキハ地方裁判所長ハ其裁判所及支部ヲ置ク區裁判所ノ判事申ヨ  
命スルコトヲ得(判旨第五點)

(參照) 裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム(裁判所構成法第百二十五條一項)

豫審判事差支アルトキハ地方裁判所長ハ其裁判所及支部ヲ置ク區裁判所ノ判事申ヨ  
リ臨時其代理ヲ命スルコトヲ得(檢事局事務章程第十五條)

第一審 岡山地方裁判所津山支部 第二審 大阪控訴院

被告人 澤田 幸吉 辯護人 高木益太郎

右幸吉カ強盜殺人被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十月二十六日大阪控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ更ニ被告幸吉ヲ死刑ニ處スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點ハ原判文ニ「刃物ヲ以テ同人ノ頸部及ヒ頭部蓋部等數ヶ所ニ創傷ヲ負ハシメ死ニ致シ」云々トアリ然ルニ刃物ヲ以テ頸部等ニ創傷ヲ負ハシメ死ニ致シタリトハ何ニ因リテ之ヲ知レリヤ判文中其證據ヲ揭示セサルハ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レハ原判文ニハ右等ノ事實ハ證人參事人ノ豫審調書等ニ依リ明瞭ナル旨ヲ記載セルヲ以テ證據ヲ揭示セサルモノト謂フヲ得ス若シ又上告論旨ハ該調書等ハ以テ右等ノ事實ヲ證スルニ足ラスト云フニ在ル歟是全ク原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定若クハ探證ノ當否ヲ非難スルモノナルヲ以テ適法ノ上告理由トスルヲ得ス同第二點ハ原判文中直チニ刃物ヲ以テ云々トアルハ不識ノ事實ヲ確定シタルモノナリ何トナレハ直チニ刃物ヲ持テ被害者ニ創傷ヲ負ハシメタルヤ或ハ直チニ創傷ヲ負ハシメシテ畿分ノ空間アリシヤヲ知ルコトヲ得サル事實ニ對シ事實ヲ確定シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リテ○其旨趣少ク明瞭ナラスト雖トモ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラス同第三點ハ原判文證據列記ノ部ニ「當廷陳述ノ幾部」云々トアリ此幾部トハ如何ナル部分ナルヤ抑モ被告ノ陳述中ニハ其利益トナルモノアリ又不利益トナルモノアリ然ルニ之ヲ明示セザルハ證據法ノ原則ニ反スル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レハ犯罪ハ證據トシテ採用シタル以上ハ被告ハ不利益トナルハキ部分ヲ指シカハハハハハハ勿論ナルヲ以テ特ニ如何ナル部分ナルヤヲ明示セサルモ致テ不法ト云フヲ得ス同第四點ハ檢事ノ檢證調書及醫師押本昇ノ鑑定書ハ無効ノモノナリ而シテ原院ハ之ヲ證據ニ採用セスト雖モ原判決ニ謂フ所ノ刃物ヲ以テ頸部等ニ創傷ヲ爲サシメ死ニ致シタリトノ事實

陳述ノ陳部〇豫審判事ノ臨時代理

ハ該檢證調書及鑑定書ニ依ルニ非サレハ知ルヲ得サル筋ナルヲ以テ原院ハ暗ニ無効ナル書類ヲ證據ニ供シタルモノニシテ即チ不法ノ判決ナリト云フニ在リ。然ルニ原判文ニ依レハ原院ハ其列記シタル證據ニ依リ本案ノ事實ヲ斷定シタルモノニシテ右書類ノ如キハ之ヲ證據ニ供シタル事跡ナキヲ以テ假令無効ノ書類ナルモ原判決ニ何等ノ影響ヲ及スヘキモノニ非ス。辯護士高木益太郎上告趣意辯明書第一ハ裁判所構成法第二十一條ニ依リ司法大臣ヨリ豫審掛ヲ命セラレサル判事ハ豫審判事ノ代理ヲ爲スヘキ職權ナキヲ以テ其爲シタル豫審處分ハ効ナキモノトス而シテ本件ノ證人木下キクヨノ豫審調書ハ岡山地方裁判所津山支部豫審判事臨時代理河崎廉ノ取調ニ係ル然ルニ河崎廉ハ津山區裁判所公判々事ニシテ豫審訊問ヲ爲スノ資格ナキ者ナリ依テ該調書ハ越權ノ處分ニ基ク無効ノモノナルニ原院力之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在リ。然レトモ、構成法第百二十五條ニ依リ司法大臣ハ定ムタル裁判所及ヒ檢事局事務章程第十五條ニ豫審判事差支アルトキハ地方裁判所長ハ其裁判所及ヒ支部ヲ置ク區裁判所ハ判事中心ヨリ臨時其代理ヲ命スルコトヲ得トアリテ此章程ニ依リ代理ヲ命セラルタル判事ハ即チ豫審判事ハ職權アルモノナレハ其作リタル訊問調書ハ固ヨリ有効ナルヲ以テ原院力之ヲ採用シタルハ相當ナリトス。同第二ハ原判決證據列記ノ部ニ掲ケタル木下益吉ノ第一回豫審調書ニハ「問其際當應ヨリ出張シタル檢事ノ取調ニ對シ申立タル事項ハ渾テ相違ナキヤ答一寸モ相違ナシトアリテ乃チ其訊問及ヒ供述ヲ檢事ノ調書ニ讓レリ然ルニ檢事力同人ニ對スル取調ハ非現行犯事件ニ付訊問シタルモノナルヲ以テ其調書ハ無効ノモノナリ故

判旨第五點

ニ原判決力益吉ノ豫審調書ヲ採用シタルハ則チ無効ナル檢事ノ調書ニ記載アル供述ヲモ採用シタル嫌ナキヲ免レンス依テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ。然レトモ該豫審調書中ノ問答ハ檢事ノ調書ニ記載シタル事項ヲ再演シタルト同一ニシテ則チ豫審判事ニ於テ更ニ取調ヘタル事項ヲ記載シタルニ外ナラス故ニ原院力該豫審調書ヲ採用シタルハトテ之カ爲メ原判決ノ取調トナルヘキ理ナシ。右ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ一モ違法ノ理由ナシ依テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ之ヲ棄却ス。

明治二十八年十二月三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス。

〇紙幣偽造ノ件

明治二十八年第一一八一號  
明治二十八年十二月五日宣告

〇判決要旨

貨幣偽造ノ器械ヲ豫備シタル上ハ其器械ノ偽造ニ直接主要ノ關係ヲ有スルト  
否トヲ問ハス豫備罪ヲ成立ス

(參照) 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造偽造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ

偽造器械ノ豫備

一等ヲ減シ未タ成ラサルモノハ二等ヲ減ス若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス(刑法第百八十六條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 河内 市右衛門 辯護人 山口 英憲  
安齋 卯太郎 飯田 玉一  
沼崎 久之助 小笠原 貞信

右紙幣偽造被告事件ニ付明治二十八年九月十八日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴及原院檢事ノ附帶控訴ヲ審理シタル末東京地方裁判所ノ判決ヲ取消シ被告市右衛門卯太郎ヲ輕懲役七年ニ處シ被告久之助ヲ輕懲役六年ニ處ス押收ノ物件ハ總テ各差出人ニ還付シ刑事裁判費用ハ被告三名ニ於テ大河初太郎佐藤徳七二瓶清助ト連帶負擔スヘント言渡シタル判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
被告市右衛門カ上告趣旨ハ被告共カ玩弄物ヲ印刷セント欲シ是等ノ器械ヲ買入レタルコトハ相違ナキモ決シテ紙幣ヲ偽造セント企テタルモノニアラス且二瓶清助星野繁八郎等逃亡シ到底紙幣ノ出來サル場合ニ至リ器械ヲ殘ラス揃ヒタル次第ニアラス然ルニ紙幣偽造ノ豫備ヲ爲シ未タ着手セサルモノト認定セラレタルハ不當ノ判決ナリト云ヒ被告久之助ノ上告趣旨ハ被告カ房屋ヲ給與シタル當時ニ於テ玩弄物ニテモ製造スルモノナル可シトノ推量ヲ爲シ紙幣ヲ偽造スルノ情ヲ知ラサリシナリ然ルニ其後ニ於テ紙幣ヲ偽造スルカ如キ情況アルニ付斷然意

ヲ決シテ前約ヲ取消シ被告市右衛門等ヲ總テ偽造ニ供スル諸器械ヲ携エテ立退カシメ而シテ被告ハ告訴セシト思考スル中拘禁セラレ、ニ至レリ故ニ刑法第百八十八(八ハ六ノ誤ナルヘシ)條ヲ適用セラレタルハ事實ノ顛倒ナリト云フニ在テ◎右論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キササルモノナレハ固ヨリ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

被告卯太郎カ上告趣旨ノ第一點ハ刑法第百八十六條第二項ノ偽造ノ器械ヲ豫備スルトハ貨幣偽造ニ着手スルニ差支ナキ程度マテニ至リタル全般ノ器械類ヲ取揃ヘ正ニ着手セント爲シタルモノヲ云フ而シテ第一審以來被告等ノ所爲ハ被告久之助宅ニ於テ彫刻師星野繁八郎カ金五圓ノ日本銀行兌換銀券ヲ木板ニ貼付シ轉寫紙ヲ其上ニ載セ將ニ翌日ヨリ偽造ニ着手セント爲シタリトノ認定ナレトモ此單純ナル行爲ヲ以テ直チニ刑法第百八十六條第二項ニ問擬シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在テ同第二點ハ右論旨ヲ敷衍シタルニ過キス◎然レトモ刑法第百八十六條第二項ニ所謂偽造ノ器械ヲ豫備スルトハ必スシモ偽造ノ用ニ供ス可キ全般ノ器械ヲ準備スルコトヲ要セス其一部ヲ準備スルモ亦豫備ナリ故ニ偽造ノ器械ヲ豫備シタルモノト認ムルト否トハ要スルニ事實ノ認定ニ屬スルモノナレハ右論旨ハ歸スル所原承審官ノ認定シタル事實ヲ論難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

被告卯太郎辯護士飯田宏作ノ擴張論旨同兒玉一英ノ擴張論旨第一點ハ刑法第百八十六條第二項ノ偽造ノ器械ヲ豫備スルトハ貨幣ヲ偽造スル主要ノ器械ヲ準備スルノ謂ニシテ其器械ヲ造

ル所ノ器械ヲモ包含セサルナリ若シ然ラズトセハ板木材又ハ印肉紙ノ類ノミチ購入スルモ直  
 チニ罪トナル可シ豈此ノ如キ廣波ノ意ナラシヤ即チ本件認定ノ事實ハ主要ノ器械タルヘキ銅  
 板ヲ造ルノ準備トシテ轉寫紙ニ寫サントシタルニ止リ主要ノ器械ヲ備フル場合ニ至ラサルモ  
 ノナレハ無罪ナルヘシト信ス故ニ刑法第百八十六條第二項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリト云  
 ヒ被告市右衛門辯護士山口憲ノ擴張論旨ハ刑法第百八十六條第二項ヲ適用スルニハ紙幣偽造  
 ニ直接必要ナル器械ヲ備ヘタルコトヲ要スト云ヒ被告久之助辯護士小笠原貞信ノ擴張論旨第  
 一點ハ刑法第百八十六條第二項ヲ適用スルニハ器械自體ニ於テ偽造ニ直接固有ナル性質ヲ備  
 ヘタル器械ヲ豫備セサル可カラスト云フニ在テ○要スルニ原判決ヲ擬律錯誤ナリト論スルモ  
 ノナリ因テ案スルニ刑法第百八十六條第二項ニ偽造ハ器械ヲ豫備シテ云々トアルハ即チ偽造  
 ハ用ニ供シ得ヘキ器械ヲ豫備シタルノ謂ナレハ其器械ハ主要ナルコト又ハ偽造ニ直接必要ナ  
 ルコト又ハ偽造ニ直接固有ナル性質ヲ備ヘタルコト等ヲ以テ之ヲ區別ス可キモハニアラス故ニ  
 偽造ハ用ニ供シ得ヘキ器械ヲ豫備シタルト否トヲ認ムルハ即チ事實ハ認定ニ屬スルモハナル  
 ニ付右論旨ハ適法ハ理由ナキモハトス

辯護士兒玉一英ノ擴張論旨第二點ハ貨幣偽造罪ハ特別ノ技能アル者ニアラサレハ之ヲ偽造ス  
 ルコト能ハサルモノナリ然ルニ本件ハ原院ニ於テ認メラレタル如ク彫刻者タル星野繁八郎ニ  
 於テ偽造彫刻ノ意思ナク遂ニ逃亡シ又印刷者タル二瓶清助モ亦續テ逃亡シタルヲ以テ到底偽  
 造ノ目的ヲ達スルコト能ハス即チ不能犯ナルニ付法律上罰ス可カラサル者ニ對シ刑ヲ適用シ

タルハ不法ナリト云フニ在テ辯護士小笠原貞信ノ擴張論旨第二點モ亦同一ノ趣旨ナリ○因テ  
 原判決ヲ査閲スルニ星野繁八郎ニ於テ佐藤徳七二瓶清助ヨリ強テ銅版彫刻ノ請求ヲ受ケ之ヲ  
 辭スルニ途ナク表面上承諾ノ體ヲ裝ヒ言ヲ左右ニ托シ彫刻ニ着手セシテ遂ニ逃亡シタルノ  
 事實ハ原院ノ認ムル所ナレトモ其前既已ニ偽造ノ器械類ヲ準備セシノミナラス繁八郎逃亡ノ  
 後被告市右衛門等之ヲ追跡シテ繁八郎ニ面會シ尙又最初ノ計畫ヲ達センコトヲ勸メタルモ同  
 人ニ於テ之ヲ肯セザリシヨリ更ニ山中善三郎ニ偽造ノ銅版彫刻ヲ依頼シタル爲メ同人ニ密告  
 セラシメ遂ニ其目的ヲ達シ得ザリシ事實モ亦原院ノ認ムル所ナレハ不能犯ニアラサルコト固ヨ  
 リ論ヲ俟タサルナリ

辯護士兒玉一英ノ擴張論旨第三點ハ偽造ニ最モ必要ナル所ノ彫刻者印刷者逃走シ其目的ヲ達  
 スルコト能ハサル場合トナリタルヲ以テ更ニ銅版印刷業者タル山中善三郎ニ依頼セント試ミ  
 タルモ之ヲ承諾セサルニ付自然偽造ノ意思ヲ中止シタルモナレハ即チ中止犯ナルニ刑ヲ適  
 用シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○已ニ前項ニ説明シタル如ク更ニ山中善三郎ニ  
 銅版彫刻ノ事ヲ依頼シタル爲メ同人ニ密告セラレ其目的ヲ達シ得ザリシトノ事實ハ明ニ原院  
 ノ認ムル所ナレハ中止犯ニアラサルコト是亦明白ナリトス假ニ本論旨ノ如ク山中善三郎ニ銅  
 版彫刻ノ事ヲ依頼シタルモ之ヲ承諾セザリシニ付中止シタルモノトスルモ其前既已ニ偽造ノ  
 器械類ヲ豫備シ木案ノ犯罪ヲ成立シタルノ事實ハ原判決ニ照シテ瞭然タレハ無罪ナリトノ論  
 旨ハ到底探ルニ足ラサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス  
明治二十八年十二月五日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

〇小切手偽造行使詐欺取財未遂ノ件

明治二十八年第一二九〇號  
明治二十八年十二月五日宣告

〇判決要旨

小切手ハ裏書又ハ無記名式ヲ以テ賣買若クハ交換スヘキ約定證券ナリ(判旨第一點)  
二點)

偽造ニ係ル小切手ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ(判旨第十三點)

(參照) 小切手ハ裏書ヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得若シ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタルトキ又ハ無記名式ニテ振出シタルトキハ交付ニ因リテ之ヲ轉付スルコトヲ得(商法第八條)  
爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證券若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二二條)

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 廣瀬兼四郎 高木益太郎  
高瀬兼四郎 常壽  
辯護人 守屋此助

右三名ニ對スル小切手偽造行使詐欺取財未遂並ニ常壽ニ對スル竊盜及ヒ私印偽造行使被告事件ニ付明治二十八年十月十日東京控訴院ニ於テ横濱地方裁判所カ被告三名ヲ各輕懲役六年ニ處シ裁判費用ハ被告三名連帶負擔シ偽造ニ係ル小切手一枚及ヒ印類一個ハ刑法第四十四條ニ照シ之ヲ沒收シ其他ノ押收書類ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル裁判ニ對スル被告共ノ控訴ヲ審理ハ末本案控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告共ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ  
被告堀寬恭カ上告趣意書第一點上告人ハ小切手行使ノ場合ニハ關係セシ事蹟アルモ偽造印偽書詐欺手段方法等ノ如キハ毫モ關係セシコトナキノミナラス其情ヲ知レル事蹟ナシ又何等通謀セシ事蹟證據ナシ却テ正意良心ニテ從事セシ形蹟アリ然ルニ原判文ノ如ク判決セラレシハ事實理由及ヒ證據不備ノ判決ナリト云フニ在リテ  
〇全ク原承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ批難スルモノニシテ毫モ適法ナル上告ノ理由アルコトナシ

其第二點銀行當坐小切手ノ如キハ爲替手形裏書ヲ以テ賣買ス可キ證券若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ト稱スルモノ、範圍内ノモノニアラサルコトハ其性質ニ於テ推知スヘケレハ本案ニ於テ處刑スヘキ事實理由アリトスルモ刑法第二百十條ヲ適用スヘキモノナルニ原院カ刑法

判旨第二點 第二百九條ヲ適用セラレタルハ疑律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇商法第八百十六條乃至第八百十八條ニ於テ小切手ハ裏書ヲ以テモ又ハ無記名式ニテモ賣買ス可ク且ツ金額ト交換ス可キ銀行トノ約定證券タルヲ規定セラレタリ故ニ原院カ刑法第二百九條ヲ適用セシハ適法ニシテ疑律錯誤ハ裁判ニアラス

被告廣瀬兼四郎カ上告趣意書ノ要旨ハ明治二十八年一月中上告人ハ高山常壽ヨリ中澤源藏カ振出シタル金五百圓ノ小切手一枚ノ請求方ヲ仲裁シ吳ル、様依頼ニ付承諾シタリ即チ苦情付ノ事件ト思料シタルモ決シテ不正ノモノトハ思考セスシテ依頼ヲ受タタルモノナリ而シテ堀寛恭ニ其小切手ノ用方ヲ尋子タル所銀行役員ハ皆惡意ニ付百事委任スヘキ旨ニ付其意ニ任セタルニ其後銀行ヨリ切手ニ付箋セサレハ金圓ヲ渡サ、ル旨ヲ申シタリ依テ上告人ハ直チニ常壽ニ一ト先ツ返戻シタルニ其後寛恭ヨリ源藏ト和解スヘクニ付是非小切手ヲ取寄セ吳ル、様依頼ニ付常壽ヨリ取寄セ寛恭ニ渡シタル事實ナリ然ルニ原院ノ判決ハ法律ニ違背シタルモノト思料スト云フニ在リテ〇原院ノ認メサル事實ヲ提出シテ原判決ノ事實ヲ批難スルモノニシテ毫モ適法ナル上告ノ理由アルコトナシ

被告高山常壽カ上告趣意書ノ第一點ノ要旨ハ上告人ノ所爲タル曩日中澤源藏ヨリ受託品ナル小切手用紙ヲ廣瀬兼四郎ヘ交付シタルマテニシテ上告人ハ曾テ一面識モナキ堀寛恭ハ勿論兼四郎等ト共ニ小切手偽造行使詐欺取財ノ運動ヲ謀リシモノニアラス然ルチ原院ハ強テ竊盜偽印小切手偽造詐欺取財未遂等ノ數罪俱發トシテ處斷セラタルハ其事實ヲ盡サ、ルヨリ理由ノ

顯赫セル判決ヲ下タサレタリト云フニ在リテ〇全ク法律上原承審官ノ職權ニ一任セラレタル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ適法上告ノ理由ト爲ラス

其第二點ハ堀寛恭ノ上告趣意第二點ト同一趣旨ナルヲ以テ再ヒ茲ニ説明セス  
被告廣瀬兼四郎カ上告擴張書第一點ノ要旨ハ原判文ニ「被告兼四郎ト寛恭ト金圓ヲ騙取スヘキコトヲ申合ハセ常壽ニモ通シテ小切手ノ番號ト振出ノ日付ト顯赫セサル爲メ年月日ヲ記入シタリトアレトモ事實相違セリト云フニ在リ其第二點ハ原判文ニ其目的ヲ達シタルトキハ金額三分ノ一ヲ常壽ニ分配スヘキ約束ヲ爲シ云々」トアレトモ決シテ右様ノ約束ヲ爲シタルコトナシト云フニ在リ其第三點ハ原判文ニ「第百圓立銀行前ニ寛恭被告兩名待居リ惣次郎ヲシテ小切手ヲ銀行員ニ差出シ金五百圓ヲ請求シタリトアレトモ該切手ハ常壽ヨリ預リシ大切ノモノナレハ寛恭ニ一任セシモノト不都合ノアラサル爲メニ尾行シタルノミナリト云フニ在リ其四點ハ寛恭宅ハ第百圓立銀行ノ隣リニテ殊ニ銀行ノ持家ニシテ寛恭ト銀行員トハ親密ノ間柄ニ付信用モ之レアルモノト思料シ加フルニ寛恭カ常壽ヨリ取寄方再三ノ請求故全ク仲裁スルモノト信用シテ切手ヲ常壽ヨリ請取り寛恭ニ渡シタルモノニシテ惣次郎ナルモノハ一面識モナキモノナリト云フニ在リテ〇孰レモ全ク原承審官ノ認定シタル事實ヲ批難スルモノニシテ毫モ適法上告ノ理由アルコトナシ

被告高山常壽カ上告趣意聲明書ノ第一點ノ要旨ハ本案小切手ハ一時金員ヲ引出ス爲メニ用ユル當坐ノ小切手ニシテ約束手形ト小切手トハ其性質効用ヲ異ニスルモノナリ故ニ本案小切手



ヲ偽造セシ所爲ハ刑法第二百十條ヲ適用スヘク刑法第二百九條ノ制裁ヲ受クヘキモノニゾラ  
 ス然ルヲ第一審裁判所カ刑法第二百九條ヲ適用シタルハ違法ナルニ原院ニ於テ此違法ナル第  
 一審判決ヲ認可シテ被告ノ控訴ヲ棄却セラレタルハ亦々失當ノ裁判ナリト云フニ在レ也○堀  
 寛恭カ上告趣意第二點ニ於テ説明セシ如ク小切手偽造行使ノ所爲ハ刑法第二百九條ヲ適用ス  
 ヘキモノタルヲ以テ第一審判決ハ不當ニアラス從テ原院カ之ヲ認可シタルモ亦失當ニアラス  
 其第二點ノ要旨第一審判決ハ裁判費用ノ言渡シヲ爲スニ確モ法律ヲ適用セサリシハ刑事訴訟  
 法第二百三條第一項ノ規定ニ違背セシ不法アリ此不法ノ判決ヲ認可シタル原判決モ亦々不法  
 ナリト云フニ在レトモ○裁判費用ノ言渡ニ就キ其適用シタル法律ヲ判文ニ明示セヨトノ法文  
 アルコトナシ故ニ第一審判文ニ其法文ヲ明示セサルモ違法ト云フヲ得ス從テ之ヲ認可シタル  
 原判決モ亦違法ニアラス  
 被告堀寛恭カ上告辯明書ノ要旨ハ原院ハ上告人カ公延ニ於テ爲シタル供述ヲ取ラス恰モ事實  
 ノ審問ヲ用ヒス辯論ヲ經スシテ下タセル決定ノ如キ判決ヲ爲シタルハ違法ナリ廣瀬兼四郎ノ  
 片言ヲ採テ小切手申年月日ノ記入ヲ寛恭ノ筆記セシモノト推定シ以テ共謀ノ惡意アリト云フ  
 カ如キハ考覈其當ヲ得ス證人陶山芝太郎中澤源藏等カ不正不實ノ證言ヲ採リテ斷罪ノ證ト爲  
 シタルハ違法ナリ上告人ノ控訴ハ第一審判決全部ニ對シ爲シタルモノニシテ第一審ニ於テ公  
 訴裁判費用ノ宣告ニ法條ヲ適用セサル違法アルニモ拘ハラス原院カ其點ヲ破棄セサルハ亦違  
 法ナリ且事實ニ於テモ大ナル相違アリトテ原院ノ認メサル事實ヲ繼述シ又小切手ヲ以テ金額

ト交換スヘキ約束手形ト論斷セラレタレトモ商法ノ條項ニ依ルモ手形ト小切手トハ其性質ヲ  
 異ニセルモノナルヲ以テ刑法第二百十條ヲ適用セラルヘキニ刑法第二百九條ヲ適用セラレタ  
 ルハ擬律錯誤ナリ又本案ハ小切手行使セントスルノ際犯人意外ノ障礙ニヨリ遂ニ其意ヲ達  
 セサルモノナルヲ以テ刑法第二百十條ヲ適用スヘキモノナルニ第一二審共ニ行使セリト云フ  
 ナリテ論セラレタルハ不當ナリト云フニ在レ也○其第一審判文ニ公訴裁判費用ニ係ル法條ヲ  
 適用セストノ點ハ被告常務カ上告趣意辯明書第二點ノ説明ニ於テ了解スヘク其小切手偽造行  
 使ニ刑法第二百九條ヲ適用セシハ違法ナリトノ點ハ被告寛恭カ上告趣意第二點ノ説明ニ於テ  
 了解スヘキニ付茲ニ復説セス其小切手行使ハ未遂ナリトノ點ニ付原判文ヲ閱スルニ被告等カ  
 偽造ノ小切手ヲ第百國立銀行員ニ提出シタル事實ヲ認メアリ故ニ其行使ハ既遂ニシテ原院カ  
 未遂ノ法條ヲ適用セサリシハ違法ナリ其他ハ要スルニ原院カ爲シタル證據ノ取捨事實ノ認定  
 ナ批難スルニ過キサレモノトス

被告高山常務カ第二上告趣意辯明書ノ要旨ハ第一地方裁判所ニ於テ與ベラレタル豫審決定書  
 及ヒ判文ニハ被告カ犯罪ノ場所ヲ明記セス且其共謀タル所爲ニ付總テノ年月日時等ヲ明示セ  
 サルハ理由不備ナリ第二第一審判文事實ノ部ニ於テ被告ノ所爲ハ詐欺取財小切手偽造私印偽  
 造小切手用紙竊取ノ四罪ナルコトヲ認メラレ其法律適用ノ部ニ常務ハ三罪俱ニ發シタルヲ以  
 テ第三百條ニ照シ一ノ重キ云々ト明記セラレタリ一ハ四罪トシ一ハ三罪トセラレタルハ違法ナ  
 リ第三第一審ニ於テ公訴裁判費用ニ付法律ヲ適用セサリシハ違法ナリ以上ノ違法ナル第一審判

決テ認可セラレタル原判決モ亦違法ナリト云フニ在レドモ〇審審終結ノ決定ハ既ニ確定セシモ  
 ノナルヲ以テ其記載ノ不備ヲ鳴ラシテ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス第一審判決文ヲ査閱  
 スルニ犯罪組成ニ必用ナル場所ハ勿論其年月日ヲ明示シテアリ又法律適用ノ所ニ於テ三罪俱ニ  
 發シタルヲ以テ云々ト記載セラレタルハ被告ノ所爲中其詐欺取財未遂罪ト小切手偽造行使罪  
 トハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用セラレ既ニ其一ノ重キ小切手偽造行使ノ罪ヲ以テ論スヘ  
 キモノトセラレタルカ故ニ刑法第百條ヲ適用スル場合ニ於テハ其小切手偽造行使罪ト小切手  
 用紙竊取罪ト私印偽造行使罪トノ三罪ナルノミ故ニ三罪俱ニ發シタルヲ以テ同法第百條ニ照  
 シ云々ト説明セラレタルハ適法ナリ其公訴裁判費用ニ係ル法條ヲ判文ニ記載セサルモ不法ニ  
 アラサルコトハ被告常審カ上告趣意辯明書第二點ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニ復説スルノ要  
 ナシ以上ノ如ク第一審判決ハ違法ノ點ナキヲ以テ原院カ之ヲ認可シタルモ亦違法ニアラス  
 被告廣瀬兼四郎高山常審ノ辯護士高木益太郎カ辯明書第一點ハ第一審判決ハ偽造ノ印紙及ヒ  
 小切手ヲ刑法第四十三條第二號ニ依リ沒收シタリ抑モ偽造ノ印紙及ヒ小切手ハ法律ノ禁制シ  
 タル物件ナルヲ以テ之ヲ沒收スルニ當リテハ刑法第四十三條第一號ニ依ルヘク其第二號ニ依  
 ルヘキモノニアラス故ニ此點ニ關スル被告ノ控訴ハ其理由アルニモ拘ハラス原院カ第一審判  
 決ヲ取消サスシテ認可シタルハ亦不法ノ裁判ナリト云フニ在レドモ〇控訴裁判所ニ於テ第  
 一審判決ヲ取消スハ其控訴ノ理由アリト認めタルトキニ於テスヘク若シ其理由ナシト認めメ  
 ルトキハ其之ヲ取消サトルハ勿論ナリ而シテ原院モ亦第一審ト同シク其沒收ハ刑法第四十

三條第二號ヲ適用スヘキモノトシタルカ故ニ第一審判決ヲ取消サトルハ勿論ナレハ此點ヲ以  
 テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

其第二點ハ原院カ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收シタル小切手一枚ハ被害者中澤源藏ノ  
 所有ニ屬スルモノナルヲ認めナカラ上告人ニ對スル刑罰トシテ之ヲ沒收シタルハ違法ナリト  
 云フニ在リ此點ハ辯護士守屋此助カ上告趣意辯明書第三點ニ於テ説明スヘクニ就キ此ニ畧ス  
 其第三點ハ無價物ヲ竊取スルモ竊盜罪ヲ以テ論ス可キモノニアラス第一審ハ常審ノ竊取シタ  
 ル小切手一枚ヲ無價物ナリト認めナカラ其竊取ノ所爲ニ付刑法第三百六十六條ヲ適用シタル  
 ハ違法ナリ從テ此點ニ付被告ノ控訴ハ理由アルニモ拘ハラス原院カ一モ理由ナシトシテ之ヲ  
 棄却シタルハ違法ナリト云フニ在レドモ〇第一審判決文ヲ査閱スルニ被告カ竊取シタル小切手  
 用紙ヲ無價物ト認めタルニアラスシテ被告等カ偽造シタル小切手ハ無價物ト認めタルモノナ  
 リ故ニ第一審判決ハ上告論旨ノ如キ不法ナシ從テ原判決モ亦違法ニアラス

其第四點ハ被告高山常審カ第二上告趣意辯明書中ノ第二ト同一趣旨ナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧  
 ス

被告堀寬保ノ辯護士守屋此助カ上告趣意辯明書第一點ノ要旨ハ原判決法律理由明示ノ部ニ詐  
 欺取財未遂ハ障礙ニ依ルモノナルヲ外錯ニ依ルモノナルヲ明示セス又單一等ヲ減シトノ  
 ミアリテ一等ヲ減シテ如何ニ爲ストノ結尾ノ文詞ナク又單一小切手偽造行使ノ所爲ハ刑法第  
 二百九條ニ該當シトアルノミニシテ第二百九條ノ何レノ點ニ該當スルヤヲ明示セス則チ法律

ノ理由ヲ明示セサル不法アリト云フニ在レトモ〇原判文ヲ査閲スルニ詐欺取財未遂ノ點ハ障  
碍ニ依テ遂クサリシ事實ヲ認メアルヲ以テ法律適用ノ部ニ於テ刑法第百十二條ヲ適用シタル  
ニ於テハ其障礙ニ依テノ未遂ナルコト明瞭ナルヲ以テ特ニ之ヲ明示セサルモ法律ノ理由ヲ明  
示セサル不法アリト云フヲ得ヌ又第三百九十條第一項ヲ適用シアルヲ以テ該條ノ刑期ニ一  
ヲ減シタルコト明瞭ナルヲ以テ特ニ其減シタル結尾ノ文詞ヲ明示セサルモ是亦法律ノ理由ヲ  
明示セサル不法アリト云フヲ得ヌ又小切手偽造行使ノ點ニ付特ニ刑法第二百九條ノ何レヲ該  
當スルヤヲ明示セサルモ小切手ノ性質ニ就テハ刑罰法上告趣意書第二點ニ於テ說明シタル  
如ク法律ニ於テ規定シタルヲ以テ刑法第二百九條ヲ適用シアルニ於テハ是亦法律ノ理由ヲ  
明示セサル不法アリト云フヲ得ヌ故ニ原判決ハ不法ニアラス

其第二點ハ刑罰法上告趣意書第二點ト同一趣旨ナルヲ以テ茲ニ復説セス

其第三點ハ原判決中偽造ノ小切手ヲ犯罪ノ用ニ供シタルモノト爲シ刑法第四十三條第二ニ依  
リ沒收シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ〇此點ハ適法ナル上告ノ理由アリ何トナレ  
ハ偽造ノ小切手ハ法律ハ禁制シタルモノナルヲ以テ刑法第四十三條第一號ニ該ルモノハナリ然  
ルハ原院ハ刑法第四十三條第二號ヲ適用シテ沒收シタルハ擬律ノ錯誤ナレハナリ

其第四點ハ被告高山常壽カ上告趣意書第二點ト同一趣旨ナルヲ以テ茲ニ復説セス

辯護士守屋此助高木益太郎ハ互ニ其上告論旨ヲ採用スル旨申立タリ故ニ守屋此助カ上告趣意  
書第三點ノ論旨ハ總テノ被告ニ於ケル論旨ニシテ其理由アルモノトス其他ハ前說明シ來

判例第十三

カ如ク其理由ナキモノトス

以上說明シタルカ如ク上告論旨中其偽造ニ係ル小切手沒收ノ點ハ其理由アルヲ以テ刑事訴訟  
法第二百八十六條第百八十七條ニ照ラシ原判決中偽造ノ小切手沒收ノ部分ヲ破毀シ本院ニ  
於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

偽造小切手ハ刑法第四十三條第一號ニ照ラシ之ヲ沒收ス

明治二十八年十二月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事應答融立會宣告ス

〇私印盗用私書偽造行使等ノ件

明治二十八年第二三四號  
明治二十八年十二月五日宣告

〇判決要旨

印紙不足ノ證書ハ裁判上立證ノ料トナスコトヲ得サルニ止マリ爲メニ其證書  
自體ノ効力ヲ抹消スルコトナシ從テ之ヲ以テ詐欺取財ノ罪體ニ供スルコトヲ  
得

印紙不足ノ證書ヲ以テ詐欺取財ノ罪體ニ供セントシタルニ其不足ノ事實ヲ發  
見セラレ遂ニ目的ヲ遂クルニ至ラザリシハ畢竟手段ノ拙劣ニ基ケルモノニシ

印紙不足ノ證書〇手段ノ拙劣

テ法律ニ所謂舛錯ニ因リ犯罪ヲ遂ケサリシ所爲ナリトス

(參照) 即チ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未ダ

遂ケサルトキハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス(刑法第二

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 山口竹三郎 辯護人 沼田宇派太  
久保田忠二郎 上原鹿造

右竹三郎外一名ニ對スル私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治二十八年十月十八日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴及原院檢事ノ附帶控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告竹三郎ヲ重禁錮二年六月ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス被告忠一郎ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス示談醫方約定證書一通ハ之ヲ沒收シ其他ノ押収書類ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ連帶負擔トスト言渡シタル裁判ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告竹三郎上告趣意第一ハ要スルニ原院公判廷ニ於ケル檢事ノ請求ハ單ニ情實酌偏頗不當ノモノナリ犯罪ノ證據トナシタル示談醫方證書眞正ナリ又其證書及代人願書ノ實印ノ眞否ヲ加官ヲ證入トシテ呼出シ取調ヲナサトルハ違法ナリト云フニ過キスシテ○總テ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告違法ノ理由トナラス

同人上告趣意據辯明書(明治二十八年十月三十一日附)第一ノ要旨ハ豫審ニ於テ證人加吉ト對實ノ際事實相違ノ際アリ且ツ被告ノ利益トナル點ノ落記アルヲ以テ之ヲ訂正ヲ乞ハント欲シ至急召喚相成度旨詳細ノ理由ヲ具シ上申書ヲ以テ請求シタルニ豫審判事ハ之ヲ受理セシノミ更ニ呼出ヲ爲サス其儘終結セリ然ルニ原院ハ此不法ノ調書ヲ探テ斷罪ノ資料ニ供セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○右上申書ヲ見ルニ對實調書ノ増減變更ヲ請求スル趣旨ノ記載アルコトナケレハ本趣旨ハ謂ハレナシ其第二ノ要ハ四十四圓ノ借用證書ノ眞否ニ付繼々陳述スルニ過キサレハ固ヨリ上告違法ノ理由トナラス

同辯明書(明治二十八年十一月七日附)第一ハ要スルニ第二審ノ公判ニ於テ裁判長ハ被告ニ對シ「被告等ノ爲メニ不利益トナル調書ハ別段無之單ニ加吉ノ陳述カ不利益トナリタルモノナレハ之ヲ則讀セシメサルモ宜シカロウ」トノコトニ付被告等ハ加吉ノ供述ハ偽リナルコトハ豫審對實調書ヲ見テモ明カナレハ裁判長ノ仰ニ從ヒ之カ則讀ヲ請求セサリシナリ然ルニ判決附本ヲ閱スルニ其事實ハ參考人井坂由松桑原ハナ及被告三名ノ各豫審調書云々ニ徴シテ證據十分ナリトアリ裁判長ハ被告ニ對シ許言ヲ用非タルノミナラス刑事訴訟法第二百十九條同第九十八條等ニ違背スルモノナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ查閱スルニ裁判長カ加吉ノ陳述ノミ不利益ナリト明言セシ事跡ナキノミナラス示談約定證其他一切ノ證據書類ヲ示シテ辯解セシメ尙ホ記録ノ則讀書等ニ異存ナキ旨ノ答ヲ得テ其辯解ヲモ求メタルニ各被告ハ之ニ對シ相當ノ答辯シタルニ依リ證據調ヲ了シアルヲ以テ本論旨ノ如キ不法ノ罪一モ之レアル

コトナシ其第二ハ要スルニ原判決理由中、金圓ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ所爲ハ云々第百十  
 二條第百十三條ニ依リ云々一等ヲ減スヘキモノニ該當シ云々トノミアルテ第百十三條ノ第二  
 項ヲ明示セサルハ理由不備ノ違法アル裁判ナリト云フニ在レトモ○本件ノ犯罪輕罪ナル已上  
 ハ同條第二項ヲ適用シテ處分スヘキモノナルコト明白ニシテ一モ疑フヘキモノナキヲ以テ第  
 百十三條ヲ示ス已上ハ殊ニ第二項ヲ示サレモ之ヲ違法ト云フヘカラス  
 同條明書(明治二十八年十一月二十二日附)ハ要スルニ豫審取調ノ模様ヲ非難スルニ過キサレハ  
 上告ノ理由トナラス

被告忠一郎上告趣意ハ原院ハ犯罪ヲ構成セサル事實ニ對シ有罪ノ判決ヲ旨渡サレタル違法ノ  
 裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ノ犯罪タルコト明白ナレハ有罪ノ判決ヲ爲  
 シタルハ固ヨリ當然ニシテ違法ノ際ナシ

被告兩名辯護人沼田宇源太上原鹿造上告趣意第一點ハ原判決ノ事實摘示ノ末段ニ於テ「明治廿  
 六年十一月二十三日竹三郎ノ名義ニテ勘左衛門ニ對シ金五十一圓九十八錢ノ約定金即チ依頼  
 事件ニ付受取ルヘキ報酬金アリト稱シ土浦區裁判所ヘ約定金請求ノ訴訟ヲ提起シ同年十二月  
 六日同月十三日ノ口頭辯論ニ於テ證據トシテ該示談濟方約定證書ヲ同法廷ニ提出シ尙ホ明治  
 二十七年二三月ノ頃更ニ勘左衛門ニ係リ立替金アリト稱シ金百二十五圓ノ支拂命令ヲ發セラ  
 レンコトヲ同區裁判所ニ申請シ其命令書ヲ勘左衛門ニ送達セシメタル處云々ト説明シ刑ノ適  
 用ノ部ニ於テ「金圓ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ所爲ハ同法第三百九十條第一項云々ト論斷シ

前示約定金請求ノ訴訟及ヒ支拂命令申請ニ付孰レカ詐欺取財未遂トナルヤ又々前後二回ノ所  
 爲トモ詐欺取財未遂ニ該當スルヤニ付テ判然刑ノ適用ヲ示サレサルハ不法ナリ若シ前後二回  
 ノ所爲トモ詐欺取財未遂ニ該當スルモノトスレハ約定金請求ノ訴訟ハ證據方法トシテ示談濟  
 方約定書ヲ提出シタルハ不法ナリトスルモ是只々證據方法ノ一部ニシテ主タル證據方法ト云  
 フヘカラス現ニ勘左衛門ヨリ委任ヲ受ケ被告由松ヲ訴追シ勝訴ヲ得タル等ノ事實ニヨリ正當  
 ニ勘左衛門ニ對シ謝金ヲ請求スヘキ權利ヲ有シタルヤモ知レンス若シ被告竹三郎ニ此ノ權利ナ  
 シトスレハ其事實理由ヲ示サレハカラス然ルニ一先事件落着シタル事ヲ證スル民事上間接  
 ノ證據方法カ不法ナルノ故ヲ以テ恰モ權利ノ本體ヲ有セスシテ全然詐欺取財ヲ行ハントスル  
 カ如ク説明セラレタルハ是又事實理由ノ不備ナル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決  
 ナ閣スルニ茲ニ竹三郎ノ發意ニ依リ勘左衛門ノ實印ヲ盜用シテ同人名義ノ證書ヲ偽造シ之ヲ  
 利用シテ約定金及立替金アリト稱シ同人ヨリ金圓ヲ騙取セントシ共謀シ云々以上ノ如クニ  
 シテ勘左衛門ノ依頼事件ヲ正當ニ示談濟方ト爲シ且金圓ヲ立替ヘタル體ニ取替ヘ茲ニ金圓騙  
 取ノ準備整ヒタルヲ以テ云々ト説明シタル所ヲ見ルニ原院ハ勘左衛門ヨリ金圓ヲ騙取セント  
 スル一個ノ目的ヲ遂ケンカ爲メ約定金請求ノ訴訟ヲ提起シタルト支拂命令申請トノ二個ノ手  
 段ヲ用非タルモノトシテ一個ノ犯罪ト認メタルコト疑ヒナシ故ニ本論旨前段ハ上告ノ理由ナ  
 シ又前段ニ摘示セシ如ク原院ハ明カニ被告ノ所爲ヲ金圓ヲ騙取スルノ目的ニ出テタルモノト  
 認メアレハ事實理由ノ不備アルコトナクハ本論旨後段モ上告ノ理由ナシ尙ホ本論旨ノ追加

トシテ沼田辯護士ハ若シ原院ニ於テ約定金請求ノ訴訟ヲ提起シタルコトト立替金アリト稱シ  
支拂命令ヲ申請シタルコトト二個共ニ詐欺取財未遂ノ行爲ナリトセハ必ス數罪俱發ノ例ヲ適  
用セルヘカラス然ルニ之ヲ適用セサルハ不法ナリト論スルモ其適法ノ理由トナラサルハ前段  
ノ說明ヲ以テ了解スヘシ

上原沼田兩辯護人上告趣意擴張第一點ハ原判決ハ上告人山口竹三郎カ土浦區裁判所ニ於テ明  
治廿六年十二月六日及七同月十三日ヲ以テ示談濟方約定證書ヲ提出シタル所爲モ尙詐欺取財  
未遂ノ如ク說明シアレトモ其當時提出シタル證書ニハ印紙貼用ノ不足アリシコトハ原院ノ認  
ムル處ニシテ此證書タル法律上全然無効ノモノナレハ之カ提出ヲナシタリトテ詐欺取財ノ目  
的トナスコト能ハサルハ法律上當然ノ事柄ナリトス果シテ然ラハ右提出ノ所爲ハ絕對的ニ詐  
欺取財ノ用ヲナシ能ハサルモノヲ使用セントシタルモノニシテ法律上罪トナルヘキモノニア  
ラス然ルニ原裁判所カ是亦詐欺取財未遂ノ所爲ノ如ク說明シタルハ違法ナリト云フニ在レト  
モ○印紙貼用不足ハ證書ト雖トモ絕對的ニ詐欺取財ノ用ヲ爲シ能ハサルモノト云フヘカラス  
假令其不足ノ間ハ裁判上證據トナシ能ハサルモ其實體ハ効力ニ關係ナクシテ相當ノ處分ヲ受  
ケ印紙ヲ加貼スルニ於テハ全然其効力ヲ有スヘキモノナレハナリ而シテ本件ニ於テ其印紙貼  
用不足ナルコトヲ發見セラレ告發セラレハ至リ遂ニ詐欺取財ノ罪ヲ遂クルニ至ラザリシハ  
元來被告カ印紙ヲ相當ニ貼用セズ即チ手段ハ拙劣ナリシニ依ルモノナレハ此則チ法律ニ所謂  
外罰ニ因リ犯罪ヲ遂ケザリシモノト云フヘシ故ニ本論旨モ上告適法ハ理由ナシ其第二點ハ原

判決證據ノ部ニ押收ニ係ル示談濟方約定書金四十四圓ノ借用證書金百廿五圓ノ受取證書トア  
レトモ此等ハ一件記錄ヲ閱スルニ全ク押收ノ手續ヲナシタルコトナク隨テ押收目錄中ニモナ  
キモノナルニ係ハラス原判決ニ於テ押收ニ係ル云々ト說明シタルハ不法ナリト云フニ在レト  
モ○右等ノ書類ノ押收シアルコト一件記錄ニ明カナレハ本論旨ハ謂ハレナシ其第三點ハ上告  
人等ニ對シ正式ノ拘留狀ヲ發シ居ルコトハ一件記錄中一モ之ナキモノナレハ豫審以來上告人  
等ニ對スル審問ハ公式ノ手續ヲ經サル審問ニシテ全然無効ノモノナリ然ルニ原判決ハ無効ノ  
審問ニ基キタル上告人等ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證據トシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○拘留  
ヲ爲サレハ豫審ヲ爲シ能ハサルモノニアラサルノミナラス假令正式ノ拘留狀ナシトスルモ  
不法ノ手段ヲ以テ被告人ニ供述セシメ之ヲ錄取シタルカ如キ場合ニアラサル已上ハ豫審調書  
自體ノ無効タルヘキ理由ナキヲ以テ原院カ右ノ調書ヲ採テ證據ト爲シタルモ不法ニアラス其  
第四點ハ上告人等カ第一審ノ判決ニ對シ控訴シタル趣旨ハ第一審判決ノ全部ヲ取消サシムル  
ニアルコトハ控訴ナル豫審ヲ求ムル一般ノ法理ナリトス故ニ第二審ニ於テ第一審判決ノ全部  
ヲ取消シタル時ハ控訴ハ全部理由アリタルモノニシテ假令第二審ニ於テ幾分ノ刑ヲ受ケルコ  
トアリトスルモ決シテ控訴カ一部ノ理由アリタルモノトスルヲ得ス然ルニ原院ハ檢事ノ附帶  
控訴ニヨリ更ニ加重シタル刑ノ言渡ヲナシタルカ爲メニ上告人等ノ控訴ハ一部ノ理由アリタ  
ルモノトセシハ不法ナリト云フニ在リテ○本論旨中然ルニ已下甚々不明瞭ニシテ趣旨ノアル  
處ヲ確ムルニ苦ムト雖トモ其全體ヨリ察スルニ原院カ被告ノ控訴ハ一部理由アリト說明セシ

ニ對シ其不法ヲ唱フルモノ、如シ果シテ然ラハ原院カ被告人控訴ノ一部云々其理由アリト説明セシハ被告人ノ控訴理由ノ一部ハ理由アリテ第一審判決ハ不法ナリト判示セシニ外ナラス而シテ結局原院ハ第一審判決ノ全部ヲ取消シタルヲ以テ此點ニ於テ被告等ニ於テ不服ノ廉マルヘキ謂ハレナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十二月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○賭博ノ件

明治二十八年第一三五九號  
明治二十八年十二月五日宣告

○判決要旨

司法警察官カ假ニ豫審處分ヲ爲シ得ル場合ハ現行犯ニシテ豫審又ハ公判ニ付セラレサル以前ニ限ルモノトス從テ既ニ公判ニ付セラレタル後ニ於テ同官ノ爲シタル處分並ニ作成シタル調書ハ法律上何等ノ効力ヲ有スルコトナシ

(參照) 第四百四十四條第四百四十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之

ヲ行フコトヲ得但勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス(刑事訴訟法第一項)

第一審 前橋地方裁判所高崎支部 第二審 東京控訴院

被告人 間仁田 半次郎

右半次郎カ賭博被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十月三十日東京控訴院ニ於テ原裁判所カ被告ヲ重禁錮六月罰金拾圓ニ處シタルヲ相當ト認メ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタルニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事ハ本上告ハ相當ニシテ原判決ハ破毀セラルヘキモノト思料スル旨ノ答辯書ヲ差出シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要ハ第一審裁判所カ本件ノ事實ヲ審理スルニ當リ警察調書ヲ以テ之カ證據ト爲シタルハ法律ニ違反セル不法ノ裁判ナルニ拘ラス原院カ第一審判決ヲ維持シテ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリ依テ原裁判破毀ノ上更ニ適當ナル裁判ヲ受ル爲メ本件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移送テ求ムト云フニアリ

○依テ一件記録ヲ査閱シ之ヲ按ズルニ本件ハ明治二十八年八月五日ニ發覺シタル現行犯罪ニ係ルモ被告ハ其際犯所ヲ逃走シテ捕ニ就カサルマ、檢事ハ其翌六日ハ以テ他ハ共犯人及ヒ被告ニ對シ前橋地方裁判所高崎支部ニ公訴ヲ提起シ被告等ハ其出ヲ請求シ同支部ハ同月八日被告ニ對シ呼出狀ヲ發シ同月十六日公判ヲ開キタリ而シテ第一第二審裁判所カ共ニ採リテ本件斷罪ノ證據ニ供セシ警察調書ナルモノハ明治十八年八月十五日高崎警察署警部代理部長巡查細太郎作カ同署ニ於テ被告ヲ訊問シ作成シタルモノニ係リ其作成ハ本件カ高崎支部ハ公判ニ付セラレタル後ニアルヲ以テ該調書ハ適法有效ハモノト爲ス

可ナルナリ何トナレハ司法警察官カ假豫審處分ヲ爲シ得ヘキ場合ハ刑事訴訟法第四百四條同第四百十六條ニ規定ハ如ク現行犯ニシテ豫審又ハ公判ニ付セサル以前ハ場合ニ限ルモハナレハ右調書作成ノ當時ニ在リテハ司法警察官ハ被告ヲ訊問スル職權ヲ有セス隨テ其作成ハ調書ノ法律上無効ナルハ亦勿論ナレハナリ然ルニ第一審裁判所カ此無効ハ調書ヲ採用シ原院モ亦其誤ヲ承ケ之ヲ斷罪ハ證據ト爲シ以テ第一審判決ヲ相當トシ被告ハ控訴ヲ棄却シタルハ上告論旨ハ如ク不法ハ判決ニシテ破毀ハ原由アルモハトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ラニ審判セシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治二十八年十二月五日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○私書偽造行使等ノ件

明治二十八年第一三六二號  
明治二十八年十二月九日宣告

○判決要旨

詐欺取財罪ヲ犯スニ依リ文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ想像上ノ二罪ニシテ實質上一所爲タルニ外ナラス從テ文書偽造行使罪ニ付公訴ノ提起アリタルトキ

ハ詐欺取財罪モ亦其公訴ニ包含セラル、モノトス(判旨第一點)

(參照) 入テ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑事訴訟法第三百九十九條)

訴訟上事實ヲ構造シテ裁判官ヲ錯誤ニ陥ラシメ自己ノ所有ニ屬セサル物件ヲ騙取セントシタル所爲ハ詐欺取財罪ナリトス(判旨第六點)

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 小林 音吉 辯護人 高木益太郎

右私書偽造行使私印盗用及詐欺取財未遂被告事件ニ付明治二十八年十一月六日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理ノ末檢事ノ爲シタル公訴不受理ノ申立ハ之ヲ却下ス原判決中被告ニ關スル有罪ノ部分ハ之ヲ取消ス被告音吉ヲ重禁錮一年六月罰金二拾圓監視六月ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル金百五拾圓ノ受取證書一通ハ之ヲ沒収シ其他押収ノ書類ハ各差出人ニ還付スト音渡シタル判決ニ對シ原院檢事長野村維草并ニ被告ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

檢事長上告趣意書ノ第一ハ刑法第二百九條以下及同第三百九十條以下ノ規定ヲ參照スレハ則私書偽造行使ト詐欺取財トハ各別罪ヲ組成スルコトハ明白ナリ故ニ此兩罪ヲ犯シタル者ナル



トキハ則刑法第三百九十九條第二項ノ規定ナシト雖トモ同第百條第三項ノ規定ヲ適用スヘキハ  
 論ヲ待タス然レトモ執法者中或ハ私書偽造行使ハ詐欺取財罪ノ手段ニ屬スレハ別罪ヲ組成セ  
 ストノ誤解ニ陷ル者アランコトヲ豫防シ尙ホ二罪ヲ構成スルコトヲ示サシメ爲メ刑法第三百九  
 十條第二項ヲ設定セラレタルニ過キス然ルニ原院ハ此法意ヲ察セス該法ハ兩罪ヲ結合シテ一  
 罪ト爲シタルモノト解釋シ私書偽造行使罪ノ公訴アル以上ハ詐欺取財罪ノ起訴ナキモ裁判所  
 ハ當然該罪ノ起訴アリタルモノト見做シ審理判決スヘキモノト判定シタルハ刑法第三百九十  
 條第二項ノ解釋ヲ誤リ不當ニ之ヲ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○詐欺取財罪  
 ナルニ依リ私書偽造行使ハ所爲アルモノハ即チ犯罪タル一所爲ニシテ二罪ヲ構成スル所ハ  
 事實ヲ包含スルナリ之ヲ換言セハ想像的ハ二罪ニシテ實際ニ於テハ犯罪タル一所爲カ二個ハ  
 別名ニ觸ルハハハニ外ナラサルナリ刑法第三百九十九條第二項ハ如此場合ヲ規定シタルモノニ  
 シテ上告論旨ハ如キ律意ニアラス故ニ本件ハ如キ詐欺取財ヲ目的トセル文書偽造行使罪ニ付  
 起訴アリタル時ハ詐欺取財ハ事實モ其公訴中ニ包含セシモノト云ハサルヲ得サレハ原院カ本  
 件ハ公訴ニ於テ詐欺取財未遂ノ點モ亦起訴アリタルモノト判定セシハ相當ニシテ上告論旨ハ  
 如キ不法アルコトハ其第二ハ當院ノ判決ハ本案ノ私書偽造行使詐欺取財ノ兩罪ヲ以テ一罪  
 ト爲ス此判決ノ趣旨ニ依レハ本罪ハ私書偽造行使ト詐欺取財ト二個ノ行爲集積シテ私書偽造  
 行使詐欺取財ト稱スヘキ十語總綴ノ一犯罪ヲ組成シタル者ニシテ此兩罪ヲ比較シテ其犯情重  
 キニ從ヒ處斷スルヲ得ヘカラサル理ナリ然ルニ當院ノ判決理由申擧律ノ一段ハ本罪ヲ以テ二

判旨第一點

罪ト爲シタルカ如ク公訴不受理 申立ヲ却下スルノ一段ニ至テハ之チ一罪ト爲シタルモノ  
 如ク前後矛盾シテ理義貫通セサルノ弊ニ陷リタルナリ是レ則チ刑事訴訟法第二百九十六條第  
 九ニ所謂理由ノ顯明アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○前掲說明セシ如ク本件ハ犯罪ハ  
 想像的ハ二罪俱發ニシテ實際的ニ於テハ一犯罪タルニ過キサルヘキモ之チ處分スルニハ其刑  
 名ニ觸ルハハハハ中一ノ重キニ從ヒ裁判スヘキモノハハハ原院カ本件ハ犯罪チ一罪ト認メタ  
 ルニ拘ハラヌ私書偽造行使及ヒ詐欺取財未遂ノ點ニ對シ各相當ハ刑ヲ擬シタルハ當然ハコト  
 ニシテ決シテ理由顯明ハ判決ニアラス

被告小林音吉ノ上告趣意書第一并ニ辯護士高木益太郎ノ上告辯明書第三ノ論旨ハ檢事長上告  
 趣旨第一ノ論旨ト同一ナレハ其趣旨及ヒ說明ハ爰ニ再記セス

被告上告趣意書第二ハ本件ニ付テハ被告ニ利益ナル證據歴々存スルニモ不拘原院ハ悉ク之チ  
 度外ニ付シ職ク有罪ノ判斷ヲ下シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リテ○法律上原承審官ニ  
 特任セラレタル證據ノ判斷ニ對シ徒ラニ論難ヲ試ムルモノニ過キサレハ固ヨリ上告ノ理由ト  
 爲スヘキモノニアラス

辯護士上告辯明書ノ第一ハ原院カ本件偽造ノ受取證書ヲ刑法第四十三條第二號ニ照ラシ没収  
 シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○右論旨ハ適法上告ノ理由アルモノトス何トナレハ偽造證  
 書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナレハ同條第一號ニ依リ没収スヘキモノニシテ同條第二號ニ  
 照シ没収シタルハ違法ノ判決タルヲ免カルヘカラサレハナリ其第二ハ原院ハ第一審裁判所カ

判旨第六點

私印盗用ノ所爲アルモノトシ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不當ナルコトヲ辯明シ被告ノ控訴ヲ理由アルモノトセリ左スレハ其判決主文ニ於テ第一審ノ裁判ヲ取消シタル上私印盗用ノ點ニ付テハ公訴成立セサル旨ノ判定ヲ下スヘキ旨ナルニ事茲ニ出テサリシハ判決ノ理由ト其主文ト適合セサルノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テ私印盗用ノ點ハ第一審裁判所ヘ公訴トシテ專屬ナキコトヲ辯明シ而シテ其主文ニ於テ之ヲ有罪トナシタル第一審判決ヲ取消シタル上ハ公訴成立セサル旨ノ判決ヲ爲スノ要ナシ故ニ原判決ハ違法ニアラス其第四ハ訴訟ハ國家ノ裁判權ニ其曲直ヲ一任スルモノナリ是故ニ被告ニ於テ虛構ノ事實ヲ設テ反訴ノ方法ニ依リ自己ノ差入レタル借用證書ヲ取戻サントシタル所爲ハ詐欺取財罪ナリト云フヘキモノニアラス然ルニ原院カ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○虛構ノ事實ヲ設テ裁判官ヲ錯誤ニ陷ラシメ自己ハ所有ニ屬セサル物件ヲ騙取セントスル所爲ハ即チ詐欺取財罪ナレハ上告論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ直チニ本院ニ於テ判決シ原院檢察長ノ上告ハ同法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス

小林 音吉

原院ノ認メタル事實ニ依リ偽造ノ受取證書ハ刑法第四十三條第一號ニ依リ之ヲ沒取ス其他ハ原判決ノ通り

明治二十八年十二月五日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢察官岩田武儀立會宣告ス

○私印盗用私書偽造行使等私訴ノ件

明治二十八年第一二六五號  
明治二十八年十二月六日宣告

○判決要旨

犯罪ニ原因セル抵當ノ登記ハ法律上不成立トス

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

上告人 堀 キヨウ

被上告人 飯田 半七

右高坂三之助外二名私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ノ附帶私訴ニ付明治二十八年十月九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ民事被告人ヨリ上告ヲ爲シ民事原告人ハ答辯書ヲ提出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ本件登記取消ヲ求ムル原因ハ高坂三之助ノ犯罪ヲ理由トスルノミ然レトモ上告人ハ明治二十五年十月十六日ニ告訴ヲ爲シ同月十八日和解ノ上告訴ノ取下ヲ爲シ十九日附テ以テ金額受方ノ委任狀ヲ三之助ニ渡シ上告人ハ其委任狀ニ依リ金額渡シタルモノニシテ其委任狀ノ明文ヨリ見ルモ本件登記取消ヲ求ムル物件ヲ信用シテ金圓ヲ渡シタルコト明カナリ然

犯罪原因ノ登記

四十七

ルニ原判決ニ假令其後ニ至リ被控訴人ニ於テ之ヲ追認シタリトスルモ復活シテ有効タラシムルコトヲ得サルハ勿論ナレハ委任狀ノ眞否如何ニ拘ラス下判決シタルハ不服ナリ何トナレハ追認シテ告訴ヲ取下ケタル上金圓ヲ受取タレハ本訴登記ヲ取消サントスル物件ハ合意上擔保トナシタルコト明カナレハ私訴トシテ請求スル權利ナキモノナレハナリト云フニ在レトモ○本件係争地所建物ハ抵當登記ハ刑事被告人高坂三之助ガ民事原告人ハ實印委任狀及證明願書ヲ偽造行使シタル犯罪ニ原因シタルモノナルコトハ公訴判決ニ依リテ明カナレハ即チ不成立ハ登記ニシテ之ヲ取消スヘキハ當然ナリ斯カ不成立ハ登記ナル上ハ原院カ追認ハ場合ヲ假想シタル説明モ亦ハ相當ニシテ上告ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル裁判費用ハ上告人ノ負擔トス

明治二十八年十二月六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○官文書偽造行使等ノ件

明治二十八年第一二八〇號  
明治二十八年十二月六日宣告

○判決要旨

登記簿ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ之ヲ登記所ニ備置キタル所爲ハ官文書偽造行使罪ナリトス

(參照) 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百一)

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 上澤介五郎 辯護人 横田千之助  
松山佐京

右兩名カ官文書及ヒ公證文書偽造行使官私印盜用詐欺取財被告事件ニ付明治廿八年十月十一日名古屋控訴院ニ於テ大審院ノ移送ニ係ル宇都宮地方裁判所ノ判決ニ對スル被告等ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告佐京ヲ輕懲役七年ニ處シ被告介五郎ヲ重禁錮二年監視六月ニ處ス被告等カ公證文書偽造行使被告事件中山林實渡證書ノ公證偽造ノ點及ヒ介五郎外一名カ詐欺取財被告事件ハ何レモ無罪トス押収ノ書類ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル第二審ノ判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ法式ヲ履行シ被告兩名ノ辯護士横田千之助ノ辯論立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

被告介五郎カ上告ノ要旨被告清作ハ云々遂ニ假リニ一人ニ賣渡シタル體ニ裝ヒ其假裝ノ買主ヨリ他ニ抵當トナン以テ運動費ヲ借出サンコトヲ計畫シ之ヲ被告人介五郎ニ謀リタル處同人モ資金ノ淹滞ヲ憂慮セル折柄ナレハ輒ク其計畫ニ同意シ假裝ノ買主トナリ云々トノ説明ハ頗

ル誤謬ノ甚シキ推定ナリトス抑該山林ハ西大蘆村大字草久人民ノ共有ニシテ大蘆全村ノ共有ニアラサルコトハ被告ノ多辯ヲ要セスシテ明カナル而已ナラス原院モ之ヲ認メナカラ町村制ノ規定ヲ誤解シ即チ法人ノ資格ヲ有スル自治體ノ所有財産ト同視セラレタルハ不法ト云ハサル可ラス他人ハイサ知ラス被告介五郎ハ假裝的賣買ヲ承認セストモ自己ノ貸金ヲ返濟セシムルニハ權利上爲スヘキノ途アリ然ルチ原院ハ斯ノ如キ算策ヲ採ルノ外途ナキカ如クニ事實ヲ推定セラレタルハ理由不備ノ裁判ナリ又說明中各自利益ノ分配ヲ盟約シ云々トアルモ凡ソ山林賣買ノ初メニアリテ評價上ヨリ降ル豫約ノナラサルコトハ今更喋々ヲ要セスシテ明カナリ云々故ニ原院ノ推定ハ道理ニ反スル而已ナラス理由ニ顯赫アル不法ノ裁判ナリト思料ス同院明中被告川田伊八郎上澤清作及ヒ自分等共謀上登記書類ヲ作製シ鹿沼出張所ニ差出シタリトノ推定モ亦失當ナリ云々是則書類提出マテ直接セル證據ト論及スルニ憚ラサル次第ナレハ伊八郎ヲ經テ被告佐京ニ偽造ノ登記ヲ爲サシムル等ノ事實焉モアルコトナシ之レ則原院カ加功ノ事實ナキヲ有ルカ如ク說明シ見ルヘキノ證據ナキヲ有證ノ如ク認メ探テ以テ斷罪ノ資料ヲ補ヒタルハ不法ナリ以上ノ理由ニシテ被告介五郎ハ素ヨリ貸金返辯ヲ怠リシヨリ上澤助右衛門等ノ賣渡ハ正當ト租借シ買得シタル者ニテ假裝ノ賣買ニアラサルナリ然ルチ原院カ種々ノ推定ヨリシテ刑法第二百三條第一項其他ノ數條ヲ適用處斷シタルハ理由ノ不備且擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニアントモ○該論旨中本件ノ山林ハ西大蘆村大字草久人民ノ共有ニシテ全村ノ共有ニアラサルニ原院カ町村制ノ規定ヲ誤解シ云々ト論點アルモ原院文ニ依レハ

「宇都宮區裁判所鹿沼出張所ニ於テハ共有地ノ登記ニ付テモ村會ノ決議書并ニ郡參事會ノ認可書アルニ非レハ登記ヲ爲サシムル例ニシテ云々トノ事實ヲ認メアリ去レハ該出張所ハ登記簿ヲ偽造スルニ付テハ該二通ハ書面アル如ク記載シ置クハ必要アルヨリ即チ登記簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ之ヲ同出張所ニ備へ置タルモハハハ官文書偽造罪ヲ構成シタルハ論テ疑ハス故ニ原院判決ハ相當ニシテ違法ニアラス其他ノ論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否事實ノ認定ヲ批難スルモノニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ」被告佐京上告要旨ノ第一點原院ハ登記簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルノ行爲ヲ以テ官ノ權利義務ニ關スル文書ナリトシ刑法第二百三條ヲ適用セラレタルハ不當ナリ抑モ同條ヲ以テ罰セシムル官ノ權利義務ニ關スル文書ナルコト及ヒ之ヲ行使シタルコトノ二個ノ事實ナカル可ラス云々要スルニ登記簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルノ成果ハ私人間ノ契約ヲシテ公示式ニ依リ所有權ヲ明示シタルニ過キス而シテ此登記ハ末々以テ第三者ニ對抗スルノ効力アルニアラス云々故ニ官ノ權利義務ニ關スル文書ナリトセンニハ須ク登記簿第四十一條ノ手續ヲ履行シ外形上有効ナラサル可ラサルニ原院ハ單ニ信實ニ違ヒタル事ヲ以テ直ニ官ノ權利義務ニ關スル者ナリト判定シタルハ擬律錯誤ナリ」第二點行使シタル所爲ナキヤ否ヤ原院判決ハ公示式ノ方法ニ依リ之カ記入ナシ登記所ニ備置タル以上ハ行使シタリトノ意ナルカ抑モ法律上責任ヲ生スルノ行使ハ其行使ノ所爲ヨリ實害ヲ生スルコトヲ豫想シ得可キモノニ限ル云々要スルニ本件偽造ノ登記ハ未タ完全ニ終了シタルモノニ非ラサ以テ已遂ニアラス加之行使ナルモノハ其成果ニ於テ實害ヲ生シ若クハ生セン

コトヲ豫想シ得可キモノニ限レリ故ニ本件ノ如キ完全ナラサル登記ハ決シテ行使ト云フヲ得  
 スト云フニアレトモ○登記法ニ所謂不動産ノ登記ハ專ラ第三者ニ對スル關係ヲ規定シタルモ  
 ハニシテ被告所論ノ如ク官廳權限ノ如何ヲ規定シタルモノニアラス故ニ登記簿ニ虚偽ノ記入  
 ナルハ之ヲ登記所ニ備置シタルハ即チ第三者ヲ欺クニ足ルモノナルヲ以テ其所爲ハ官文書偽  
 造ノ行使ナルコト勿論ナリトス而シテ登記法第四十一條ハ登記所及土地臺帳所管廳ノ事務取  
 扱手續ヲ定メタル者ニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキ法條ニアラス故ニ此點ニ對スル論旨  
 ハ要スルニ法律ノ誤解ニ外ナラス因テ第一第二論點共上告適法ノ理由ナシ第三點原判決ニ抵  
 當證書ヲ偽造行使シタリトシテ刑法第二百四條ヲ適用セシハ疑律ノ錯誤ナリ抑モ本件偽造行  
 爲ノ點ハ該證書ヲ他人ニ呈示シタル所爲アリテ行使シタル者ト云ハサルヲ得ス然ルニ被告ノ  
 行爲ハ其如何ナル點カ行使ノ所爲ト云フヘキカ熟ラ原判文ヲ閱スルニ(前略)右登記簿公證偽造  
 ノ借用證書ヲ伊澤那藏ニ差入レ返濟スル意思ヲ以テ同人ヨリ(中略)金圓ヲ借受ケタリト認  
 メタル事實ハ疑モナク該證書ヲ行使シタルモノト云フヘキモ其行使ノ所爲即チ金員ヲ借入ル  
 目的ニ付被告カ加功セシ事實ヲ見ルヘキ理由ヲ列示セス又一件記録中金員借入ノ點ニ付共  
 謀シタリト認ムヘキ事實ナキニモ拘ラス漫ニ理由ヲ虚構シ之ヲ行使スル爲メ伊八郎ヲ經テ介  
 五郎ニ交付云々トセシハ何等ノ捏造ソヤ更ニ判文ヲ熟覽スルニ其認メタル事實ハ云々佐京ハ  
 以テ證書ヲ偽造スルニ付テノ共謀ト見做スヘキモ返金ニ差支將來ノ運動費ニ付金員ヲ借入ル  
 目的アリト見ル能ハサルヤ喋々チ俊タサルナリ而シテ其後段ニ恰モ眞正ニ登記簿ヲ經タル者

ノ如ク仕做シ云々トアルハ前段ニ承諾シ偽造ヲ遂ケタル結果ヲ示シタルモノナリ然ルニ原院  
 ハ偽造ヲ承諾シタル以上ハ行使スルコトヲ承諾シタル如ク判定シ行使スル爲メ云々トノ理  
 由ヲ付シタルハ頗ル解スヘカラス若シ佐京ニ於テ金員借入レノ目的アリトセハ他被告ト同シ  
 ク行使ノ目的若クハ共謀ノ理由ヲ付セサル可ラス之レ則理由ノ不備疑律ノ錯誤ナリ加之本件  
 ハ詐欺取財罪モアリトシテ第一審ノ判決ヲ控訴シタルモノナルニ東京控訴院ハ佐京カ詐欺取  
 財罪ニ加功シタル證據十分ナラストシテ無罪ヲ言渡シ其判決確定シタルモノナレハ該判決ニ  
 依リ其目的成果ヲ異ニシタルコトハ原院ノ認ムル處ナリ云々已ニ其目的成果ヲ異ニシタルモ  
 ノトセハ斷シテ共謀シタルモノト云フヘカラス何トナレハ共謀トハ數人一體ニシテ即チ同一  
 ノ罪ヲ犯シタル場合ヲ云フモノナレハナリ要スルニ原院ハ目的成果ノ異ナルヲ認メナカフ金  
 圓借入ノ目的アルカ如ク判決セシハ疑律錯誤及理由不備ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判  
 文ニ依レハ被告佐京カ他ノ被告人等カ共謀シタル事項ニ同意シ山林借入借用證書ニ登記簿ト  
 ノ公證文ヲ偽造シ之ヲ伊澤那藏ニ交付シタルノ事實ハ分明ニ列示シアルハ即チ偽造文書ノ行  
 使ナルコト勿論ナリトス又詐欺取財ノ點ハ無罪ナリ目的成果ヲ異ニスレハ共謀ノ事實ナシ云  
 ヲトノ論旨アルモ公證文偽造ト詐欺取財トハ別罪ナルヲ以テ詐欺取財ノ共謀者ニアラサレハ  
 公證偽造ノモノ共謀ナシト斷言スルヲ得ス因テ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ被告佐京カ  
 上告辯明書ノ要旨第一點假リニ原院認定ノ如ク抵當證書ヲ偽造シ之ヲ伊澤那藏ニ差入タルモ  
 ノトスルモ其犯罪ハ惡意又ハ其結果ニ於テ被害ヲ生スルモノナラサル可ラス若シ被害ナク惡

意ナシトセハ斷シテ刑法上ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス原院判文ヲ閱スルニ「借金返却及ヒ將來ノ運動費ニ差支(中略)結局登記簿ノ公證文ヲ偽造シタル借用證書ヲ送込云々」トアルモ之ヲ行使スルニ付債主ヲ害スルノ惡意ナキコトヲ認メアレハ從テ實害ノ生セサルヤ明カナリ果シテ然ラハ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス云々要スルニ本件ハ原院認定ノ如ク登記簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルハ他人ノ財産ヲ得ントスルニアラスシテ單ニ公證ヲ偽造スルノ意ニ出テ而シテ行使シテ金員ヲ借入タルハ追テ返濟スルノ意思ナリトセハ即チ惡意及ヒ實害ナキコトヲ認メタルモノニシテ犯罪ノ要素ヲ缺クハ勿論ナリ故ニ本件ヲ行使罪トシテ處斷セシニハ其所爲ノ惡意ニ出タルコトヲ明示セサル可ラス然ルニ原院ハ此點ニ付單ニ法律語ノミヲ掲ケタルハ理由不備且擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判文ニ依レハ被告等共謀シ登記簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ其偽造文書ニ基キ山林書入借用證書ニ公證文ヲ偽造シ該證書ヲ目的ノ人ニ交付シタル事實ヲ列示シアレハ其受證者ノ信用ヲ害シタルコトハ判明ナリ而シテ文書偽造罪ハ信用ヲ害スル罪ナルヲ以テ該文書カ他人ノ信用ヲ害シタル事項アル以上ハ其金員ヲ返濟スルノ意思如何ニ論ナク公證文書偽造行使ノ罪ヲ構成スヘキハ勿論ナルニ付上告論旨ハ其理由ナシ第一點更ニ原判文ヲ閱スルニ本件公正證書ヲ行使シタルノ所爲ハ借金ノ返却及ヒ將來ノ運動費ニ差支タルヨリ登記簿ヲ偽造シ他ヨリ金借スルノ目的ヲ以テ抵當證書ヲ偽造行使シタルモノナルコトハ其文詞ニ徴シ明カナリ果シテ然ラハ本件ノ證書偽造ハ金員借入ノ方法手段ニ過キス然ルニ其主タル目的行爲ノ罪トナラスシテ其從タル方法手段ノ罪トナル理アランヤ云々要

スルニ原判決ハ一方ニ於テ詐欺取財ヲ認メナカラ無罪ヲ言渡シ又一方ニハ犯罪ノ要素即チ惡意實害ナキ事實ヲ認メナカラ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ理由不備且擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアレトモ○公證文書偽造ト詐欺取財トハ其性質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ文書偽造ヲ詐欺取財ノ手段方法ナリトシテ別ニ一罪ヲ構成セスト云フヲ得ス因テ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ第三點文書偽造罪ト其文書ニ掲ケル處ノ事實ノ眞偽又ハ帳簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタリトテ直ニ偽造罪ノ成立スルモノニアラス然ルニ原判文ハ單ニ上告人カ虛偽ノ事項ヲ帳簿ニ記入シタルヲ以テ偽造行使ナリト斷定シ其意思ノ惡意ニ出シコトヲ明示セサルハ是亦理由不備且擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判文ヲ通讀シレハ被告等カ所爲ノ惡意ニ出タルノ事實ハ分明ニ認メ得キニ依リ上告論旨ハ其理由ナシ第四點假リニ文書ニ掲ケル處ノ事實ノ眞偽及ヒ虛偽ノ記入ヲ爲シタルノ行爲ハ罪ヲ構成スル者トスルモ原院判決ニ認ムル處ノ假裝ノ實質ヲ登記簿ニ以テ登記簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルノ行爲ハ等シク虛偽ノ記入ヲナシ之ヲ登記簿ニ行使シタリト云ハサルヲ得ス然ルニ原院ハ假裝賣買ニ關スル物件其他ノ記入ニ付テハ其契約ノ虛偽ナルコトハ認メタルニモ拘ラス措テ問ハス單ニ村會ノ決議書及ヒ郡邊事會ノ認可書云々ニ依リ登記簿ニ記入ヲ實罰スルカ如キハ一方ニ之ヲ罰シ他ノ一方ハ罪トセサルカ如キ失當ノ判決ナルヲ免レス云々況ンヤ虛偽ノ記入ハ偽造罪ヲ構成セサルニ於テチヤト云フニアレトモ○原判文ニ依レハ(前略)同出張所ニ備ヘアル登記簿中物件番號云々ノ處ニ於テ右山林十七號ノ内十四號ヲ記入シ登記簿ノ事由欄内ニ村會ノ決議書郡邊事會ノ認可書云々

ニ依リ登記スト虚偽ノ事柄ヲ記載シ之ヲ出張所ニ備ヘ置キ以テ登記簿ヲ偽造行使シタリトアリテ該記入ニ依リ其登記ハ惣テ偽造ナリト認メタルニアルヤ明カナリ因テ上告論旨ノ如ク一方ハ無罪トシ他ノ一方ハ有罪トナシタル等ノ不法アルコトナシ第五點原院ノ認メタル村會ノ決議書郡參事會ノ認可書ナル文書ハ官ヨリ發スル文書ナレハ其文書ヲ記入セシハ即チ官ノ權利義務ニ關スト云フノ謂ナルカ誰カ知ラン村會乃至郡參事會ノ官署若クハ公署ニアラサルコトヲ已ニ官署若クハ公署ニアラストセハ之レヨリ發スル文書アルモ官文書ト云フヲ得ス云々之ヲ要スルニ村會ノ決議書郡參事會ノ認可書云々ノ記入ハ虚偽ニシテ偽造罪ヲ構成スルモノトスルモ之ヲ發スル處ノ官署公署ニアラサルヲ知ラハ官文書ト云フ可カラサルハ勿論ナリト云フニアレトモ○原判決ハ村會ノ決議書郡參事會ノ認可書ヲ以テ官文書ナリト判定シタルニアラスシテ登記簿ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル點ヲ以テ官文書ヲ偽造シタリト認メタルニアルヤ明カナレハ要スルニ上告論旨ハ原判文ヲ誤解シ徒ラニ苦情ヲ唱フルモノニ外ナラサルヲ以テ上告違法ノ理由ナシ第六點ハ被告カ上告第三點後段ノ論旨ト大同小異ナレハ結局同一ニ歸スルヲ以テ右ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ第七點原院判決ハ不法ニ事實ヲ認定シタル違法アリ何トナレハ原院文ニ「鹿沼出張所ハ共有地ノ登記ニ付テモ村會ノ決議書郡參事會ノ認可書ヲ用ユル例ナリ云々」トアリ抑モ原院ハ何レノ點ニ依テ之ヲ認定セシカ該出張所ハ斯ノ如キ例ニアラサルナリ今ヤ事實ヲ辨スルトキニアラス云々然レトモ架空ノ事實ヲ捏造シ理由ヲ付スルニ至リテハ辯セサルヲ得ス云々ト云フニアレトモ○該論旨ハ要スルニ事實認定ノ批難ニ過キ

ザルヲ以テ違法ノ理由ナシ第八點原判文ニ依レハ「賣渡證書ヲ偽造シタル行爲アルモ之ヲ行使シタル所爲ナキヲ以テ無罪ヲ言渡スヘシ」トアリ然ルニ該證書ニ押捺シタル官私印ニ付何等ノ制裁ヲ與ヘサルハ違法ノ裁判タルヲ免レンス然リト雖モ原院ハ有罪トナリタル抵當證書ニ押捺シタル官私印ニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルヲ以テ無罪トナリタル證書ニ押捺シタルモノハ之ヲ問ハサルノ謂ナルヤ云々一罪ニ押捺シタル官私印盜用ト他罪ニ押捺シタル盜用罪トハ各別ニ問ハサル可ラス云々然ルニ原院ノ判決玆ニ出テサルハ違法ナリト云フニアレトモ○要スルニ本論旨ハ自己ニ不利益ノ上告ニ歸スルヲ以テ違法ノ理由トナスヲ得ス第九點回辯明書ハ第一回辯明第一點ノ趣旨ヲ敷衍スルニアレハ前ノ辯明ニ依リ了解スヘシ被告兩名ノ辯護士横田千之助カ上告趣意擴張書第一點ハ被告介五郎カ上告論旨中村會ノ決議書及ヒ郡參事會ノ認可書云々ノ點ヲ詳説敷衍スルニ過キサレハ更ニ說明ヲ與ヘス同第二第三點ハ被告佐京カ上告趣意第三點同辯明書ノ第一點ト大同小異ニシテ要スルニ該論旨ヲ詳説スルニ過キサルヲ以テ更ニ辯明ヲ下サルニ依リ先キノ説示ニ依リ了解スヘシ第四點原判決ハ山林書入證ヲ以テ本件斷罪ノ資料ニ供シタリト雖トモ本件ノ證據書類中山林書入證ナルモノナシ然ルニ原院カ斯ル虚偽ノ證據ニ基キ判決シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○訴訟記録ヲ查スルニ押收金品目錄書ニ地所書入借用證書一通ト記載シアリ而シテ該證書ハ即チ原判決ニ掲グル處ノ山林書入借用證書ナルコトハ登記簿原本ニ載シ明ナリ因テ原院判決ハ虚偽ノ證ヲ採リタル如キ違法アルコトナシ第五點文書偽造行使罪ヲ構成センニハ偽造及ヒ行使ノ所爲二者何レカ有形的ニ加功シ

タル事實ナカル可ラス而シテ被告介五郎ハ原判決ノ認メタル事實ニ由ルモ登記簿ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルコト及ヒ是ヲ登記所ニ備ヘ置キタル事ニ付キ二者何レニモ有形的ニ加功シタル事實ナク全ク被告佐京一人ノ所爲ナルコト明カナリ然ルニ原院カ此事實ヲ認メナカラ被告介五郎ヲ刑法第二百三條第一項ニ問擬シタルハ擬律錯誤ナリト云フニアレトモ○原判決ニ被告等ハ共謀上佐京ニ於テ右ノ偽造ヲ爲シタルノ事實ヲ明認シアレハ自カラ手ヲ下サルモ共謀者タルノ責ヲ免カル、能ハサル勿論ナリトス因テ上告論旨ハ其理由ナシ第六點原判決ハ刑法第四十三條第一號同第四十四條ヲ適用シ山林公證文書ヲ没収セラレタリト雖トモ該文書ハ前第四十三條第一號ニ該當スヘキモノニアラス是則擬律錯誤ナリト云フニアレトモ○偽造證書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナルニ依リ原院カ前條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ニシテ違法ニアラス

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治二十八年十二月六日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私書偽造行使等ノ件

明治二十八年第一二三四號  
 明治二十八年十二月九日宣告

○判決要旨

公署公吏ノ印ヲ偽造シ並ニ公文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ刑法第二百六條ニ則リ一ノ重キニ從ヒ一罪トシテ處斷スヘキモノトス從テ公印偽造罪ニ付公訴ヲ提起シタルトキハ公文書偽造罪モ亦其公訴ニ包括セラル、モノトス

(參照) 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第二二) 百六條

第一審 大阪地方裁判所 第二審 廣島控訴院  
 被告人 山田末次郎

右私書偽造行使詐欺取財公署公吏ノ印及ヒ私印偽造使用被告事件ニ付明治二十八年十月二日廣島控訴院ニ於テ本院ノ移送ニ因リ被告ノ控訴大阪地方裁判所檢事正ノ控訴及ヒ原院檢事ノ附帶控訴ヲ審理シタル末大阪地方裁判所ノ判決ヲ取消シ被告ヲ重懲役九年ニ處シ偽造ニ係ル三軒家村長ノ建築證明書地所建築書入確證ト應スル金三百九拾五圓ノ借用證書地所建物書入登記願書印鑑用各邊通四成郡三軒家村役場印各壹願ハ之ヲ沒収シ其他ノ差押物ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告人ニ於テ其全部ヲ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ



大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
 上告趣旨ハ被告カ公署公吏ノ印ヲ彫刻シタリトノ事實ハ證據トナル可キモノアラスシテ判明  
 セサルニ備置シタリト認定シ而シテ本件ニ必要ナル證人ノ喚問ヲ申請シタルニ之ヲ喚問セシ  
 シテ判決ヲ與ヘタルハ審理不盡ヲ免カレスト云フニ在レトモ○證人喚問ノ必要ナルヤ否ヤヲ  
 判斷シテ之ヲ取捨スルハ原水審官ノ職權ニ存スルモノナレハ證人喚問ノ申請ヲ採用セサルヲ  
 以テ不法ナリト爲スコトヲ得ス而シテ本論旨ノ前段ハ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ固  
 コリ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同擴張論旨ノ第一點ハ明治二十七年八月三十日付及ヒ同年十一月十日付ノ檢事ノ豫審請求書  
 ニハ被告カ四成郡三軒家村長ノ建物證明書ヲ偽造行使シタル所爲ニ付テハ豫審ヲ請求シタル  
 事跡ナシ故ニ本件ノ如キ非現行犯ノ場合ニ於テ檢事ノ請求ナキ所爲ニ付爲シタル豫審終結決  
 定ハ刑事訴訟法第六十七條ニ違反スルモノニシテ無効ニ屬シ隨テ其證明書ヲ偽造行使シタル  
 所爲ニ對シテハ公訴不受理ノ判決ヲ爲ス可キモノナルニ原院ハ公印偽造罪ト公文書偽造罪ト  
 ハ二個ノ犯罪タルコトヲ認メタルニモ拘ラス又其證明書偽造罪ニ付テハ別ニ檢事ノ起訴アラ  
 サルコトモ亦明ニ認メタルニモ拘ラス公署公吏ノ印ヲ偽造行使シタル罪ニ付檢事ノ起訴シタ  
 ル事實中ニハ村長ノ證明書ヲ偽造行使シタル所爲ヲモ包含スルモノトシ之ヲ受理シテ有罪ノ  
 判決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○公署公吏ノ印ヲ偽造シタルト公文書ヲ偽造行  
 使シタルトハ刑法第二百六條ニ依リ一ハ重キニ從ヒ一罪トシテ處斷シ分割ス可カラサルモハ

ナレハ檢事カ公署公吏ノ印ヲ偽造シタル起訴中ニハ公文書ヲ偽造行使シタル所爲モ亦包含シ  
 タルモノナリ故ニ原院ニ於テ村長ノ建物證明書ヲ偽造行使シタル所爲ニ付テモ亦檢事ハ起訴  
 アリタルモノハト爲シ之ヲ受理シ判決シタルハ相當ナリトス

同第二點ハ原列文ニ被告カ偽造ノ借用證書ヲ行使シタル場所ヲ明示セサルハ不法ナリト云フ  
 ニ在レトモ○原列文ヲ查閱スルニ右偽造ノ借用證書ハ大阪區裁判所登記官吏ニ提出シテ地所  
 建物書入ノ登記ヲ受ケタル事實ヲ明示シアルノミナラス同區裁判所近傍ノ靜ト稱スル待合茶  
 屋ニ於テ右偽造ノ借用證書ヲ被害者伊右衛門ニ交付シタリトノ事實モ亦明示シアルヲ以テ行  
 使ノ場所ヲ明示セスト論スルコトヲ得ス

同第三點ハ原列文ニ被告カ公署公吏ノ印ヲ偽造シテ使用シタル事實ヲ認メ又法律適用ノ部ニ  
 被告入カ偽造ノ村役場印及ヒ村長印ヲ使用シタル各所爲ハ云々トアリテ其使用ノ點ニ付法律  
 ノ適用アルコトヲ見ルヲ得ヘシト雖モ偽造ノ點ニ付テハ法律ノ適用アリト云フヲ得ス故ニ原  
 院ハ其罰シタル事實ニ對シ法律ヲ適用セサルモノニシテ即チ法律ノ理由ヲ欠キタルモノナリ  
 ト云フニ在レトモ○原列文ヲ查閱スルニ被告入末次郎ハ住所氏名詳カナラサル者ト共謀シ偽  
 造ニ係ル大阪府四成郡三軒家村役場印及同村長印ヲ使用シテ云々トノ事實理由ヲ付シ而シテ  
 其法律適用ノ部ニ被告入カ偽造ノ村役場印及ヒ同村長印ヲ使用シタル各所爲ハ云々トアルニ  
 依レハ被告カ他ノ偽造ニ係ル村役場印及ヒ同村長印ヲ使用シタリトノ事實ヲ認メテ處罰シタ  
 ルモノニシテ被告カ其之ヲ偽造シタリトノ事實ヲ認メテ處罰シタリトノ事實ヲ認メテ處罰シ

タルモノニアララルコト明白ナレハ要スルニ本論旨ハ被告ノ誤解ニ外ナラサルナリ  
 同第四點ハ原判文ニ「被告人カ偽造ノ村役場印及ヒ村長印ヲ使用シタル各所爲ハ明治二十三年  
 法律第百號及ヒ刑法第百九十五條ニ該當シ云々」トアリテ其次ニ於テ被告カ村長ノ證明書ヲ偽  
 造行使シタル所爲ヲ罰スルニ當リ「同法律」トノミ記載シアルニ付明治二十三年第百號ノ法律ヲ  
 適用シタルモノナルヲ將テ刑法ヲ適用シタルモノナルヲ知ル可カラス又刑法ヲ適用シタル其  
 次ニ於テ同法律ト記載シアレハ其所謂同法律トハ明治二十三年第百號ノ法律ヲ指シタルモノ  
 ト解スルヨリ寧ロ刑法ヲ指シタルモノト解スルコソ普通ノ解釋法ナリ故ニ原判決ハ罰シタル  
 所爲ニ對シ法律ヲ明示セスト云フニ在レトモ○原判文ヲ查閱スルニ刑法ノ適用ニ付テハ總テ  
 同法第何條ト記載シアリテ特ニ同法律ト記載シタルヲ觀レハ則同法律トアルハ明治二十三年  
 第百號ノ法律ヲ指シタルコト自ラ明白ナリ故ニ法律ノ理由ヲ明示セスト論スルコトヲ得ス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治二十八年十二月九日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事廳當融立會宣言ノ

○偽造紙幣收受ノ件

明治二十八年第一三二六號  
明治二十八年十二月九日當告

○判決要旨

偽造貨幣ノ行使トハ之ヲ眞貨トシテ其銘價同格ニ使用スルヲ云フ而シテ之ヲ  
 商品トシテ銘價以下ニ賣買取引シタル所爲ハ行使ニアラス(判旨第五點)

(參照) 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス(刑法第百  
 八十二條)

一

證據書類朗讀ノ法則(刑事訴訟法第百九十八條第二十九條)ハ被告人ニ於テ之  
 ヲ熟知シ且其省畧ニ異議ヲ挿マサル場合ニ適用スヘキモノニアラス(判旨第八點)

(參照) 裁判長ハ各證憑ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ意見アルヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト  
 爲ル可キ證憑ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス可シ又證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ  
 爲サシムヘシ(刑事訴訟法第  
 百九十八條)

必要ナル調書其他證憑書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證憑ノ取  
 調ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第  
 百九十九條第二項)

法定ノ場合ノ外審理手續ニ關シ特ニ檢事ノ意見ヲ徵スルヲ要セス(判旨第九點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

偽造貨幣ノ賣買○書類朗讀ノ法則○檢事ノ意見

被告 石田祥之助

辯護人 高橋庄之助

被告 秋谷富次郎

辯護人 花井卓藏

被告 本間錦十郎

右偽造紙幣收受被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十月二十三日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取  
消シ被告錦十郎祥之助富次郎ヲ各重懲役九年ニ處ス押收ニ係ル偽造日本銀行五圓兌換券拾五  
枚ハ之ヲ沒収シ空折一個ハ差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ服セスシテ被告三名ハ上告ヲ  
爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

被告祥之助上告趣旨ハ被告ニ於テハ單ニ玩弄紙幣トシテ取扱ヒタル事實ナルニ原院ハ事實ヲ  
誤認シ直チニ偽造紙幣收受ノ所爲ナリトシテ有罪ノ判決ヲ言渡サレタルハ擬律ノ不法アル判  
決ナリト云フニアリテ○只名ヲ擬律錯誤ニ藉リ原院ノ事實認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告  
ノ理由トナラス同辯護士高橋庄之助擴張趣旨第一點ハ第一審判決ハ被告八七名ニ對シ言渡シ  
内三名ハ同判決ニ服從シ既ニ確定セリ然ルニ原院判決主文ニ「原判決ヲ取消ス」トアルヨリ見レ  
原判決ノ全部即チ第一審被告八七名ニ對スル判決ヲ取消スモノト如シ之レ主文ニ欠缺アル  
ハ法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原院文ヲ閱スルニ其初メニ控訴人四名ノ姓名ヲ記シ而シ  
之カ主文ニ原判決ヲ取消ストアルニ依レハ其控訴ヲ申立タル四名ニ對スル第一審判決ヲ取  
消シタルモノナルコト辯護待タスシテ明カニシテ他ノ控訴ヲ爲サトル者ノ第一審判決ヲモ取  
消シタルカ如キ嫌ヒアルヲ見ス故ニ原判決ハ論旨ノ如キ不法アルコトナシ同第三點ハ原院文  
由ノ末段ニ「同年同月中旬頃自宅ニ於テ土屋金藏へ二十三枚位ト別ニ壹圓兌換銀券ニ紛ヲハ  
キ印刷物六百枚トテ併セ金拾圓ニ賣渡シ即チ其目的ノ如ク使用ヲ遂ケタリ」トアリテ印刷物

買ナル事實ヲ認メナカラ之カ法律ノ適用ヲ明カニセサルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレト

○原院ハ之ヲ一ノ犯即行爲トシテ認メタルニアラス只偽造日本銀行五圓兌換銀券ノ賣買上  
シタル事實ヲ叙シタルニ過キサレハ之ニ法律ヲ適用セサルハ當然ナリ加之本論旨ハ之ヲ換  
シハ原院カ之ヲ一犯罪トシテ法律ニ依リ處斷セサルヲ不當ナリトスル趣旨ニ歸シ被告ノ利  
ニ反スル申立ナルヲ以テ其何レヨリスルモ上告ノ理由ナシ

告富次郎及ヒ同辯護人生沼永保連署ノ趣意書第一ハ原院文ハ被告カ偽造紙幣ヲ收受シタリ  
ノ事實ヲノミ認メ行使ノ事實ヲ認メタル點ナキニ偽造貨幣ヲ收受シ行使シタル罪ト爲シ刑  
第百九十條ヲ適用シ判決ヲ爲シタルハ事實理由不備ノ裁判ナリト云ヒ同第二ハ原院文ハ偽  
ノ紙幣ヲ行使シタリト記シ其行使タル如何ナル者ナルヤ明瞭セス是レ單ニ法律上ノ用語ヲ  
テ被告ノ犯シタル事實ニ換ヘタル者ニシテ理由不備ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原院文  
一ハ被告富次郎ハ豫テ第一審ノ被告タリシ増淵森次郎ヨリ偽造紙幣買入方ヲ依頼セラレ數度  
ニ金十五圓四十錢ヲ受取り云々被告祥之助宅ニ於テ偽造日本銀行五圓兌換券四十八枚ヲ代金  
十圓ヲ以テ買取り内金一圓五十錢ヲ祥之助ニ拂ヒ云々森次郎宅ニ於テ同人及ヒ谷島政吉ノ兩  
名ハ二十六枚ヲ交付シ即チ其使用ヲ遂ケタリトアリテ其偽造銀券ヲ賣買シタル事實ハ即チ使  
用ヲ遂ケタルモノ即チ行使シタルモノナリト説明シタルニアレハ(原院文ニ認メタル事實即チ  
賣買カ法律上ノ行使ナリヤ否ハ別問題ニ屬スルモ)之ヲ理由ノ不備ト云フ可ラス同辯護人カ擴  
張趣旨及ヒ被告祥之助辯護人高橋庄之助カ擴張趣意第二點ノ要旨ハ原院カ被告カ偽造紙幣ヲ

判旨第五點

賣買シタル所爲ヲ以テ貨幣行使罪ニ問ヒタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ  
 ○本論旨ハ上告適法ノ理由アルモハトス何トナレハ法律ニ所謂偽造貨幣ノ行使トハ其偽造  
 ハ貨幣ヲ眞貨トシテ之ヲ銘價格ニ使用スルヲ言フニ在リテ其銘價格以下ニ於テ賣買スルカ如  
 キハ一ノ商品トシテ取引スルニ過キスシテ之ヲ行使ト言フヘキモノニアラズ今原判文ニ認メ  
 カル被告兩名ノ所爲ハ其偽造タルハ情ヲ知テ之ヲ收受シタルニ過キスシテ其間ニ代金授受  
 ハ一事アルハミナリ然ルニ原院カ此事實ヲ以テ行使ナリトシ之ニ對シ刑法第百九十九條第一項  
 カ適用シタルハ擬律ハ錯誤ナレハナリ  
 被告錦十郎カ上告趣意第一ハ被告ハ原院ニ於テ認メラレタルカ如キ偽造紙幣ヲ收受行使シタ  
 ルコトナシ然ルニ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタルハ不法ナリト云ヒ同第二ハ假リニ第一點ノ行爲  
 ナリトスルモ本件紙幣ハ偽造ニアラスシテ玩弄ナルニ原院カ偽造紙幣ト認メタルハ不法ナリ  
 ト云フニ在リテ○原院ノ事實認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラズ被告辯護人花  
 井卓藏カ擴張第一點及第二點ノ要旨ハ原判決ハ收受并ニ行使ノ點ヲ認メタレトモ情ヲ知テ  
 右等ノ所爲ヲ爲シタルヤ否ニ付テハ何等ノ認定アルコトナシ然ラハ本件ハ法律上無罪タルヘ  
 キモノナルニ原判決茲ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ假リニ前段ノ論旨不相立トスルモ情  
 ヲ知リタルノ事實ヲ認定セスシテ直チニ偽造貨幣收受行使罪ニ擬律シタルハ事實上ノ理由ヲ  
 備ヘサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判文ニ被告錦十郎ハ云々増淵藤次郎宅ニ於  
 テ同人ヨリ偽造日本銀行五圓兌換券十四枚ヲ買取リ其代金ノ内トシテ金五圓ヲ同人ニ交付シ

判旨第八點

置キ左ノ四ヶ所ニ於テ之ヲ使用シタリトアリテ被告カ其之ヲ買取リタルハ偽造ナルカ爲メニ  
 在ルコトハ行文上自ラ明カナレハ原院カ特ニ知情ノ文字ヲ加ヘサリシトテ敢テ理由ノ不備ニ  
 アラス隨テ此事實ニ對シ偽造貨幣知情行使ノ法條ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨ハ相立タ  
 ス同第三點ノ要ハ原院公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ岩船三右衛門淺賀文右衛門ノ豫審調査  
 ノ或ル部分ヲ取讀シテ問答ヲ試ミタル記事アルモ其他ノ記録ニシテ斷罪ノ料ニ供シタルモノ  
 數多アルニモ拘ハラズ全然之ヲ省畧シテ取讀ヲ爲サス從テ其意見ヲ徵シタル蹤跡ナシ然ルニ  
 之ヲ採リ斷罪ノ料ニ供シタルハ刑事訴訟法第百九十八條并ニ同法第二百十九條ノ法則ニ違背  
 セル缺點アリト信ス尤モ其取讀省畧ニ付被告ニ於テ異見ナシトノ記事アルモ被告人ニハ書類  
 ノ謄寫ヲ許サレサルカ故ニ其取讀ナキ記録ハ被告ニ於テ之ヲ知悉スルニ道ナク隨テ其辯解ヲ  
 爲スノ方法アルコトナクレハ其異存ナシトノ答辯ヲ以テ直チニ前記法條ヲ適用シタリト云フ  
 ヲ得サルハ勿論ナリト云フニアレトモ○刑事訴訟法第百九十八條同第二百十九條ハ共ニ審理  
 手續ノ規定ナルモ被告ニ於テ其證據トナルヘキ書類ヲ知悉シテ異議ナキ場合ト雖トモ尙ホ形  
 式上必ス之ヲ取讀シタル上意見ヲ問フヘシトノ法意ニハ非ルナリ本件ハ如ク被告人及ヒ其利  
 益ノ保護者タル辯護人ニ於テ取讀省畧ニ異存ナキ旨申立タルハ其知悉シタルカ爲メナルヘキ  
 ハ勿論ナレハ原院カ取讀ノ手續ヲ省キ審理ヲ進行シタルモ敢テ不法ト爲ス可ラス又被告ハ證  
 據書類ヲ知悉スルニ道ナシトノコトナレトモ被告ハ第一審ニ於テ一切ノ證據書類ヲ取聞ケラ  
 レ之ニ對シ意見ヲ述ヘタル事跡アルノミナラス一審以來同一ノ辯護人ヲ自撰シ居リタルニ依

判旨第九點

レハ之ヲ知ルノ機會ヲ有シタル者ニシテ之ヲ知ラスト論定スルヲ得サルナリ又原院カ其證據書類ニ付特ニ被告ノ意見ヲ徵セザリシハ朗讀省署ニ付フノ結果ナルモ裁判長ハ仍ホ被告ニ陳述ノ機會ヲ與ヘタルコト公判始末書ニ徵シ明カナレハ原院審理手續ハ論旨ノ如キ不法アルニアラヌ其第五點乃至第七點ハ朗讀省署ヲ不法ナリトシ反復論難スルニアレトモ其不法ナラサルコトハ前說明ニテ了解スヘキニ付キ一々其論旨ヲ掲ケテ再說スルノ要ナシ同第八點ノ要ハ第四乃至第七點ノ論旨不相立トスルモ原院カ朗讀省署ニ付檢事ノ意見ヲ徵セサルハ不法ナリト云フニアレトモ○法律ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カヘキコトヲ要シタル場合ハ外審理手續ニ關シ檢事ノ意見ヲ要スヘキモハニ非ルハミナラズ其手續上異議アラハ檢事ハ即時申立ルヲ得ヘカ又朗讀ヲ必要トスルモハハ之カ請求ヲ爲スヲ得ヘキカ故ニ原院カ檢事ノ意見ヲ聽カザリシトテ敢テ不法ニアラス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條同第二百八十七條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

被告第十郎カ上告ハ之ヲ棄却ス

被告祥之助富次郎ニ對スル原判決ハ之ヲ破毀シ直チニ本院ニ於テ判決ス

原田祥之助  
秋谷富次郎

原判決ノ認メタル事實ニ依リ被告兩名ノ所爲ヲ法律ニ照スニ兌換銀行券條例第十二條刑法第百九十條第二項同百八十二條第一項同第百八十四條ニ該當シ無期徒刑ヨリ三等ヲ減シ輕懲役

六年以上八年以下ノ範圍ニ於テ處斷スヘキモノトス依テ被告祥之助ヲ輕懲役八年ニ被告富次郎ヲ輕懲役七年ニ處ス

其他ハ原判決ノ通りタルヘシ

明治二十八年十二月九日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武備立會宣旨ス

○毆打創傷ノ件

明治二十八年第一三二八號  
明治二十八年十二月九日宣旨

○判決要旨

所持ナル言詞ハ所有ノ意味ヲ包含ス

第一審 靜岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 荒井源四郎 辯護人 松田道夫  
石川甚作

右毆打創傷被告事件ニ付明治二十八年十月十八日東京控訴院ニ於テ靜岡地方裁判所カ被告ヲ重禁錮八月ニ處シ犯罪供用ノ短刀ヲ沒收ス公訴費用金六圓三拾錢ノ内三圓拾五錢ヲ負擔セシムト判決シタルニ服セス被告ヨリ控訴シタルヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ

所持ノ證據

被告カ上告趣意書ハ單ニ原判決ハ全部不當ニ付破棄アラシトテ請願ストアルノミニシテ  
 其不當ノ理由如何ヲ供セサルモノナルヲ以テ上告ノ理由ト爲ラス  
 被告辯護士松田道夫石川甚作カ上告趣意書ノ第一點ハ凡ソ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收ス  
 ルニハ犯人ノ所有ニ係ルカ若クハ所有者ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得サルコトハ刑法第四十  
 四條ノ規定スル所ナリ而シテ原判決ニ被告ハ所持ノ短刀ヲ以テ撃合云々トアリテ其短刀ハ上  
 告人ノ所有物タルコトヲ云ハス是レ原院ニ於テモ該短刀ノ所有者ハ上告人ニアラスシテ他ニ  
 在ルコトヲ認メタルモノト云ハサルヘカラス加之證人鈴木恆吉ノ豫審調書ニ依レハ該短刀ハ  
 恆吉ノ所有物ニシテ上告人ノ所有物ニアラサルコト明白ナリ然ルニ原院カ之ヲ沒收シタルハ  
 不法ナリト云ヒ其第二點ハ假リニ原院ハ之ヲ上告人ノ所有物ナリト認定シタルモノトスルモ  
 沒收ハ一ノ附加刑タルヲ以テ之カ沒收ヲ言渡ニ方リテハ上告人ノ所有物タルコトヲ明カニセ  
 サルヘカラス然ルニ何等ノ説明ヲ與ヘス單ニ犯罪供用ノ短刀ハ之ヲ沒收ストノミ言去リタル  
 ハ理由ヲ附セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○所持ナル言詞ハ普通語ニ於テ所有ハ意  
 味ヲ包含スルモノナルヲ以テ原院ハ被告カ其所有ハ短刀ヲ以テ犯罪ハ用ニ供シタルコトヲ認  
 メタルモノナリ故ニ原判決ハ沒收ス可カラサル短刀ヲ沒收シタル不法ナク亦カ其所有物タル  
 理由ヲ附セストハ不法ナシ  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照ラシ本案上告ヲ棄却ス  
 明治二十八年十二月九日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治二十八年第一三六六號  
明治二十八年十二月十日宣告

○判決要旨

屋外ノ竊盜罪ハ贓額五圓内外ノ區別ニ依リテ法律ノ適用ヲ異ニス從テ其價格  
 ナ明示セサル判決ハ不法ナリ

(參照) 家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未ダ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタ  
 ルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス(明治二十三年法律  
 第九十九號第一條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 宮城控訴院  
 被告人 武田末吉

右末吉カ強盜被告事件ニ付明治二十八年十一月二日宮城控訴院ニ於テ大審院ノ移送ニ係ル東  
 京地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告末吉ヲ重禁錮  
 二年ニ處シ監視六月ニ付ス公訴裁判費用ハ被告人ノ負擔トスト言渡タル第二審ノ判決ヲ不法  
 ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長犬塚盛藏ハ答辯書ヲ差出タリ因テ刑事訴訟法第二  
 百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
 上告ノ要旨原院ハ證人ノ陳述ヲ採用シテ被告ノ所爲ヲ竊盜ナリト認定シテ其證人ノ陳述

ニ依リ、贓金五圓未滿、屋外ニテ犯シタル竊盜ナリ、然ラハ、明治廿三年法律第九十九號第一條ヲ適用セラルヘキモノナルニ、原院カ刑法第三百六十六條及同第三百七十六條ヲ適用處斷セリ、レタルハ、疑律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ、○因テ原院文ヲ查スルニ、被告ハ云々、東京市芝區新橋停車場ノ廣場通行ノ際、小島定次郎カ活字四百個計ヲ風呂敷ニ包ミ、携帶セルヲ見テ、金錢ナラント思考シ、不圖惡意ヲ生シ、同人ノ風呂敷ニ竊取シタリトアリ、テ、即チ屋外竊盜ノ事實ヲ認め、アルモ、其贓品ハ價格五圓以上ナルヲ否ヤ、ハ、判示ナシ、抑モ、家屋外ハ竊盜罪ハ、贓額五圓内外ハ區別ニ依リ、法律ハ適用ヲ異ニスルモノナレハ、其價格ハ判文上明示セサル可ヲサルモノナルニ、原院判決ハ右必要ナル事實ヲ判示セシメシテ、贓額ハ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ヲ適用處斷シタルハ、即チ事實ハ明示チ欠キタルモノニシテ、法律ハ當否ヲ鑑査スルニ由ナキ不法ハ判決タルヲ免レサルモノトス、已ニ此點ニ於テ破毀ノ原由アリト認メタル上、他ノ上告論旨ニ對シテハ、一々說明ヲ與ヘス

以上ノ理由ナルヲ以テ、刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ、原判決ノ全部ヲ破毀シ之ヲ廢館控訴院ニ移ス

明治二十八年十二月十日大審院第二刑事部公延ニ於テ、檢事安居修職立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治二十八年第一三七〇號  
明治二十八年十二月十日宣告

○判決要旨

公判始末書整頓ノ後之ヲ作成シタル書記契印ノ遺脱ヲ覺知スルモ、其補足ヲ爲スヲ許サス

法律ハ補足ノ契印ヲ以テ有効トセス

(參照) 官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎業ニ契印スヘシ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカル可シ(刑事訴訟法第一項)

第一審 安波津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 北村彌吉 辯護人 安東敏之

右私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付、明治二十八年十一月十五日名古屋控訴院ニ於テ首渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シ、原控訴院檢事長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ、刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護士安東敏之ノ上告趣意第一點ハ、原院ノ公判始末書中五枚ト六枚トノ間ニ契印ナシ之レ刑事訴訟法第二十條ニ違背シタルモノナルヲ以テ之ニ依テ下シタル第二審ノ判決ハ不法ナリト云フニ在リ、○依テ公判始末書ヲ閱スルニ、其五枚ト六枚トノ間ニハ現ニ契印アリト雖モ、其契印

ハ、始末書、整頓ノ際之ヲ遺脱シタルモノニシテ、上告趣意書提出ノ後、該始末書ヲ作製シタル原院書記加藤重三郎ニ於テ、上告趣意書ヲ閱シ、始末書其契印ノ遺脱ヲ覺知シ之ヲ補足シタルモノナルコトハ、同書記カト上告書類ニ添附シタル書面ニ依リ明カナリ、然ルニ公判始末書ハ一旦之ヲ整頓シタル上ハ其始末書ヲ作製シタル書記ト雖モ契印ノ遺脱其他ノ闕缺ヲ補足スルヲ得ヘカラス、故ニ假令之ヲ補足スルモ其効ナシ、然レハ本件第二審ハ公判始末書ハ契印ノ遺脱ニ依リ刑事訴訟法第廿條ニ違背シタル無効ノモノナルヲ以テ、原判決ハ審判ノ適法ナルヤ否ヤヲ鑑査スルニ由ナキ不法ヲ死イカルモノトス、既ニ此點ニ於テ破毀ノ原由アリト認メタルニ依リ他ノ上告論旨ニ對シテハ逐一説明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ大阪控訴院ニ移ス

明治二十八年十二月十日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○盜贖故買ノ件

明治二十八年第一三九號  
明治二十八年十二月十日宣告

○判決要旨

親屬相盜ハ身分ニ依リ其罪ヲ論セサルニ止マリ所爲自體ハ當然竊盜罪ヲ構成スヘキモノトス

親屬相盜ノ場合ニ於テ其竊取品ヲ買受ケタル者ハ盜贖故買罪ヲ以テ論ス

(參照) 祖父母父母夫妻子孫及ヒ配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其ノ財産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニアラス若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス(刑法第三百七十七條)

強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三百九十九條)

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院  
被告人 菅野ヤス 辯護人 丹野 潔

右菅野ヤスカ盜贖故買被告事件ニ付明治二十八年十月三十日宮城控訴院ニ於テ福島地方裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ審判シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告辯護人丹野潔ヨリ上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

親屬相盜ノ所爲○親屬相盜ノ故買



上告ノ要旨原判決ニ於テ被告ニ有罪ノ所爲アリトセシハ第一審ニ於ケル相被告人大友ミサカ其父大友安吉方ヨリ竊取セシ絹繭ナルコトヲ知テ之ヲ買受ケタリト云フニアリ然ルニ右ミサカ竊取ノ所爲ハ被告ヤス並ニ菅野ソキノ竊取ノ所爲ト共ニ證據不充分トシテ第一審ニ於テ各無罪ノ言渡アリ其判決確定シタリ故ニ大友ミサカ竊取ノ所爲ナキニ至リタルヲ以テ從テ其犯罪ナキニ依リ被告ヤスノ買受ケタル絹繭ハ贓物ニ非サルヤ明カナルニ第一審判決ハ同事實ニ對シ後段ニハ其所爲ナシトシ其前段ニ於テハ其所爲アリトシタルハ理由ノ齟齬ナリ然ルニ原院ニ於テモ其事實ヲ認メ控訴ヲ棄却シタルハ第一審判決ト同ク不法タルヲ免カレヌ況ンヤ大友ミサカ竊取ノ所爲ナシトセシ第一審判決已ニ確定シタルニ尙ホ其所爲アリトシタル原院ノ判決ハ罰スヘカワサル所爲ニ對シ刑ヲ適用セシモノナレハ疑律ニ錯誤アルモノナリト云フニ在ルモ○訴訟記録ヲ査閱スルニ本件ハ被告ヤスニ對シ大友ミサカ其父大友安吉方ニテ竊取シタル品ナルコトヲ知テ絹繭ヲ買受ケタリトノ公訴アリタルニ止マリ大友ミサカ竊取ノ所爲ハ父子間ノ竊取ナルヲ以テ檢事ヨリ起訴セサリシモノナリ而シテ第一審ニ於テ大友ミサカニ對シ無罪ヲ言渡シタルハミサカ菅野ソキヲ數度シテ菅野幸吉方ノ物品ヲ竊取セシメタル別個ノ事件ニシテ毫モ本件ニ關係ナキモノナリ其理由ハ第一審判決文ヲ通讀スレハ一目瞭然タリ又刑法ニ於テ親族間互ニ財物ヲ竊取シタル者竊盜ヲ以テ論セサルハ身分ニ依リ其罪ヲ論セサルニ止マリ其所爲ハ竊盜タルコト勿論ナルニ付情ヲ知テ其竊取ハ物品ヲ買受ケタル者ハ盜贓故買ヲ以テ論スヘキモノトス故ニ本件ニ付大友ミサカ竊盜罪ノ起訴ナキモ被告ヤスニ對シ盜贓故買

ノ罪アリトシ刑法第三百九十九條第四百條ヲ適用シ刑ヲ言渡シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ點ナシ上告論旨ハ第一審判決文ヲ熟覽セス且法律ノ誤解ニ出テタルモノニシテ總テ適法ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治二十八年十二月十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○公證文書偽造及詐欺取財ノ件

明治二十八年第一三二一號  
明治二十八年十二月十二日宣告

○判決要旨

偽造ノ借用證書ヲ禁制品ニアラストシテ還付ノ言渡ヲナシタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アルヲ免レス然レトモ其判決ヲ破毀シテ沒收ノ言渡ヲナストキハ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス(判旨第二點)  
書類朗讀ノ法則(刑事訴訟法第二百十九條)ハ畢竟被告人ノ意見辯解ヲ徵スルノ主趣タルニ外ナラス從テ其ノ省畧ニ異議ナキ上ハ特ニ之ヲ朗讀スヘキ必要ナシ(判旨第四點)

沒收ノ言渡○書類朗讀ノ法則

書類朗讀ノ法則ハ不必要ナル場合ニ於テ之ヲ省畧スルコトヲ是認ス(同上)  
書類朗讀ノ法則ハ朗讀ノ省畧ヲ以テ例外トセス(同上)

(參照) 判事ハ被告事件ニ付被告人ヲ訊問ス可シ必要ナル調書其他證憑書類ハ書記ナシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證憑ノ取調ヲ爲ス可シ若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢事民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證憑ヲ取調フルニ及ハス(刑事訴訟法第十九條)

第一審 靜岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 瀧本太次郎 辯護人 花井卓藏

右太次郎ニ對スル公證文書偽造及詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年十月十四日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ受理シ審理ノ未原判決ハ之ヲ取消ス被告ヲ輕懲役六年ニ處ス押収ノ書類ハ總テ各差出入ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ  
被告太次郎上告趣意第一ハ要スルニ被告ハ曾テ原院ノ認メタルカ如キ犯罪行為ヲ爲シタルコトナシ其第二ハ要スルニ架空ノ如五款二十歩ノ一筆ヲ加筆シタルハ被告ノ所爲ニアラスト云フニ在リテ○共ニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシテ上告適法ノ理由トナラス  
辯護人花井卓藏上告趣意擴張第一點ハ偽造若クハ變造ノ證書ハ法律上ノ禁制物件トシテ刑法

判旨二第點

第四十三條第一ニ則リ没収スヘキモノナリ然ルニ原院ハ押収ノ借用金證書ハ法律ノ禁制品ト論スヘキモノニアラストレハ刑法第四十三條第一ニヨリ之ヲ沒收シタルハ不當ノ判決タルヲ免カレスト判決シ變造ニ係ル借用金證書ハ之ヲ還付セリ右ハ明カニ擬律ノ錯誤ニシテ大審院ノ先例ヲ無視シタル判決ナリ而シテ此申立ハ被告人ノ不利益ニ歸スル論旨ナリトシテ排斥セラレタルカ如キ先例モアルヤニ覺フ然レトモ被告人上告ノ目的ハ單ニ原判決ノ破毀ヲ要求スルニ在リテ而シテ大審院ノ與ヘタルノ所謂利益ナル判決モ亦原判決ノ不法ヲ匡正シ之ヲ破毀スルノ一事ニ過キサルヘシ固ヨリ進ンテ實體上ノ不利益ヲ鑑査セラルトニアラスト況ンヤ破毀ノ判決ハ刑罰通算ニ關シ實體上ノ利益アルニ於テオヤ果シテ然レハ此申立ハ決シテ被告人ノ不利益ニ歸スル論旨ニアラスト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ原院カ本件ハ借用金證書ハ刑法第四十三條第一ニヨリ之ヲ沒收シタルハ不當ノ判決タルヲ免カレスト說明シタルハ本論旨ハ如ク擬律ノ錯誤タルヲ免カレスト雖モ本論旨ニ基キ原判決ヲ破毀スルトキハ刑事訴訟法第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ直ニ本院ニ於テ判決ヲ爲サハルヘカラス其判決ヲ爲ス以上ハ本件ハ證書ハ刑法第四十三條第一ニ依リ沒收ハ處分ヲ爲サハルヘカラス即チ實體ニ於テ被告ニ不利益ノ言渡ヲ爲スニ至ル故ニ本論旨ハ結局被告ニ不利益ナル趣旨ナレハ上告適法ハ理由トナラス其第二點ハ原院ハ巡查波田野代治郎ノ告發書藤曲重吉岸澤利十郎ノ豫審調書及ヒ第一審ニ於ケル右兩名ノ陳述ヲ錄取シタル公判始末書云々ニ依リ其證憑充分ナリト判決セリ然ルニ原院公判始末書ニ依レハ裁判長ハ單ニ證人岸澤利十郎及藤田重吉カ一審廷ニ於テ供述シ

タル證言ノ幾部ヲ摘讀シ問答ヲ試ミタルニ過キス而シテ其他ノ調書并ニ書類ニ付テハ全然之ヲ省畧シテ朗讀ヲ爲サス從テ又其意見辯解ヲ徵シタル形迹アルコトナシ而シテ輒ク之ヲ探テ斷罪ノ料ニ供シタルハ刑事訴訟法第九十八條并ニ同法第二百十九條ノ法則ニ違背セル缺點アルモノト信ス但公判始末書中裁判長ハ記録ノ朗讀ハ省略シテ異存ナキヤナ問ヒ且ツ其記録ニ付辯解アラハ辯解スヘク云々ト告知シタル記事アルモ右ハ單ニ摘讀ニ係ル乃チ芹澤藤曲兩人ノ證言ヲ記載シタル第一審公判始末書ト解釋スヘキヲ至當トス何トナレハ被告人ハ讀聞カセラレサル調書ニ付辯解ノ爲シ得ヘキ道ナケレハナリ而シテ又省略ニ付セラレタル調書ハ被告人ニ於テ法律上之ヲ知悉スルニ道ナク從テ其辯解ヲ爲スノ方法アルコトナケレハナリ被告人ハ書類ノ謄寫ヲ請求スルノ權ナク而シテ又豫審調書ハ被告ニ讀聞カスヘキモノニシテ示スヘキモノニアラストハ最近ノ判例ニ依リ之ヲ徵スヘシ果シテ然ラハ被告人ハ公廷ニ於テ讀聞カセラレサル書類ハ元ヨリ之ヲ知り得ヘキ道ナキヤ明カナリ是故ニ朗讀ノ省略ニ係ル書類ニ付辯解ヲ求ムルモ之ヲ爲スノ方法ハ絶テアルコトナシ依テ右記録云々ノ文字ハ當然右二名ノ證言ヲ記載セル始末書ノミト解釋スルノ外ナシト云フニ在レトモ

〇原院公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ記録ヲ摘讀シテ被告人ヲ訊問シタル處アリタル後更ニ押取ノ書類ヲ示シテ辯解ヲ求メ尙ホ進ンテ記録朗讀ノ省略ニ付異存ノ有無ヲ辯護人及ヒ被告人ニ問ヒシニ何レモ異存ナキ旨ヲ答ヘ而シテ其記録及ヒ示シタル各證據物ニ付テ辯解ヲ促カシタル事迹明カナレハ其手續順序ニ依テ之ヲ視ルニ裁判長カ被告人ニ意見辯解ヲ徵シタルハ單ニ利十郎重吉ノ第一審廷

ノ供述ノミニ止マラス本件ノ證據ト成リ居ル處ノ一切ノ書類ニ付キ其意見辯解ヲ徵シタルモノナルコト明カナレハ原院決ハ本論旨ノ如ク被告人ノ意見辯解ヲ徵セサル證據ヲ斷罪ノ用ニ供シタル不法ノ廉アルコトナシ實第三點ハ原院カ本件ニ付證據トシテ採容シタル調書并ニ書類ノ朗讀ヲ省略シタルハ不法ナリ何トフレハ必要ナル調書其他ノ證據書類ハ必ラス書記ナシテ之ヲ朗讀セシムヘシトハ刑事訴訟法第二百十九條ニ於テ明カニ規定セル所ニシテ絶テ其手續ノ省略ヲ是認シタル法條アルコトナケレハナリ而シテ法定ノ要件ハ裁判官并ニ被告人ノ合意ニヨリテ省略スルコトヲ得ヘシトセハ刑事訴訟法中各般ノ場合ハ悉ク之ヲ省略シ得ヘシト論結セサルヘカラス果シテ然レハ審理訊問ヲ省畧シテ直チニ裁判ヲ言渡スコトヲ得ルカ如キノ奇觀ヲ呈シ結局刑事訴訟法ハ机上ノ空文トシテ其用ヲ爲ササルニ畢ラン耳法律豈如此ノ非理ヲ認メンヤ然リ而シテ原院ハ本件ニ付其朗讀ヲ省畧シ置キナカラ直チニ芹澤利十郎藤曲重吉ノ豫審調書並ニ其他ノ書類ヲ探テ罪證ニ供シタルモノニシテ刑事訴訟法第二百十九條第二項ノ法則ヲ無視シタル不法アルモノト信ス朗讀省畧ニ異議ナカリシトノ點ヲ以テ本論旨ヲ排斥セラレタル判例アリト雖モ刑事訴訟法第二百十九條末段ノ律意ニ依レハ朗讀ノ省畧ハ被告人ノ自白アリタル場合ニ限り其他ノ場合ヲ包含セサルヤ瞭然タリ其第四點ハ強行法ノ規定ハ應用法ノ規定ト異リ最モ嚴正ノ適用ヲ爲スヘキモノニシテ些ノ用捨ヲ爲スナ許サス而シテ其用捨ヲ爲スニハ必スヤ例外ノ規定アルヲ要ス是レ法理上動カスヘカワサルノ定則タリ刑事訴訟法ハ強行法ナリ而シテ其規定ハ必要ナル調書其他必要書類ノ朗讀ヲ爲スヘキ旨ヲ明示セリ

而モ同法中曾テ一ノ例外アルヲ發見セス然レハ原院カ證據書類ノ朗讀ヲ省畧シタルハ明カニ  
 右ノ法則ヲ無視シ擅ニ法定要件ノ用捨ヲ爲シタル不法アルモノト言ハサルヘカラス其第五點  
 ハ成文ノ法律ハ不文ノ例外ヲ認メス然ルニ若シ原院ノ爲シタル朗讀省畧ノ處措ヲ以テ不法ニ  
 アラストモハ刑事訴訟法ナル成文ノ法律ハ明カニ其成典以外ニ不文ノ例外アルコトヲ認メタ  
 ルモノニシテ又裁判官自ラ不文ノ例外ノ立法ヲ爲シタルモノト言ハサルヘカラス如此ハ一面法  
 理ノ定則ニ背キ一面立法權ノ範圍ヲ侵シタルモノニシテ最モ背法ノ太甚シキモノト信ス然レ  
 ハ即チ原院ノ爲シタル朗讀省畧ノ處措ハ此點ニ於テモ亦不法越權タルヲ免レズ其第六點ハ契  
 約ハ公法ヲ動カスノ力ナシ而シテ本件書類朗讀ノ省畧ニ異議ナカリシカ爲メ之ヲ省畧シタル  
 ハ裁判長ノ喚諾ニ對シ被告人ノ應諾シタル契約ノ結果ナリ然レトモ公法タル刑事訴訟法ノ規  
 定ハ私ノ合意ヲ以テ左右スルコトヲ得サルヲ論テ俟タス從テ被告人ニ於テ承諾スルモ法律上  
 遂ニ何等ノ効力アルヘカラス一步ヲ進テ論スレハ被告人自ラ進ンテ省畧ノ申立ヲ爲スモ裁判  
 長ハ尙ホ且之ヲ朗讀セシメサルヘカラス是故ニ原院ノ爲シタル朗讀省畧ノ處措ハ被告人ノ承  
 諾アリタルニモモ依然不法タルヲ免カレスト云フニ在リテ○各個獨立ノ理由トシテ原院ノ  
 書類朗讀省畧ノ手續ヲ批難スルモ其第四第五第六點ハ刑事訴訟法第二百十九條ノ解釋ヲ其第  
 三點ノ論旨ノ如クシテ初メテ理由アル論旨トナルヘキモノトス如何トナレハ第四點第五點ノ  
 趣旨ハ書類朗讀省畧ハ同條ノ解釋ヲ第三點ノ如クシテ始メテ例外トナルヘキ其第六點ノ趣旨  
 モ亦然レハナリ而シテ同條ハ必要ナル圖書其他ハ書類ハ朗讀ヲ規定シタルハ畢竟被告ノ意見

判旨第四點

ヲ述ヘ辯解ヲ爲スニ便ニスルニ外ナラサレハ其意見ヲ述ヘ辯解ヲ爲ス爲メ殊ニ朗讀ヲ要セサ  
 ル場合ニ在テモ尙ホ必ス之ヲ爲サシムヘシトハ法意ニテハサルコトハ本院ハ既ニ屢々判示セ  
 シ處ナリ本件ニ於テ原院カ其省畧ニ異存ナキヤ否ヤヲ問フタルハ即チ朗讀ヲ省畧スルモ辯解  
 等ニ差支ナキヤ否ヤヲ確メタルモノニシテ其異存ナシトハ答ハ朗讀ヲ要セシテ意見ヲ述ヘ  
 辯解ヲ爲スニ差支ナシトハ意ニ外ナラズ原公判始末書ヲ見ルニ裁判長ハ記録及ヒ前ニ示シタ  
 ル證據物ニ付テモ尙辯解アラハ辯解ス可ク云々旨ヲ告知ス被告答何モ御坐リマセヌトアリテ  
 其辯解スルコト之レナキ旨ノ答ハ辯解スルハ道ナシトハ意ニアラスシテ辯解スル事柄ハ之レ  
 ナキ旨ヲ答タル意ナルコトハ明瞭ナリトス故ニ此點ニ於テハ原院ノ證據調手續ハ擴張論旨第  
 三點ノ如キ不法アルコトナシ既ニ刑事訴訟法第二百十九條ノ法意右ノ如ク論旨第三點ハ適法  
 ノ理由ナキ以上ハ書類朗讀ノ省畧ハ論旨第四點ハ如何同條ノ規定ヲ無視シタリト云フヘカ  
 ス同條ハ朗讀省畧ヲ全然禁止シタルハ法意ニ非サル已上ハ第五點ハ論旨ハ如何朗讀省畧ヲ例  
 外ナリト云フヘカラス又同條ハ法意必要ナラサル場合ニハ之ヲ省畧スルコトヲ禁止セサルカ故  
 ニ原院ハ之ヲ省畧シタルモノニシテ第六點ハ論旨ハ如何裁判長ト被告人トノ合意ニ依テ省畧  
 シタルニアラサルナリ必竟スルニ以上ノ論旨ハ刑事訴訟法第二百十九條ハ法意ハ誤解ニ基カ  
 りモノニシテ殊ニ書類朗讀省畧ヲ是認スル已上ハ審理訊問ヲ省畧シテ直チニ裁判ヲ言渡ス下  
 得ルニ至ルヘシトハ論旨ハ如何キハ論理ヲ顛倒シタルモノト云フヘシ其第七點ハ右第三點乃至  
 第六點ノ論旨不相立トスルモ刑事訴訟法第二百十九條末項ノ律意ニヨレハ書類朗讀ノ省畧ニ

付テハ少クトモ被告人ノ外檢事ノ意見ヲ徴シ其異議ノ有無ヲ聞クヘキ筋ナリト信ス假リニ同條ノ律意ハ自白ノ場合ニノミ適用スヘキノモノト解釋シ書類朗讀省署ノ斷例ハ被告人ノ既ニ承知セル書類ナレハ之ヲ省署スルモ差支ナシトノ主趣ナリト解釋セン歟辯護士ハ仍且檢事ノ意見ヲ徴スヘキ筋ナリト信ス何トナレハ刑事訴訟法ハ公訴事件ニ原被兩造ノ當事者アルコトヲ認メ或ル法定ノ場合ヲ除キ兩々ノ有スル法律上ノ地位關係ヲ以テ互ニ一様ナリトスレハナリ然ルニ一方ノ被告人ニノミ意見ヲ聞キ他方ノ原告官ニハ意見ヲ徴セス直チニ其手續ヲ省署シ以テ重大ナル證據調ヲ忽諸ニ付シ一方ノ對手ニ重ク一方ノ對手ニ輕ク結局原被兩造ノ當事者ヲ認メタル刑事訴訟法ノ精神ニ反スレハナリト云フニ在レトモ○檢事ニシテ若シ其手續ニ對シ異議アルトキハ異議ノ申立ヲ爲スヘク又論告ニ必要ナル書類ノ朗讀ヲ要スルトキ職權上其請求ヲ爲スヘキヲ以テ殊ニ其朗讀省署ニ付キ檢事ノ意見ヲ聞ハサルモ不法ト云フヘカラス右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十二月十二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○貨幣偽造行使ノ件

明治二十八年第一三四四號  
明治二十八年十二月十三日宣告

○判決要旨

同質ノ貨幣ヲ變更スルノ所爲ヲ變造トシ他質ノ貨幣ヲ改削シ水銀ヲ鍍スル等ノ所爲ヲ偽造トス

(參照) 内國通用ノ金貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第百八十二條)

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 中田和三郎 辯護人 磯部四郎

右貨幣偽造行使被告事件ニ付明治二十八年十一月七日東京控訴院ニ於テ甲府地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告和三郎ヲ重禁錮二年ニ處シ監視六月ニ付テ偽造ニ係ル銀貨一個ハ之ヲ沒収シ其他ノ押収品ハ各差出入ニ還付シ公訴裁判費用金ハ被告人ノ負擔トスト旨渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ

被告ノ上告趣意第一點ノ要旨ハ本案偽造ノ銀貨タル被告ハ其情ヲ知テ受取リタルコトナク且偽造タルコトヲ知テ行使シタルコトナシ假リニ原院ノ認ムル如ク之ヲ行使シタルモノトスルモ其情ヲ知テ收受シタルモノニアラス何トナレハ被告ハ其賭場ニ於テ受取リ又其賭場ニ於テ

行使シ殊ニ夜分ノコトナレハ甚モ其貨幣ノ眞偽ハ知レサルモノナレハナリト云フニ在レトモ  
 ●凡ソ上告ハ法理上ノ違反アルニアラサレハ其理由ト爲ヌテ得サルモノトス上告論旨ハ前掲  
 ノ如ク原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ適法上告ノ理由アル  
 コトナシ

其第二點ハ第一審ニ於テ檢事ノ起訴ハ二月十八日ナリ被告カ豫審判事ノ取調ヲ受ケタルハ二  
 月十六日ナリ而シテ本案ハ非現行犯ニシテ現行犯ニアラス故ニ不法ノ豫審ナリ該調書ヲ斷罪  
 ノ證ト爲シタル原判決モ亦不當ナリト云フニ在レトモ ●本案訴訟記録ヲ査閱スルニ被告ニ對  
 スル第一審裁判所檢事ノ起訴ハ明治二十八年二月十三日ナルコトハ其豫審請求書ニ於テ明瞭  
 ナリ故ニ被告ニ對スル豫審訊問ハ適法ナルヲ以テ其調書ヲ採テ斷罪ノ證トナスモ違法ニアラ  
 ス況ンヤ原院ハ被告ニ對スル豫審調書ヲ斷罪ノ證ト爲シタルコトナキニ於テオヤ

其第三點ハ原院ハ銀貨偽造ノ刑ヨリ減等シタルモ半錢銅貨ノ半ノ字ヲ二十トシ之ニ水銀ヲ鍍  
 シ二十錢ノ銀貨ト爲シタルモノナレハ銀貨偽造ニシテ刑法第百八十二條第二項同第百九十條  
 同第百九十三條ヲ適用スヘキモノナルニ原院カ偽造ノ刑ヨリ減等シタルハ不當ナリト云フニ  
 在レトモ ●鑄造トハ同貨ノ貨幣ヲ變スルハミチ云フ本件ハ如キ他貨ノ物ヲ以テ銀貨ト爲スカ  
 如キハ所謂偽造ナリ故ニ原判決ハ不當ニアラス

其第四點ハ原院ニ於テ證據物件ヲ被告ニ示シテ辯解ヲ爲サシメス且其利益トナルヘキ證據ヲ  
 差出スヘキ皆知サ爲サトルハ不當ナリト云フニ在レトモ ●原院ノ公判始末書ヲ査閱スルニ證

據物件ヲ被告ニ示シ之カ辯解ヲ爲サシメタルコトハ勿論利益トナルヘキ證據提出ノ告知ヲ爲  
 シタルコトヲ明載シアリ故ニ此論旨モ適法ノ理由ニアラス

辯護士磯部四郎ノ上告趣意ハ原判決文ニ被告和三四郎ハ半錢銅貨ノ半ノ字ヲ二十ト作シ之ニ水銀  
 ヲ鍍シ二十錢銀貨ヲ偽造シタルモノナル情ヲ知テ其一箇ヲ住所氏名知レサル者ヨリ受取リ置  
 キ明治二十八年一月三十一日北巨摩郡江草村小澤源右衛門隱宅ニ於テ三井清三郎外數名ト賭  
 博ヲ爲シタル際該偽造ノ二十錢銀貨一箇ヲ賭シ敗北シテ之ヲ三井清三郎ニ交付シタルモノト  
 ストアリ此事實ハ刑法百九十條ノ犯罪ヲ成スモノニアラス貨幣ノ行使トハ其貨幣ニ依リ行使  
 者ニ於テ其對價物ヲ所得スルニ至ル權利行爲ナラサル可カラス然ルニ被告カ三井清三郎ニ右  
 貨幣ヲ交付シタル所爲ハ決シテ權利行爲ト云フヘキニ非サルヲ以テ右貨幣ヲ賭シタルハ一箇  
 ノ玩具ヲ賭シタルニ外ナラス然ルニ此行爲ヲ以テ貨幣行使ノ所爲トナシ刑法第百九十條ノ規  
 定ヲ適用セラレタルハ法律ヲ不當ニ適用セラレタル違法アリト云フニ在レトモ ●原判決文  
 スルニ原院ハ偽造ニ係ル二十錢銀貨ヲ二十錢トシテ行使シタル事實ヲ認メタルモノニシテ一  
 箇ノ玩具ヲ行使シタルコトヲ認メタルモノニアラス故ニ原院カ刑法第百九十條ヲ適用シタル  
 ハ相當ニシテ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ナシ

其上告趣旨擴張書ノ要旨ハ原判決書ニ被告トシテ取調ヘテ受タル掛川仲次郎ノ豫審調書ト明  
 示セラレタリ而シテ其調書ノ執レノモノナルヲ殊ニ記載セラレタル所ナキヲ以テ總テノ豫審  
 調書ヲ採用セラレタルヤ明カナリ然レトモ掛川仲次郎方第一回ノ豫審調書ヲ閱スルニ明治二

十八年二月十五日附ナリ然ルニ同人ニ對スル豫審請求書ヲ閱スルニ明治二十八年二月十八日ノ事ナリ而シテ右事件ハ現行犯罪ニ非サルヲ以テ二月十五日ニ於テ豫審判事カ被告トシテ取調ヲ爲シタルハ豫審請求ナキ以前ニ於ケル審理ナルヲ以テ其書類ハ豫審調書ノ効ナキモノナリ然ルチ原院カ此無効ノ證據ヲ以テ斷罪ノ具ニ供セラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ豫審判事カ掛川仲次郎ニ對スル第一回ノ豫審訊問準現行犯ノ處分ニ出テタルコトハ明治二十八年二月十七日附ヲ以テ豫審判事今村虎尾ヨリ檢事ニ宛タル通知書ニ於テ明瞭ナリ故ニ假令檢事ノ起訴以前ニ係ルモ固ヨリ豫審判事ノ正當ナル職權上ニ於テ成立シタル訊問調書ナルヲ以テ決シテ無効ニ歸スヘキモノニアラス故ニ原院カ之ヲ採テ證據ニ供シタルモ違法ノ裁判ニアラス

以上説明セシ如ク上告論旨ハ總テ違法ノ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照シ本案上告ヲ棄却ス

明治二十八年十二月十二日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○強盜ノ件

明治二十八年第一三五二號  
明治二十八年十二月十九日宣告

○判決要旨

犯罪實行ノ場所ニ於テ見張ヲ爲シタル所爲ハ犯罪ノ實行ニ外ナラス

(參照) 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス(刑法第百四條)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 渡邊雄之助 辯護人 森 繁

右強盜被告事件ニ付明治二十八年十月三十日東京控訴院ニ於テ被告共ノ控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ被告兩名ヲ各輕懲役六年ニ處シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シ原院決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告渡邊雄之助上告趣旨ハ原院ニ於テ被告ハ強盜トナルヘキ理由ナク又確實ノ證據ナキニモ拘ハラヌ被告ヲ強盜ト見做シ判決ヲ下シタルハ不當ノ裁判ナリト云ヒ被告長谷川昌次上告ノ趣旨ハ本件ニ付テハ被告ハ犯罪ノ事實ヲ知ラサルノミナラス共謀人ナリトノ證據一モ見ルヘキモノナシ然ルチ原院カ事實ノ認定ヲ誤リ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ當然破毀セラレヘキモノト信スト云フニアリテ

○右論旨ハ孰レモ原院ノ職權内ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノナレハ適法上告ノ理由ナシ

辯護士森藤上告論旨擴張被告ノ第一ハ本件被告事件ノ強盜タル所爲即チ雄之助ハ打殺スト申威シ正吉ハ金包ヲ強取シ昌次ハ見張ヲ爲シタルコトニ付テハ判決理由中共謀ノ事實ヲ認メス而シテ各自チ強盜罪ニ問擬シタルハ理由ノ不備且擬律錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○原判文ヲ閱スルニ被告雄之助ハ此上ハ正次郎ノ足ヲ踏ミ喧嘩ヲ仕掛ケ奢ラシメ若シ奢ラサルトキハ彼レカ所持金ヲ取揚ケ飲食ヲ爲サント發意シ被告昌次正吉ハ之ニ同意シ云々トアリテ其喧嘩ヲ仕掛ケ云々トアルハ即チ暴行ヲ以テ彼レノ所持金ヲ奪ハントイフノ意ニ外ナラスシテ其下文ニアル實行ノ手段モ其共謀ノ結果ニ過キサルナリ故ニ原判決ハ理由不備又ハ擬律ノ錯誤アルトナシ其第二ハ原判決ノ理由ヲ見ルニ被告昌次ハ才川小路ノ入口ニ見張ヲ爲シ居リタルニ過キスシテ昌次ノ所爲タル從犯トシ之レヲ見サル可ラサルモノナルニ原院力之ヲ正犯トシテ其刑ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○犯罪實行ハ場合ニ於テ見張ヲ爲シ居リタルハ即チ犯罪ノ實行者ニ外ナラサレハ原院カ被告昌次ヲ正犯トシテ處斷シタルハ相當ハ判決ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス其第三ハ原院カ刑法第四百條ヲ明示セシメテ被告等ヲ正犯トシテ刑ヲ科シタルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違犯セシ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○原判決ハ正犯タルノ事實ヲ認メ之ニ相當スル法條ヲ適用シアレハ總則ニ掲グルル第四百條ヲ明示セサリシトテ不法ノ判決ト云テ得ス其第四ハ犯罪ノ情狀ニ依リ同時ニ其刑ヲ加重減輕スルトキハ其前後ニ依リテ科スル處ノ刑ニ輕重ノ關係アルヲ以テ刑法第九十九條ヲ適用シ以テ之ニ準據セサルヘカラス然ルニ原判決ハ加重減輕ニ方リ該條ヲ明示セサルハ刑事訴訟

訴訟法第二百三條ニ反シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○原判決ニ於テ事實理由ノ部ニ認メタル被告ノ所爲ニ相當スル各法條ヲ適用シテ本刑ヲ定メ其本刑ヨリ一等ヲ酌減シタルコトヲ明示シアレハ加減順序ヲ規定シタル刑法第九十九條ヲ適用スルノ要ナシ故ニ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十二月十九日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○謀殺ノ件 明治二十八年第一三六一號  
 明治二十八年十二月十九日宣告

○判決要旨

現行犯ノ場合ニ於テ司法警察官カ職權ヲ以テ命スル鑑定ニハ宣誓ヲ爲サシメサルヲ以テ適法トス

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 星野清次郎 辯護人 宮古啓三郎

右謀殺被告事件ニ付明治二十八年十一月四日東京控訴院ニ於テ前橋地方裁判所カ被告ヲ死刑

現行犯ノ鑑定



ニ處スト言渡シタル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル  
 第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ  
 大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ  
 被告ノ上告趣意原院ハ被告カ適モ關係ナキ事實ヲ不法ニ誤認シ被告ノ口供チ一モ採用セス警  
 察ノ調査ノミヲ採テ斷罪ノ證トシ有罪ノ宣告ヲ與ヘラレシハ違法ナリト云フニ在レトモ○此  
 論旨ハ法律上原承審官ノ職權ニ任シタル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ批難スルモノニシテ毫モ適  
 法上告ノ理由アルコトナシ  
 辯護士宮古啓三郎ノ上告理由擴張ノ要旨原院ハ醫師内海省三ノ鑑定書ト題スル書面ナルモノ  
 ヲ斷罪ノ證據トナセリ然レトモ此鑑定書ハ警部中西正信ノ鑑定命令ニ依リ醫師内海省三カ訊  
 問モナク又宣誓ヲ爲サシテ作成シタル違法ノモノナレハ元來無効ノモノナリ然ルニ原院カ  
 之ヲ斷罪ノ證據ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○本案訴訟記録ヲ査閱スルニ本案ハ現  
 行犯ニシテ警部中西正信カ刑事訴訟法第四百十七條ニ基キ職權ヲ以テ命シタル醫師内海省三  
 ハ鑑定書ナルコト明カナリ此場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシメサルヲ違法トス故ニ該鑑定書ハ適  
 法ニ成立タルモノニシテ無効ハモノニアラス從テ之ヲ採テ斷罪ノ證ト爲シタル外決モ亦々  
 違法ニアラス  
 以上說明セシ如ク上告論旨ハ總テ其理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照ラシ本案  
 上告ヲ棄却ス

明治二十八年十二月十九日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○私印私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十八年第一三三〇號  
 明治二十八年十二月十九日宣告

○判決要旨

豫審終結決定書ニ掲ル所ハ豫審判事ノ意見ニシテ確定ノ事實ニアラス(判旨第  
 四點)

日曜日ニ公訴ヲ提起スルコトヲ禁シタル法律ナシ(判旨第七點)

第一審 新潟地方裁判所相川支部 第二審 東京控訴院

被告人 今井仁佐吉 辯護人 宮古啓三郎  
 森田茂市 伊三郎

右私印私書偽造行使詐欺取財被告事件新潟地方裁判所相川支部ノ判決ニ對スル控訴ヲ審理ノ  
 末明治二十八年十一月一日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告仁佐吉ヲ重禁錮二年六月ニ  
 處シ罰金二十圓ヲ附加シ一年ノ監視ニ付シ前發ノ刑重禁錮一年監視一年ニ通算シ被告茂市伊  
 三郎ヲ各重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ十月ノ監視ニ付ス押収ノ委任狀一通ハ沒收シ其  
 他ノ帳簿書類ハ各差出入ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告共ノ連帶負擔トスト言渡シタル判決ニ  
 豫審終結決定書ノ性質○日曜日ノ公訴

服セシメシテ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告仁佐吉カ上告趣意書ノ要旨第一本件ニ付市橋榮造ノ父カ百圓ノ金額ヲ持來リ殘金二百圓ハ百圓ツト二度ニ相渡スヘキ旨ヲ以テ被告仁佐吉ニ仲裁ヲ依頼シ荒木靈助妻カ右仲裁ノ爲メ數回被告ヲ呼ヒニ來リタルコトアルニ付同人ヲ證人トシテ喚問セラレン事ヲ請求シタルニ原院カ謂レナク此申請ヲ却下シ被告ニ有罪ヲ宣告セラレタルハ違法ナリト云ヒ同第二本件ニ偽造ナリトスル印影ハ相川支部ノ民事訴訟上眞實ノ印ナリトノ鑑定人ノ鑑定アルニ拘ハラヌ原院カ漫ニ偽造印ナリト判定セラレタルハ最モ不法ノ判決ナリト信スト云ヒ同第三ハ原院ニ於テ告發書又ハ豫審調書ヲ示サレンコトヲ乞ヒタルニ之ヲ示サス判決アリシハ不當ナリト同第四ハ火藥取締規則違犯ニテ罰金五圓ニ處セラレタルハ原院カ之ヲ犯數ニ加ヘ三犯ト爲シタルハ法律ニ背キタルモノナリト云フニ在レトモ

證人喚問ノ要不要ヲ判別シテ申請ヲ許否スルハ一ニ事實裁判官ノ職權ニ存スルカ故ニ原院カ被告ノ申請ヲ採用セザリジトテ之ヲ不法ト云フヲ得ヌ又鑑定人ノ鑑定ハ事實認定上ノ一材料ニ過キスシテ裁判所ハ之ニ拘束セラルヘキモノニ非ラザレハ原院カ諸般ノ證據ニ參照シテ鑑定入ノ意見ニ反シタル認定ヲ下タシタリトテ決シテ不法ニアラス要スルニ本論旨ハ原院ノ事實認定ヲ非難スルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス

眞第三ノ告發書及ヒ豫審調書ヲ示サレ度トノ請求ヲ爲シタリトノ事ハ公判始末書中之ヲ繰スヘキ記載ナク反リテ被告カ記錄朗讀ノ省略ヲ承認シタル記載アレハ此論訴ハ謂レ

判旨第四點

ナントス眞第四ノ罰金ハ輕罪ノ刑ナレハ火藥取締規則違犯ヲ原院カ輕罪ノ犯數ニ加算シタルハ固ヨリ當然ノコトナリトス上來説明ノ如ク被告仁佐吉ノ論旨ハ總テ不相立

被告伊三耶カ上告趣意ノ要旨第一ハ豫審決定書ニハ偽造ノ委任狀ヲ提出セサルト記載シアルニ拘ハラヌ判決書ニハ偽造ノ委任狀ヲ提出シタリト記載シ豫審ト公判ト事實矛盾シ事實未タ確定セサルニ刑ヲ適用シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ

豫審終結決定書ニハ其口頭辯論ハ際右偽造ハ委任狀ヲ提出セルハミナラス云々トアリテ提出セタルトハ記載シアル假ニ豫審決定書ニ掲グル所ト原院認定ノ事實ト相違ハ點アリトスルモ決定書ニ掲ル所ハ豫審判事ハ所見ニシテ固ヨリ確定ノ事實ト謂フ可キモノニアラザレハ原院カ其認メタル被告ノ所爲ニ對シ刑ヲ適用シタルハ當然ノ事ニシテ毫モ不法ハ點ナシ同第二ハ第一審判決主文ニ今井龜吉及ヒ被告茂ナル者ヲ記載シアルモ本件ニ毫モ關係ナキ者ナルニ之ヲ關係人トシテ裁判ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニアレトモ

上告ハ第二審判決ノ不法アルニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ第一審判決ニ對シ爲スコトヲ得サル者ナレハ第一審判決ニ對スル不服ハ上告ノ理由トナラス況ンヤ第一審判決ハ押収物ヲ其差出人ナル今井龜吉及ヒ被告茂市ニ對シ還付ノ言渡ヲ爲シタルニ在リテ被告伊三耶ノ利害ニ關セサル事柄ナルニ於テテヤ同第三ハ判決將本ニハ被告茂市ハ雜太郎眞野村ヨリ竹田ニ渡ル工事用ノ砂利運搬ノ受負ヲ爲シタルカ如ク記載シアルハ事實ノ錯誤ニシテ同人ハ雜太郎三宮村大字三宮ヨリ同郡眞野村大字吉岡ニ渡ル工事用ノ砂利取り人夫ノ提出ノミノ受負ヲ爲シタルモノト信スト云フニアリテ

原院

判官第七點

ノ職權ニ存スル事實認定ヲ非難スルニ過キサレハ固ヨリ上告ノ理由トナフス同第四ハ第一審  
 裁判所ニ於テハ「民事訴訟進行中明治二十八年三月十日當裁判所檢事ヨリ訴訟中止ノ請求ニ因  
 リ中止シタリ」ト記載シアルモ當日ハ日曜日ニシテ公暇ナレハ素ヨリ職務ヲ取扱フヘキ日ニア  
 ラス然レニ此日ニ當リ職務ヲ行フハ故意ニ非サレハ爲シ能ハサルナリ斯ノ如キ公平ヲ失ヒタ  
 ル檢事ノ公訴ハ違法ノ手續ナルニ之ヲ採用シ判決ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニアレトモ  
 ○是亦第一審判決ニ對スル不服ナレハ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス況ンヤ日曜日ニ公訴  
 ナ提テスルコトヲ禁シタル法律ハ規定アルニ非レニ於テホヤ同第五ハ證人渡邊啓藏第一回ノ  
 豫審調書及ヒ巡查坂内時作外一名ノ告發書ノ朗讀ヲ請求シタルニ裁判長ハ採用セサリシ爲メ  
 被告等ニ於テ何ノ辯解ヲモ爲スコト能ハサリシナリ即チ公判手續ニ違背シタル不法ノ判決ナ  
 リト云ニ在リ○然レトモ原院公判始末書ヲ閱スルニ被告ヨリ右ノ如キ請求ヲ爲シタル事跡ナ  
 キノミナラス被告ハ反リテ記録ノ朗讀書畧ニ異存ナキ旨ヲ申立テ又記録ニ付辯解モナキ旨申  
 立テ居ルニ依レハ本論旨ハ甚々謂レナシトス同第六ハ公訴ノ原由ハ已ニ消滅シタルニ拘ハラ  
 ス事實ニ相當セサル法律ヲ適用シテ刑ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○何  
 カ故ニ公訴ノ原由消滅シタリト爲ス乎其理由ヲ辯明セサルヲ以テ之ヲ知ルニ由ナキモ一件記  
 録ヲ查スルニ斯ノ如キ事由アルヲ見ス又原院カ認メタル被告ノ所爲ニ對シテ相當ノ法律ヲ適  
 用シ以テ刑ノ言渡シヲ爲シアルハ原院判決ハ論旨後段ノ如キ不法アルコトナシ同第七ハ豫審ニ  
 於テハ判事カ大聲ニテ嚇シ或ハ辭言ヲ以テ訊問ヲ爲シタル爲メ各書類ニ就キ十分ノ意見ヲ陳

述スルヲ得ス又原院ニ於テモ佐々木廣吉ノ印譜中ニ押捺シアル偽造ノ印影即チ犯罪ノ原因タ  
 ル證據物ヲ示サレサルニ依リ十分ノ意見ヲ陳述スルコトヲ得サリシト云フニアリテ○其前段  
 ハ豫審訊問手續ニ關スル不服ナレハ上告ノ理由トナラス其後段モ押收ノ證據書類一切ヲ示シ  
 テ被告ノ辯解ヲ求メタルコト原院公判始末書ニ徵シ明カナレハ論旨ノ如キ不法アルコトナシ  
 同第八ハ第一審判決ニ於ルカ如ク偽造ノ委任狀ヲ提出シ證人トシテ出廷ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲  
 シタリトセハ山田茂平宛ノ入夫拂出帳三冊モ偽造トシテ没収セサル可ラス何トナレハ右三冊  
 ノ帳簿ハ本件訴訟ノ原因オレハナリ然ルニ右三冊ノ帳簿ヲ真正ノモノトシテ差出人ニ還付ス  
 ル以上ハ之ニ從ヒ提出シタル委任狀モ真正ノモノ又證人トシテノ陳述モ事實ヲ陳述シタルモ  
 ノト斷定セサル可ラス然ルニ事蓋ニ出テス事實ニ相當セサル法律ヲ適用シタルハ不法ノ裁判  
 ナリト云フニアリテ○第一審判決ニ對シ不服ヲ訴フルモノ、如シ其シ之ヲ第二審判決ニ對ス  
 ル論訴ナリトスルモ事實認定ノ批難ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス同第九ハ第  
 二審裁判所ニ於テ言渡シタル判決ハ私印私書偽造行使詐欺取財未遂ノ二罪俱發ナルニ刑法第  
 百條ヲ適用シ同條末項ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニアレトモ○原院文ニ第一第二ノ罪俱  
 發ニ付同法第百條ヲ適用シ犯狀重キ第一ノ罪ニ從ヒ各處斷スヘキモノトアリテ同法末項ニ則  
 リタルコト明カナレハ特ニ其末項ト掲ケサルモ法律ノ理由ニ於テ欠ル所ナシ同第十ハ原院判  
 決謄本ニハ宣告ノ年月ノミヲ記載シ其日ヲ記載セサルハ法律ノ規定ニ背キタル不法アリト云  
 フニ在レトモ○原院決原本ニハ明治二十八年十一月一日トアリテ宣告ノ年月日ノ記載アリ

本ハ誤ラ日ヲ脱シタルニ過キサルヘキヲ以テ其シ謬本ニ錯誤アリトモ原判決ノ瑕道トナラス  
 被告伊三郎ノ論旨モ亦總テ理由ナシ  
 被告茂市カ上告趣意ノ要旨ハ原判決ニ依レハ被告ハ恰モ潮來仁太郎ヨリ砂利運搬方ヲ請負ヒ  
 市橋榮藏ヨリ受負ヒタルモノニ非ルカ如ク認定セラレタレトモ被告ハ全ク市橋榮藏ト直接請  
 負契約ヲ爲シタルニ在レシ同人ニ係リ人夫賃金並ニ物品代金ノ請求ヲ爲シタルハ決シテ不當  
 ニ非ス委任狀ノ偽造又ハ印影ノ偽造ハ被告カ毫モ預リ知ラサル所ニシテ又斯ク認ムヘキ證憑  
 トテハ之アラサルニ原院ハ法律ニ違背シテ不法ニ事實ヲ認定シ被告ニ有罪ノ判決ヲ下タサレ  
 シハ不服ナリト云フニアリテ〇原院ノ職權ニ存スル事實ノ認定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサ  
 レハ上告適法ノ理由トナラス同辯護人宮古啓三郎擴張辯明書ノ要旨第一ハ原院カ委任狀ヲ沒  
 収スルニ刑法第四十三條第二號同第四十四條ニ照シ沒収シト判決シ刑法第四十三條ノ本文ヲ  
 適用セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇原院文ニ「偽造ノ委任狀一通ハ犯罪ノ用ニ供シタル  
 モノナルヲ以テ同法第四十三條第二號云々ニ照ラシ沒收シ」トアルニ依レハ第四十三條ノ本條  
 ナ包含シテ適用シタルコト認メ得ヘキカ故ニ之ヲ不法ト爲スニ足ラス同第二ハ原院カ被告ヲ  
 以テ詐欺取財未遂ノ罪ヲ犯シタルモノト爲シタルハ市橋榮藏ニ係リ人夫賃金並ニ物品代價金  
 請求ノ訴訟ヲ起シタルニ檢事ノ請求ニヨリ訴訟中止トナリタルカ故ナリ然レトモ詐欺取財ナ  
 ルモノハ被害者カ尋常ノ注意智識ヲ以テ拒キ得サル場合ナルヲ要ス訴訟ニ由テ騙取セントス  
 ルニ公明ノ裁判官アリ又被告ニ抗辯ノ道アリ尋常ノ注意ヲ以テ何人モ之ヲ拒キ得ルモノナレ

ハ之ヲ以テ詐欺取財ニ問フ可ラサルニ原院カ被告ニ詐欺取財ノ罪アリト爲シタルハ違法ナリ  
 ト云フニ在レトモ〇原院文ニ掲載ノ事實ハ即チ詐欺取財ノ事實ナレハ被告ニ對シ詐欺取財ノ  
 罪アリト判定セシハ當然ノ事ナリトス同第三ハ原院ハ藍原藤吉若林泰藏ノ豫審調書ヲ斷罪ノ  
 證憑ニ供セリ然レトモ該調書ニハ何故ニ証人トセスシテ參考人トシテ同入等ヲ訊問シタリヤ  
 其事由ヲ記載スヘキニ毫モ是等ノ事ヲ掲ケサルハ違法ナレハ之ヲ斷罪ノ證憑ニ供セシハ亦違  
 法ナリト云フニ在レトモ〇豫審判事カ訴訟關係人ノ訊問ヲ爲スニ際リ參考人トシテ訊問スルニ  
 ハ其何カ故ニ參考人トシテ訊問スルヤ之カ事由ヲ明示スヘシトノ法律ノ規定アルニ非サレハ  
 藍原藤吉若林泰藏ノ豫審調書ニ其事由ノ明示ナシトテ毫モ不法ニアラス隨テ原院カ右參考人  
 ノ調書ヲ斷罪ノ證憑ニ供セシハ不法ニアラス辯護人ノ論旨モ亦上告適法ノ理由ナシ  
 右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却ス  
 明治二十八年十二月十九日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

〇恐喝取財ノ件

明治二十八年第一三三八三號  
明治二十八年十二月十九日宣告

〇判決要旨

司法官試補ノ權能〇越權ノ意見

司法官試補ハ地方裁判所以上ノ檢事ヲ代理スルノ權能ナシ  
司法官試補ニシテ地方裁判所支部ノ檢事代理トナリ公判ニ立會ヒ事實及法律  
ノ意見ヲ陳述スルハ越權ノ行爲ナリトス

(參照) 司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢  
事ヲ代理セシムルコトヲ得(裁判所構成法  
第十八條三項)

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 小林 惣左衛門 辯護人 高木益太郎 田澤鎮太郎

右恐喝取財被告事件ニ付明治二十八年十一月二日東京控訴院ニ於テ第一審裁判所檢事彦坂秀  
ノ控訴並ニ原院立會檢事小宮三保松ノ附帶控訴ヲ審理ノ末第一審檢事ノ控訴ヲ理由アリトシ  
第一審カ被告ニ對シ無罪ヲ言渡シタル判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮一年罰金十圓監視六月  
ニ處シ原院檢事ノ附帶控訴ハ之ヲ棄却セリ私訴ニ付テハ被告ノ控訴ヲ審理ノ末第一審カ被告  
ハ小林惣多小林昇平ト連帶シテ金百五十圓ヲ民事原告人ニ償却スヘシトノ判決ヲ認可シ被告  
ノ控訴ヲ棄却セリ右公訴ノ判決ニ對シテハ被告ヨリ私訴ノ判決ニ對シテハ辯護士田澤鎮太郎  
ヨリ上告ヲ爲シ原院判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事並ニ民事原告人ハ答辯書ヲ差出サス  
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ニ從ヒ審判スルコト左ノ如シ  
辯護士高木益太郎田澤鎮太郎連署ノ上告辯明書ハ司法官試補ハ地方裁判所ノ檢事代理トナリ

同裁判所ノ輕罪事件ニ付審議スルノ資格ナシ然ルニ本件第一審公判始末書ニ依レハ司法官試  
補和田健兒ニ於テ長野地方裁判所上田支部檢事代理トナリ本件ニ付事實及ヒ法律上ノ意見ヲ  
述ヘタルノミナラス證人ニ對シテ訊問ヲナシタル事跡アリトス然レトモ右等ノ陳述ハ越權ノ  
行爲ニ屬スルモノナルヲ以テ之ヲ無効ノモノト云ハサル可ラス依テ如此無効ノ陳述ヲ錄取シ  
タル公判始末書全部ヲ原院カ斷罪ノ資料ニ採用シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ〇依テ  
按スルニ司法官試補ハ裁判所構成法第十八條第三項ニ基キ司法大臣ハ命ニ依リ區裁判所ハ檢  
事ヲ代理スルコトヲ得ルモ地方裁判所以上ノ裁判所ニ於ケル檢事ヲ代理スルコトハ法律ハ許  
ス所ニアラズ然ルニ本件第一審公判始末書ヲ閱スルニ司法官試補和田健兒ニ於テ長野地方裁  
判所上田支部ノ檢事代理トナリ本件ニ付テハ事實及ヒ法律上ノ意見ヲ述ヘ又證人ニ對シテハ  
訊問ヲナシタル事跡アリテ右等ノ陳述ハ越權ノ行爲ニ屬スル無効ノモノナルニ此ハ無効ノ陳  
述ヲ錄取シタル公判始末書ノ全部ヲ以テ原院カ斷罪ノ資料ニ供シタルハ辯護士所論ハ如何カ不  
法ハ裁判タルヲ免カレヌシテ破毀スヘキ原由アルモハトス既ニ此點ニシテ破毀スヘキモノト  
認ムル上ハ其他ノ論點ニ對シ一々説明ヲ要セス

辯護士田澤鎮太郎私訴上告趣旨ノ要ハ自分ノ所爲犯罪ノ意思アルニ非サレハ民事原告人ノ賠  
償請求ニ應スヘキ義務ヲキコト當然ナリ故ニ原院カ賠償ヲ言渡タルハ不法ナリト云フニ在リ  
テ〇右論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレモノニシテ適法上告ノ理  
由ナシト雖トモ公訴ノ判決ニシテ破毀スヘキモノト認ムル上ハ從テ私訴ノ判決モ破毀ヲ免カ

レサルモノトス  
右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ本件公私訴ノ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サ  
シムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ヘ移スモノナリ

明治二十八年十二月十九日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢察岩田武儀立會宣告ス

○賭博ノ件

明治二十八年第一四〇〇號  
明治二十八年十二月二十三日宣告

○判決要旨

現行犯ノ場合ニ於テ司法警察官カ假ニ豫審處分ヲ爲スニ該リ立會人ナクシテ  
作成シタル調書ハ法律上其効ヲ有セス

(參照) 裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アル  
ヲ要ス但監獄署ニ於テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム  
ヘシ(刑事訴訟法第九十二條二項)  
第一審 浦和地方裁判所熊谷支部 第二審 東京控訴院  
被告人 落合寅市

右賭博被告事件ニ付明治二十八年十一月十四日東京控訴院ニ於テ浦和地方裁判所熊谷支部ノ  
判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告寅市ハ無罪ト言渡シタル判決ヲ  
不法トシ同院檢察長野村維章ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求セリ  
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
上告趣意ノ要旨ハ刑事訴訟法第四百七條ハ同第四百四十四條ニ依リ司法警察官ニ豫審判事ノ  
處分ヲ行フ事ヲ許シタリ此處分ヲ行フニ該リ司法警察官ハ豫審判事ノ其職權ニ付シタル制限  
内ニ於テ處分ヲ行フヘキハ無論ナルモ刑事訴訟法第二百二十九條(九十二條ノ誤ナラシ)ノ如キハ  
豫審判事ノ職權ノ使用ニ付シタル制限ニ非スシテ職權ヲ使用スル豫審廷構成上ノ制限ナリ司  
法警察官カ現行犯ヲ認知シ法律ニ許サレタル處分ヲ爲スモ其身分豫審判事ト爲リタルニ非サ  
レハ決シテ第九十二條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス司法警察官ハ元單獨ニテ職務ヲ爲スヘキ  
官吏ナレハ豫審處分ヲ行フ際ニ於テモ亦單獨ニテ處分ヲ行フヘキモノニシテ書記若クハ其他  
ノ立會人ヲ要スルコトナシ然ルニ當院ニ於テハ現行犯ノ場合ニ於テ立會人ナクシテ司法警察  
官ノ作りタル調書ハ無効ナリトシ本件ヲ無罪トシタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル失當ノ裁判ト  
思料スルニ付之ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移シ正當ノ裁判ヲ爲サシメシコトヲ望ムト云フニ在リ  
○然レトモ刑事訴訟法第九十二條ハ獨リ豫審廷構成上ノ制限ニ止マラスシテ豫審判事ノ處分  
執行上ノ規定ナリトス故ニ司法警察官カ現行犯アルヲ認知シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲ス場  
合ハ同條第二項ニ則リ立會人ヲ要スヘキハ法理上勿論ハ事ニシテ原院カ立會人ナクシテ司法

警察官ノ作リタル調書ヲ無効ナリト判定セシハ相當ニシテ法律ハ解釋ヲ誤リタルニアラス  
有既明スル如ク本件上告ハ其理由ナキニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ之ヲ棄却ス  
明治二十八年十二月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○新聞紙條例違犯ノ件

明治二十八年第一四一六號  
明治二十八年十二月二十三日宣告

○判決要旨

犯罪ノ後頒布セラレタル法律ニ因リ其刑ヲ廢止シタルトキハ其公訴權ハ當然  
消滅ス

(參照) 新聞紙條例第二十二條ニ依リ常分ノ内軍艦軍隊ノ進退及軍機軍器ニ關スル事項  
ヲ新聞紙雜誌ニ記載スルコトヲ禁ス但豫メ海軍大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニアラ  
ス(明治二十七年海軍省令第十三號)

明治二十七年海軍省令第十三號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス(明治二十八年海  
軍省令第六號)

公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ依テ消滅ス(刑事訴訟法第六條)  
犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止(同條第四號)

犯罪ノ證據十分ナラス又ハ被告事件罪トナラサルトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シ  
又第百六十五條第三號以下ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ(刑事訴訟  
法第二十四條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 石井民司 辯護人 沼田宇源太  
高橋晋三

明治二十八年十一月二十日東京控訴院ニ於テ右民司外一名カ新聞紙條例違犯被告事件ノ控訴  
ヲ審理シ被告ノ控訴ハ其理由之ナキニ付棄却スト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告兩名ハ上告  
ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告兩名辯護士沼田宇源太カ上告趣意說明書ノ要旨ハ本件ハ明治二十七年九月十三日海軍省  
令第十三號ニ依リ新聞紙條例ノ違反トナリタルモノナリ然ルニ同令ハ本年十一月廿九日海軍  
省令第六號ニ依リ廢止セラレタルモノナレハ即チ法律ノ廢止ニヨリ公訴權ノ消滅シタルモノ  
ナルヲ以テ直ニ無罪ノ裁判アルヘキモノト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ本件被告兩名ハ  
明治二十七年九月十三日海軍省令第十三號ニ違反シ明治二十八年一月一日發行ハ小國民第七  
十一號ニ海軍ハ軍機ニ關スル事項ヲ掲載シタルモノハニ付新聞紙條例第二十二條第三十一條ニ  
該當スヘキモノナリト雖トモ本案上告中明治二十八年十一月二十九日海軍省令第六號ヲ以テ  
明治二十七年海軍省令第十三號ハ之ヲ廢止セラレタリ然レハ刑事訴訟法第六條第四號ニ依リ

公訴權ハ消滅シタルモ、ハニ付免訴ハ言渡チ爲スヘキモノトス依テ第一審第二審判決ヲ取消シ  
刑事訴訟法第二百二十四條ニ照シ被告兩名ニ對シ免訴ヲ言渡ス者也  
但押収ノ雜誌一冊ハ差出人ニ還付ス

明治二十八年十二月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治二十八年第一三七八號  
明治二十八年十二月二十四日宣告

○判決要旨

辯護人ハ獨立シテ上告ノ申立ヲ爲スノ權ナシ

被告人ヨリ上告ノ申立ヲ爲シタルトキハ辯護人ノ爲シタル其申立ハ無効ニ歸

ス

(參照) 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スル

コトヲ得ス(刑事訴訟法第  
二百四十三條)

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 櫻内金治 辯護人 菅藤伊藏

明治二十八年十月二十四日宮城控訴院ニ於テ右櫻内金治カ竊盜被告事件ニ付福島地方裁判所  
ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ本訴ハ之ヲ棄却スト旨渡シタル第二審ノ判決ニ服セス  
被告金治及ヒ辯護人菅藤伊藏ハ各上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履  
行シ被告辯護士菅藤伊藏ノ辯論立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ  
本件訴訟記録ヲ査閱スルニ辯護人菅藤伊藏ハ上告申立ヲ爲シ趣意書ヲ差出シ又被告金治ハ上  
告申立ヲ爲シタルモ趣意書ヲ差出サス抑辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ルト雖既  
ニ被告本人ニ於テ上告申立ヲ爲シタル上ハ辯護人ハ代理資格消滅スルモノナレハ被告人ハ定  
期内ニ趣意書ヲ差出サハカラス故ニ其代理資格ヲキ辯護人ヨリ趣意書ヲ差出スモ其効ナ  
キモノトス而シテ本件被告人ハ上告申立ヲ爲シタルモ定期内ニ趣意書ヲ差出サハルニ因リ上  
告ハ成立セザルモノトス

右ノ理由サルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ノ之ヲ棄却ス

明治二十八年十二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス



○私書變造行使詐欺取財私訴ノ件

明治二十八年第一四〇四號  
明治二十八年十二月二十四日宣告

○判決要旨

法律適用ニ付檢事ノ意見ヲ聽カスシテ爲シタル判決ハ不法ナリ

(參照) 證憑調濟後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ付意見ヲ陳述ス可シ(刑事訴訟法第二

裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス(刑事訴訟法第

法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ(同條第

第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 工藤文之助 辯護人 高木益太郎

右私書變造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治二十八年十一月十三日宮城控訴院ニ於テ原判  
決ハ之ヲ取消ス被告工藤文之助ヲ重禁錮一年六月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視十月ニ付ス  
云々ト首渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ  
履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎上告趣意辯明書第一點ハ原院公判審理ノ際檢事ハ本件ニ付法律適用ノ意見  
ヲ述ヘタルコトナク又原院ハ右ノ意見ヲ聽カスシテ結審ヲ告ケタルハ刑事訴訟法第二百二十條  
ヲ無視シタル者ニシテ同法第二百六十九條第六號ニ該當スル破毀ノ原由アル裁判オリト云フ  
ニ在リ○依テ原院公判始末書ヲ閱スルニ上告論旨ノ如ク原院ハ法律適用ニ付檢事ノ意見ヲ聽

キタル事跡ナキヲ以テ即チ原判決ハ刑事訴訟法第二百二十條及ヒ第二百六十九條第六號ニ該  
當スル不法アルヲ免リス但此上告論旨ニ於テ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルヲ以テ其他ノ  
上告論旨ニ對シテハ一々辯明ヲ與フルノ要ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ函館控訴院ニ移  
ス

明治二十八年十二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○賣藥印紙稅規則違反ノ件

明治二十八年第一四〇五號  
明治二十八年十二月二十四日宣告

○判決要旨

賣藥規則第一條ニ所謂賣藥トハ其効能書ヲ附シタルモノ、ミチ意味スルコト  
ヲス假令之ヲ付セサルモ効能用法ヲ口授シ若クハ又他人既ニ効能書ヲ付シ  
テ販賣シ來レル賣藥ト同一ナル藥劑ヲ調製シテ販賣スルモノ、如キモ亦此  
法條ニ包含セラルヘキモノトス

(參照) 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥練藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ効能書

ヲ附シ販賣スルモノナ云フ(賣藥規則) 第一條

無鑑札ニテ營業スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ(同規則) 第二十三條

第一審 鳥取地方裁判所 第二審 大阪控訴院 被告人 櫻田定藏

右定藏カ賣藥印紙稅規則及賣藥規則違犯被告事件ニ付明治二十八年十一月十四日大阪控訴院ニ於テ鳥取地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ開席ノ儘言渡タル判決ニ對シ被告ヨリ故障ノ申立ヲ爲シ同院ニ於テ審理ノ末原判決中無鑑札賣藥營業ノ點ニ係ル一部ヲ取消シ更ニ右ニ對スル公訴點ハ無罪トス云々ト言渡タル判決ヲ不法ナリトシ原控訴院檢事長林誠一ハ上告ヲ爲シ被告ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ違審理處

檢事長上告ノ要旨ハ抑モ賣藥規則第一條ニ賣藥トハ丸藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スル者ナリトハ調製販賣者其者カ効能書ヲ貼附スヘキヲ規定シタルハ勿論ナルモ同一ノ藥名ニシテ他人己ニ調製シ効能書ヲ附シ社會ニ販賣シ來リシ者ナルトキハ其性質素ヨリ該規則第一條ニ所謂賣藥ナル事明カナリ然ルニ被告ハ他人己ニ効能書ヲ附シ販賣シ來リシニ方ノ賣藥ヲ免許ヲ得スシテ販賣シタル所爲ナル上ハ効能書ノ有無ニ關セス無鑑札ノ犯罪ヲ組成スルヤ論ヲ換タサルナリ況ンヤ本案ニ方ノ如キハ社會一般ニ其効能用法ノ普及シタルモノニテ假令効

能書ナクとも發ニ藥名アル以上ハ購買者ニ於テ聊カ介意セサル所ナリ云々若シ本院ノ判決ヲシテ眞ナラシメハ本按ノ賣藥ト同シク社會一般ニ効能用法ノ普及シ居レル千金丹万金丹精露水等ノ如キ藥名ノ記シタル袋或ハ瓶ニ容レ何人カ之ヲ調製販賣シタリトテ獨リ効能書サヘ附セザレハ之ヲ賣藥ニ非ラストセンカ果シテ然ラハ賣藥印紙モ之ヲ貼用セザルモ妨ナキニ至ラシ豈如此理アラシヤ要スルニ本院ノ判決ハ被告カ性質上賣藥ニ稱スルテリアカ葛根湯ヲ免許ヲ得スシテ無鑑札ニテ販賣シタル事實ハ認メタルモ効能書ヲ付セザルノ一點ニ因テ法律ノ支配ヲ受クヘキ者ニ非ストシタルハ該法條ヲ誤解シ且事實理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ賣藥規則ヲ案スルニ同規則第一條ニ此規則ニ稱スル所ノ賣藥トハ丸藥(中略)等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノナリ云フトアルハ法意ハ其効能書ヲ附シタルモノハ勿論假令効能書ハ附セサルモ其効能用法等ヲ口授シ又ハ他人既ニ効能書ヲ附シテ販賣シ居ル處ハ賣藥ト同一ノ藥名ヲ附シタル藥劑ヲ調製シテ販賣シタル者ハ如キハ瓶ヲ本條ハ規定中ニ包含スヘキモノトス茲ニ原判決查スルニ被告カテリアカ葛根湯ハ二方劑ヲ無鑑札ニテ調製シ効能書ハ附セサルモ各其藥名ヲ記シタル袋ニ入レ之ヲ販賣シタルハ事實ヲ明カニ認アレハ賣藥規則第一條ハ違犯ニシテ同規則第二十三條ニ依リ處斷スヘキハ當然ナルハ本院ハ判決茲ニ出テス無罪ヲ言渡タルハ要スルニ檢事長上告論旨ノ如ク疑律錯誤ノ裁判タルヲ免レザルモノトス以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ニ則リ原院判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

原院カ認メタル事實ニ依リ被告カ無鑑札賣藥營業ノ所爲ハ賣藥規則第二十三條ニ依リ罰金五十圓ニ處ス

明治二十八年十二月二十四日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺破産ノ件

明治二十八年第二四一四號  
明治二十八年十二月二十四日宣告

○判決要旨

破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニシテ詐欺ノ行爲アリト認メラレタルトキハ其宣告確定前ト雖モ公訴提起ノ權アリトス

(參照) 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一部ヲ藏匿シ轉匿シ若クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス(商法第千五十條)

商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス(一)詐欺破産ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス(二)過慮破産ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重

禁錮ニ處ス(明治二十三年法律第百一號)

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴被上告人 金子傳太郎 辯護人 平井恒之助

公訴私訴上告人 安岡金吾 辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 大脇克信

明治二十八年十一月七日大阪控訴院ニ於テ右被告人兩名カ詐欺破産事件ノ公訴私訴ニ付高知地方裁判所ノ判決ニ對スル被告等ノ控訴ヲ審判シ原公訴判決中被告金子傳太郎ニ對スル全部ヲ取消シ被告傳太郎ハ無罪トス被告安岡金吾ノ公訴判決ニ對スル控訴ハ之ヲ棄却ス被告傳太郎金吾ノ私訴判決ニ對スル控訴ハ之ヲ棄却ス第二審私訴裁判費用ハ被告兩名連帶負擔スヘシト旨渡シタル第二審ノ判決ヲ不當ナリトシ大阪控訴院檢事長林誠一ハ被告傳太郎ノ公訴判決ニ對シ上告ヲ爲シ被告金吾ハ公訴私訴判決ニ對シ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ被告傳太郎辯護士平井恒之助ノ答辯被告金吾辯護士高木益太郎ノ辯明及ヒ立會檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

檢事長上告ノ要旨ハ大阪控訴院カ被告傳太郎ニ旨渡シタル判決ノ旨趣タル公訴ハ現行又ハ既往ノ事實ニ付犯罪ヲ證明シ刑ノ適用ヲ目的トスルモノナレハ犯罪構成上其要素ニ缺ク所アル

ニ拘ハラス將來ニ於テ之ヲ補足スヘキ事實ノ生スルヲ豫想シ訴追スヘキモノニ非ス本件被告  
 カ破産宣告ヲ受ケタルハ明治二十七年十月十六日ナルモ精算人ヨリ抗告ヲ爲シ其決定ヲ受ケ  
 明治二十八年一月八日始メテ確定シタルモノニシテ檢事力起訴ノ當時即明治二十七年十月二  
 十五日ニ在テハ被告入未タ破産者ト云フヲ得ス故ニ被告ニ詐欺ノ所爲アリトスルモ破産者ニ  
 非サル以上ハ詐欺破産ノ事實ヲ構成セサルヤ明カナレハ本案起訴ニ係ル被告ノ所爲ハ罪トナ  
 ラスト云フニアレントモ苟モ破産宣告アリタルニ於テハ其ノ宣告確定セサルニ先キタテ檢事力  
 詐欺破産ノ訴追ヲ爲スハ毫モ不法ノ點ナキノミナラス本案ノ如キハ右起訴ヲ受ケ豫審取調中  
 其終結前ニ於テ破産宣告ノ確定シタルコト原院モ認ムル所ナレハ其決定ノ當時ニ於テ完全有  
 効ノ起訴ニシテ之ニ基キタル第一審判決ノ適當ナルヤ明瞭ナリ然ルニ原院カ上段ノ理由ヲ付  
 シ無罪ヲ言渡シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ上告ノ原由アリト信スト云フニ在  
 リ○依テ之ヲ審按スルニ破産宣告ヲ受ケタル者ニ對シ詐欺ハ行爲アリト認ム檢事ニ於テ詐欺  
 破産ハ公訴ヲ提起シタル時ハ假令破産宣告確定前ニ係ルト雖モ其起訴ハ無効ノモノト爲スコ  
 トヲ得ス而シテ本件ハ豫審取調中ニ於テ破産宣告確定シタルモノハナレハ第一審裁判所カ其起  
 訴ニ基因シ被告傳太郎ニ對シ有罪ハ判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ點ナキモノトス  
 然ルニ原院訴訟ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ上告論旨ハ如ク違法ハ判決タルヲ免ハス  
 被告金吾カ上告ノ要旨第一詐欺破産ノ罪ハ正當ナル破産ノ宣告アリテ始メテ成立スルモノナ  
 リ本件高知強持合資會社ノ設立ハ明治二十七年九月十日頃ニシテ同會社カ加盟者ニ拂戻金ヲ

爲ス期日ハ其最モ短キ乙種ノ分ニテ加加盟後三十日以後ナレハ其拂戻期限ハ同年十月十日後  
 ナリトス而シテ會社カ解散ヲ命セラレタルハ十月五日ナルヲ以テ會社カ營業中ニハ未タ拂戻  
 金ヲ爲ス義務ヲ生セス從テ加盟者ヨリ支拂ヲ請求サレタルヲナシ即チ會社ハ會テ支拂ヲ停止  
 シタルヲナキナリ既ニ支拂ヲ停止セシ事實ナキ破産宣告ヲ受ケタルモノナレハ此宣告ハ違法  
 ニシテ無効ノモノトス故ニ其違法ノ破産宣告ヲ基本トシ上告人ニ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ  
 疑律ノ錯誤ナリト云フニ在ルモ○高知強持合資會社カ支拂ヲ停止シタル事實ハ破産決定書ニ  
 明記スル所ナレハ支拂停止ノ事實ナシト云フヲ得ス從テ破産宣告ヲ違法ト爲スヲ得サルヤ  
 論ヲ俟タス○第二原院ハ相被告金子傳太郎ニ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ其理由ハ傳太郎ニ對スル檢  
 事ノ起訴ハ破産宣告ノ確定前ナルヲ以テ罪ヲ構成セスト云フニ在リ此理由ニ依レハ第一審ノ  
 相被告タリシ竹内永範ニ對スル起訴モ傳太郎ト同日ナルヲ以テ永範モ無罪ノ者タルコト明ナ  
 リ既ニ永範ニシテ無罪ノ者タラハ其詐欺破産行爲ヲ幫助シタリト云フ上告人ノミ檢事力起訴  
 ノ日異ナルカ爲メニ罪ヲ構成スルノ理由ナシ故ニ傳太郎ニ對スル判決適法ナル上ハ上告人ニ  
 對スル判決ハ錯誤ナリト云フニ在ルモ○被告傳太郎ニ對スル原判決ノ違法ナルコトハ檢事長  
 ノ上告論旨ニ對シ説明スル所ノ如シ又竹内永範ハ第一審裁判所ニ於テ輕懲役七年ニ處セラレ  
 其判決既ニ確定シタルモノナレハ固ヨリ無罪ノ人ナリト云フヲ得ス本論旨モ亦其理由ナキモ  
 ノトス○第三公訴判決ノ不法ナルコト前ニ陳述スル如シ此判決ニ基キタル私訴判決ノ不法ナル  
 コトハ別ニ論辯ヲ要セスト云フニ在ルモ○前ニ説明スル如ク本件公訴ノ判決違法ノ點ナキニ

因リ私訴判決モ亦適當ニシテ一モ不法ト認ムヘキモノナシ其辯明書ノ要旨第一原判決ニ於テ  
 證人門田庄三郎ノ供述ヲ以テ斷罪ノ證據トセラレタルモ同人ハ高知強持合資會社々員ニシテ  
 業務ヲ取扱ヒ居リ後同社雇人ト爲リタル者ナレハ法律ニ規定シタル本件ノ證人トナルヲ得サ  
 ル者ナルニ之ヲ證據ニ採用シタルハ違法ナリ第二同判文中證人トシテ掲載セラレタル乙政義  
 美岩田利喜馬兩人ハ同會社ノ雇人ニシテ始終會社事務取扱居タル者ナルニ其供述ヲ證據ト爲  
 シ且利喜馬ハ上告人ノ實兄ニシテ岩田家養子トナリタル者ナレハ上告人ノ親屬ナリ然ルニ右  
 兩人ノ證言ヲ採用セラレシハ違法ナリト云フニ在ルモ○本案ハ竹内永範等カ詐欺取財破産被  
 告事件ニ係リ而シテ證人門田庄三郎等ハ高知強持合資會社ノ雇人ナルモ永範等ノ雇人ニ非サ  
 レハ證人タルノ資格ナキ者ト云フコトヲ得ヌ又岩田利喜馬ハ竹内永範金子傳太郎兩名被告事  
 件ノ證人ト爲リタル者ニシテ被告金吾ノ事件ニ付證人トナリタルニ非ス故ニ原判文中「右永範  
 傳太郎ノ被告事件ニ付云々證人岩田利喜馬云々」トアリテ右利喜馬ノ證言ハ被告金吾カ事件ノ  
 證人トナシタルニ非サルヤ明瞭ナリ第三同判文中該會社ノ支店ヲ越知村外三ヶ所ニ設置シ云  
 ヲトアルモ其支店タル一件書類ニ於テ越知村外二ヶ所ナルコト明白ナルニ外三ヶ所ト記載シ  
 タルハ理由顯斷ナリト云フニ在ルモ○會社支店ヲ越知村外二ヶ所ニ設ケタルヲ外三ヶ所ト記  
 載シタルモ犯罪構成上毫モ影響ヲ及スヘキモノニ非ス假令二ヶ所ヲ三ヶ所ト誤記シタリトス  
 ルモ之ヲ以テ理由顯斷ト爲スコトヲ得ヌ其第二辯明書ノ要旨第一原判文中「掛込金ニ對シ毫モ利  
 殖ノ方法ヲ講セス云々」トアルモ該會社解散ヲ命セラレタルハ明治二十七年十月五日ニシテ越

知支店ニ於テ其業務取扱ヒタルハ一週日前後ニ過キス故ニ其掛込金拂戻期日ニ違セサル前ニ  
 於テ利殖ノ方法ヲ講スルヤ否ヲ判定スルヲ得サルモノナルニ其時季到來セサルモノニ對シ強  
 テ利殖ヲ講セスト爲シタルハ理由ノ顯斷ナリ第二同判文中「借用名義ニテ金圓ヲ引出」云々ト  
 アルモ元來會社營業ノ性質ハ金貸商ニシテ廣ク貸金ヲ爲スモノナリ其方法ハ一日一分ノ利ヲ  
 加ヘ即チ一圓ニ付毎日一錢ノ利足ニシテ貸金ヲ盛大ニシ其利足ヲ以テ加盟者ヘ利殖スルノ方  
 法ヲ設ケタルモノナリト云フニ在ルモ○總テ裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ  
 過キスシテ適法ノ理由ナシ第三同判文中「證人井上繁八ノ陳述ヲ證據トセラレタルモ右繁八ハ  
 上告人ト從弟ノ組合ニシテ證人ト爲ルノ資格ナキ者ナルニ之ヲ採用シテ斷罪ノ資料ト爲シタ  
 ルハ違法ナリト云フニ在ルモ○井上繁八ノ陳述調書ヲ檢スルニ證人ハ各被告人ト親屬等ノ關  
 係ナキ旨ヲ陳述シ式ニ從ヒ宣誓ヲ爲シタル旨ヲ記載シアリテ其證人ト爲ルノ資格アルヤ明瞭  
 ナレハ之ヲ以テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ相當ニシテ違法ノ點ナシ  
 被告金吾辯護士高木益太郎カ辯明書ノ要旨原判決ノ基本トナリタル口頭審理ハ第三回ノ公判  
 ナリ依テ其公判始末書ヲ見ルニ前回ト列席判事ニ變更アリタル事跡アリ故ニ原院ハ須ラク其  
 審理ヲ更新シ刑事訴訟法第二百九十九條第百九十八條等ノ法式ヲ踐行スヘキモノナルニ是等ノ  
 式ヲ履マズシテ直チニ本件ノ裁判ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○第三回公判始末書  
 ナ査閱スルニ裁判長曰本件列席判事ニ交代アリ最初ヨリ取調ヲ爲ス管ナルカ前回兩度ノ公  
 判始末書アルニ付之ヲ朗讀シ取調ニ代ヘント恩料ス異存ナキヤ被告兩名答異存ナシトアリテ

公判始末書ヲ朗讀シタル旨記載シテ公判始末書ヲ朗讀シテ訊問ニ代ヘタルコトハ被告人ノ承諾シタル所ニシテ又法律ニ違背シタル點ナキニ因リ訊問ノ法式ヲ履行セスト云フコトヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルニ因リ檢事長ノ上告論旨ハ正當ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ被告金子傳太郎ニ對スル公訴ノ判決ヲ破毀シ被告事件ヲ名古屋控訴院ニ移シ更ニ審判セシム被告安岡金吾ノ公訴私訴判決ニ對スル上告ハ不當ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ之ヲ棄却ス私訴上告ノ費用ハ上告人ノ負擔タルヘシ

明治二十八年十二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財私訴ノ件

明治二十八年第一二二二八號  
明治二十八年十二月二十六日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還トハ犯罪行為ニ基ケル物件自體ノ回復ヲ意味スルノミナラス犯罪行為ノ結果トシテ侵害セラレタル物權原狀ノ回復ヲモ包含ス

(參照) 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス(刑事訴訟法第二條)

第一審 橫濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

私訴 上告人 松岡 兵左衛門 訴訟代理人 日能傳太郎

私訴 被告 上告人 和田 庄藏  
和坂 茂吉  
藤長 淺吉  
吉川 敏次

右當事者和田庄藏私書偽造行使詐欺取財被告事件附帶私訴ニ付明治二十八年九月二十一日東京控訴院ニ於テ被告上告人等ノ申立タル控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス民事原告人ノ請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ民事原告人ノ負擔トスト旨渡シタル判決ニ服セス民事原告人タル長島重郎後見人松岡兵左衛門ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理判決スル左ノ如シ

上告訴訟代理人日能傳太郎上告趣意ハ本按ノ請求ハ刑事訴訟法第二條及同第四條刑法附則第五章第五十四條以下ノ規定ニ依リ當然私訴トシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ既ニ御院ノ斷例ニ於テ一定シタル所ナリ然ルニ原院カ私訴トシテ訴フルヲ得サルモノトシ本按ヲ斥ケタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ則チ刑事訴訟法第二百六十八條第二項ニ該當スル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ刑事訴訟法第二條ニ謂フ所ノ贓物ノ返還トハ單ニ物體自體ノ全部ヲ回收スル協合ノミニアラスシテ犯罪ニ依リ侵害セラレタル物權ヲ原狀ニ回復スル

贓物返還ノ意義



ニ外ナラザレハ刑事訴訟法第二條ニ依リ私訴權ノ範圍ニ屬スルモノトス然ルニ原院カ私訴トシテ請求スルヲ得スト判決シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ審按スルニ刑事訴訟法第二條ニ贓物ノ返還トアルハ單ニ犯罪行為ニ因リ他人ノ手ニ奪取セラレタル物品ノ取戻ヲ指ス者ニ非スシテ廣ク犯罪行為ニ因リ侵害セラレタル物權ノ回復ヲ意味スルモノト解釋スルハ允當ナリトス何トナレハ同シク物權ノ侵害ニシテ其全部ニ關スル場合ハ私訴トシテ其權利ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ルモ其一分ニ止マル場合ハ私訴トシテ請求スルコトヲ得セシメサルハ理由ナクレハナリ本件ハ事實ハ公訴被告人高橋倉之助カ被告ハ登記委任狀ヲ偽造シ被告ハ所有ノ地所ヲ被告ニ抵當ニ差入レ其登記ヲ受ケ即チ倉之助カ犯罪行為ニ因リ被告ハ地所カ有權ハ一分ニ侵害ヲ加ヘタリト云フニ在レハ被告ハ倉之助ニ對スル公訴ニ附帶シ右抵當登記ノ取消ヲ請求スルハ犯罪行為ヨリ生シタル侵害ヲ除去シ物權ノ回復ヲ請求スルモノニシテ即チ贓物ノ返還ヲ請求スルニ外ナラサルモノトス然ルニ原院ハ私訴トシテ刑事裁判所ニ請求シタルヲ不當ナリトシ其請求ヲ却下シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法ハ裁判所ニ免カレス而シテ此裁判ハ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ破毀ス可キハ勿論歸スル所不當ニ管轄違ヲ言渡シタルト同一ナルヲ以テ本件ハ同法第二百六十二條末項ニ準據シ原院ニ差戻シ更ニ適法ハ裁判ヲ爲サシムヘキモノトス因テ判決スルコト左ノ如シ

原判決ヲ破毀シ本件ヲ原院ニ差戻ス

明治二十八年十二月二十六日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○酒造稅則違犯ノ件

明治二十八年第一四二四號  
明治二十八年十二月二十六日宣告

○判決要旨

酒造稅則及ヒ酒精營業稅法違犯事件ニ付罰金及ヒ賣捌代金追徵ノ言渡ヲ受ケタルモノコシテ上告ノ申立ヲ爲ストキハ其十分ノ一ニ該當スル金額ヲ原裁判所書記課ニ豫納セサルヘカラス然ラザレハ其上告ハ適法ニ成立セス(明治二十八年第八二九號取引所違犯ノ件第二卷一四八頁登載參看)

(參照) 罰金及追徵ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金及追徵金ノ十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添へ原裁判所書記局ニ預置ク可シ否ヲサレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス若シ上告不當ナルトキハ大審院ニ於テ其全部又ハ幾分ヲ没入スルノ言渡ヲ爲ス可シ(明治十九年六月勅令第四十六號)

第一審 横濱地方裁判所八王子支部 第二審 東京控訴院  
被告人 田村金十郎

右酒造稅則及ヒ酒精營業稅法違犯被告事件ニ付明治二十八年十一月九日東京控訴院ニ於テ原  
稅法違犯ノ上告



判決中第一第三ノ部分ヲ取消シ被告金十郎ヲ第一ノ罪ニ依リ罰金三百十八圓七十五錢ニ處シ  
 賣捌代金三百五十五圓十七錢四厘ヲ追徴シ第二第三ノ罪ニヨリ併セテ罰金千三百九十四圓八  
 三錢七厘ノ罰金ニ處シ第二ノ賣捌代金七百七十五圓第三ノ賣捌代金百九十九圓八十四錢八厘  
 ヲ追徴スト旨渡シタル判決ニ服セスシテ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十二條ノ式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

本件ハ酒造稅則及ヒ酒精營業稅法違犯ニシテ其刑ハ罰金及ヒ賣捌代金ハ追徴ニ在ルヲ以テ第  
 二審判決ニ對シ上告ヲ爲サンニハ明治十九年勅令第四十六號ニ則リ其科セラレタル罰金追徴  
 金ハ十分ハ一ヲ原裁判所書記課ニ豫納セサル可ラス然ルニ原裁判所檢事局ハ證明ニ依レハ被  
 告カ之ヲ納付セサルコト明カナルヲ以テ上告ハ成立セサルモノトス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本上告ヲ棄却ス

明治二十八年十二月二十六日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治二十八年第一四六九號  
明治二十八年十二月二十六日宣告

○判決要旨

辯護士ハ獨立シテ上告ヲ爲スノ權ナシ

辯護士ハ被告人ニ代リ上告ヲ爲シ得ルニ過キス

(參照) 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スル

コトヲ得ス(刑事訴訟法第  
二百四十三條)

第一審 函館地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 中村彌之助 辯護人 三坂亥吉

右恐喝取財被告事件ニ付明治二十八年十二月七日函館控訴院ニ於テ被告ノ控訴及ヒ原院檢事  
 ノ附帶控訴ヲ審理シタル末函館地方裁判所ノ判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮三年ニ處シ罰金  
 二十圓監視一年ヲ附加スト旨渡シタル判決ニ對シ被告及ヒ辯護士三坂亥吉ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告ノ上告趣旨ハ被告ニ於テ竹本キヌヲ恐喝シテ金員ヲ騙取シタル覺ナシ且今泉孫吉方雇人  
 永山ツルハ二十歳未満ナルニ之ヲ證人トシテ證據ニ採リタルハ不法ナリト云フニ在テ

○右前段ノ論旨ハ原審審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ固ヨリ上告ノ理由  
 トナル可キモノニアラス又證人永山ツルハ年齢二十歳未満ナリト雖モ刑事訴訟法第二百四  
 條第一ニ規定シアル如ク證人タルノ資格ナキハ十六歳未満ノ幼者ニ限ルモノナレハ永山ツル  
 ノ如キ滿十六歳以上ノ者ハ證人タルノ資格アルコト勿論ナリ故ニ原院カ永山ツルヲ證人ノ資  
 格アルモノト爲シ其豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ固ヨリ當然ナリトス

辯護士三坂亥吉ヨリ、上告申立ヲ爲シ、其趣意書ヲ提出シタルモ、刑事訴訟法第二百四十三條ノ規定ニ依ルニ、辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ルニ過キサルモ、ハナレバ已ニ被告本人ヨリ上告ヲ爲シタル上ハ右辯護士ハ上告ハ其効ナキモハトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ總テ之ヲ棄却ス

明治二十八年十二月二十六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○囚徒逃走ノ件

明治二十八年第一三五二號  
明治二十八年十二月二十七日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二十七條ニ所謂最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所トハ既ニ適法ナル公訴ノ提起アリテ豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ云フ

現行犯ノ場合ニ於テ單ニ檢事豫審處分ヲ爲シタルノミノ事實ヲ以テ豫審ニ着手シタルモノト認ムルヲ得ス

(參照) 數個ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス(刑事訴訟法第二十七條)

第一審 福井地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 吉川伊三郎

明治二十八年十一月八日大阪控訴院ニ於テ右吉川伊三郎ノ被告事件ニ付福井地方裁判所カ管轄ヲ言渡タル判決ニ對スル檢事ノ控訴ヲ審判シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ヲ不當ナリトシ大阪控訴院檢事長林誠一ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ要旨本案原院判決ハ被告カ犯罪ノ地ハ金澤地方裁判所ノ管轄ニ屬シ其逮捕ノ地ハ福井地方裁判所ノ管轄ニ屬ス而シテ本案ニ付金澤地方裁判所管内小松區裁判所檢事ハ重罪ノ現行犯ト認メ明治二十八年六月二日豫審處分ニ着手シ福井地方裁判所檢事ハ同月八日豫審ヲ求メタルモノナレハ刑事訴訟法第二十七條ニ所謂最初豫審ニ着手シタルハ金澤地方裁判所ナルヲ以テ福井地方裁判所ハ管轄違ナリト云フニ在リ是レ原院ハ刑事訴訟法第四百四十四條ニ依リ檢事カ現行犯ノ場合ニ豫審判事ニ屬スル處分ヲナスヲ以テ純然タル豫審ト見做シタルニ基ク不法ノ判決ナリトス抑モ檢事ハ現行犯ノ場合ニ於テ豫審判事ニ屬スル處分ヲナスヲ得ト雖モ其處分ハ全ク豫審判事カ爲ス豫審ト其性質ヲ異ニスルモノニシテ唯事件緊急ニシテ豫審判事ヲ待ツノ暇ナキカ故特ニ檢事ニ豫審判事ノナスカ如キ處分ヲナスコトヲ許シ特別ノ場合トシテ其檢事ノ處分ハ有効タルコトヲ保證シタルニ過キサルナリ故ニ其處分カ豫審トナルハ檢事カ豫審判事カ豫審判事ニ送致シ豫審判事カ之ヲ引續キタル時ニアリテ公訴起リタリト云フヘキ

モノナリ故ニ其以前ニ於テハ檢事限リ之ヲ消滅セシムルコトモ得ヘク或ハ輕罪ニ於テ豫審ヲ求ムル必要ナキ時ハ直ニ之ヲ公判ニ送付スルコトモ得ヘクシテ從來ノ實際ニ徴スルニ檢事ノ爲シタル處分ニ付豫審終結ノ決定ヲ爲サシムルヲ以テモ其豫審ト區別アルヲ知ルニ足ラン又法文ニ就テ之ヲ論スルモ刑事訴訟法第四百十八條ニ「地方裁判所檢事ハ云々一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致スヘシトアリ第四百十九條ニ「地方裁判所檢事ハ云々輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタル時ハ云々トアリ檢事ノ爲シタル處分力已ニ豫審ナラハ茲ニ新ニ豫審請求書ヲ添フルハ蛇足ニアラスヤ又豫審ヲ求ムルニ不及ト思料シタル時ハトアルモ豫審ノ法文ト云フヲ得ス以上ノ理由ニ因リ現行犯ノ場合ニ檢事ノナス豫審判事ニ屬スル處分ハ其有効ナルコト猶ホ豫審判事力爲シタル場合ノ如シトノ意ニ過キス決シテ其處分力豫審ナリト云フニアラサルヤ明カナリ職テ本案ヲ按スルニ小松區裁判所檢事ハ本年六月二日豫審判事ニ屬スル處分ニ着手シ豫審書類ヲ金澤地方裁判所檢事ニ送致シタル事跡アリト雖モ金澤地方裁判所檢事ハ之ヲ豫審判事ニ送致シタル證ナシ即金澤地方裁判所ニ於テハ本件公訴ハ起ラサルモノナリ而シテ福井地方裁判所檢事ハ六月八日同裁判所ニ豫審ヲ求メタルモノナレハ本件ハ當然福井地方裁判所ニ於テ判決スヘキモノナリ然ルニ同裁判所ハ管轄違ヲ言渡シ原院ハ其判決ヲ認可シ控訴ヲ棄却シタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ之ヲ審案スルニ刑事訴訟法第七七條ニ「最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所云々トアルハ其明文ノ如ク裁判所ハ豫審又ハ公判ニ着手シ即チ公訴ハ已ニ起リタル以上ノ場合ニ付テハ規定ナルコトハ辯テ

待タスシテ明カナリ而シテ同法第四百十四條第四百十六條及ヒ第四百十七條等ニ依リ檢事又ハ司法警察官ニ於テ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シタル場合ノ如キハ之ヲ以テ直ニ公訴ノ起リタルモノト爲スヘカヲサシムルハ同法第四百十九條第二項ニ被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理不可カラサル者ト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラストアルニ依ルモ自ら明瞭ナリトス何トナレハ條文ノ裏面ヨリ見ルトキハ右豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シタル後果シテ有罪ノモノト思料シタルトキ初テ起訴ノ手續ヲ爲スヘシトハ意義ヲ包含シタルモノト解釋シ得ルハミナラス若シモ其前已ニ公訴ノ起リタルモノトセハ裁判所ノ判決ニ依ラシテ檢事ハ其事件ヲ取捨スルノ理由アルヘカヲサレハナリ然レハ福井地方裁判所カ爲シタル裁判ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス故ニ原院ハ該裁判ヲ取消シ同法第二百六十二條第二項ニ依リ本件ヲ福井地方裁判所ニ差戻スヘキ筋ナルニ原院ハ之ニ反シ金澤地方裁判所管内小松區裁判所檢事カ前掲第四百十六條ニ依リテ爲シタル處分ヲ以テ直ニ同法第二十七條ニ該當スルモノト爲シ福井地方裁判所カ本件ニ付管轄違ナリトシタル判決ヲ認可シタルハ上告論旨ノ如ク破毀ハ原由アルモノトス由テ同法第二百八十六條ニ從ヒ第一審第二審ノ判決ヲ破毀シ同法第二百六十二條第二項ヲ準用シ本件ヲ福井地方裁判所ニ差戻ス

明治二十八年十二月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盗用私書偽造行使等ノ件

明治二十八年第一四三三號  
明治二十八年十二月二十七日宣告

○判決要旨

詐欺取財罪ノ訴名ニハ委託物費消罪ヲ包含ス

第一審 大阪地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 野田義之助

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年十一月三十日大阪控訴院ニ於テ被告ヲ無罪トシ附帶控訴ハ棄却スルトノ判決ヲ爲シタルニ對シ原院檢事ヨリ上告ヲ爲シ被告ハ答辯書ヲ提出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨第一ハ公判々決ハ豫審決定以外ニ侵入スヘカラサルモノナリ本按豫審決定ノ事實ハ宅地建物造作ヲ騙取シタリト云フニ在リテ委託物費消ノ事實ニ至テリハ曾テ公判ニ附セラレタルモノニアラサルニ第一審カ委託物費消ノ所爲アルモノトシ處分シタルハ請求ナク判決ヲ爲シタルモノニ付第二審ハ第一審判決ヲ取消スカ或ハ公訴受理スヘカラサルノ言渡ヲ爲サトル可カラス然ルニ第二審カ其事實ニ立入り被告事件罪トナラストシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリトス假リニ第一審カ委託物費消ト爲シタル事實ハ公訴ニ付セラレタル宅地建物造作騙取ノ所爲ニ外ナラストセンカ同一ノ事實ニ對シ抵觸スル二個ノ判決ヲ爲シタルモノトセサルヘカラス而シテ二個ノ判決中無罪ノ點ハ既ニ確定シテ動かカスヘカラサルカ故ニ第二審ハ確定判決ヲ經タルモノトシ免訴ノ言渡ヲ爲サトル可カラス要スルニ二個ノ事實トスレハ委託物費消ノ點ニ付テハ公判ニ付セラレサルヲ判決シタルモノニ付キ第一審ヲ取消スカ或ハ公訴受理スヘカラサルノ判決ヲ爲ス可ク否ラサレハ免訴ノ言渡ヲ爲サトルヘカラスト云フニ在レトモ

○被告カ本件地所建物ノ登記ヲ受ケタル後チ之レチ小郷彌兵衛ニ賣渡シタル所爲ハ豫審終結決定書ニ於テハ該物件騙取ノ結果ナリトシタルヲ以テ之ヲ揭擧セサルモ畢竟其詐欺取財ナリトセシ事實ノ一分ナレバ公判ニ附セラレサル事件ナリト謂フヲ得ス又第一審判決ハ私印ヲ盗用シ委任狀ヲ偽造行使シ不動產ヲ騙取シタリトノ點ハ無罪トシ委託物費消罪ニ付刑ヲ言渡シ被告ハ其有罪ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタル案件ナレハ其委託物費消ノ點ニ付テハ判決確定シタルニアラス故ニ原院カ委託物費消ノ事實ニ立入り本按ノ判決ヲ與ヘタルハ相當ナリトス

○第二ハ檢事ノ附帶控訴ヲ棄却シタルモ其理由タル失當ヲ免カレヌ何トナレハ冒認販賣ノ事實ハ公判ニ附セラレタル者ニアラス又々詐欺取財ノ點ハ既ニ確定シタルカ故ニ之ヲ棄却センニハ其理由ヲ以テセサルヘカラサルニ冒認罪ヲ以テ論スルヲ得スト爲シ棄却ノ判決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ

○第一審判決ニ於テ委託物ノ費消ナリトセシ所爲即被告カ本件ノ不動產ヲ小郷彌兵衛ニ賣却シタル事實ハ公判ニ附セラレタルモノニシテ且判決ノ確定ナキコトハ前段説明ノ如シ而シテ原院檢事ノ附帶控訴ハ公判始末書ニ示ス如ク第一審判決ニ委託物費消ナリトセシ事實ハ冒認販賣ト認ムルカ妥當ナリト云フニアレハ原院カ其事實

ニ立入り冒認罪ヲ以テ論スルコトヲ得ストノ理由ヲ以テ控訴ヲ棄却シタルハ失當ニ非ス第三  
 ハ第一審ハ私印盗用私書偽造詐欺取財ノ點ニ對シ無罪ヲ言渡シ委託物費消罪ヲ以テ處斷シタ  
 ルモノナレハ第二審ニ於テ有罪ノ點ヲ不當ナリトスレハ委託物費消罪ニ關スル部分ヲ取消ス  
 可キニ却テ既ニ無罪ニ歸シタル詐欺取財ニ關スル部分ヲ取消シ更ニ無罪トナシタル委託物費  
 消ノ點ニ付テハ即トシテ論スヘカラサルノ理由ヲ附シタルノミニシテ主文ニ之ヲ明記セサル  
 ハ請求ヲ受ケル事件ニ對シ判決ヲ爲サトル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○本件ハ私書偽  
 造私印盗用詐欺取財ノ名ヲ以テ起訴セラレタルモノニシテ第一審ニ於テ委託物費消ナリトセ  
 シ事實ハ其詐欺取財ハ訴名中ニ包含ス故ニ原判決主文ニ詐欺取財ニ關スル部分ヲ取消シト掲  
 ケタルハ委託物費消ナリトセシ所爲ヲ指稱シタルコト明白ナレハ請求ヲ受ケル事件ニ判決ヲ  
 與ヘサルハ違法アリト謂フヲ得ス上告ハ其理由ナシトス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治二十八年十二月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私書變造等ノ件

明治二十八年第一四四五號  
明治二十八年十二月二十七日宣告

○判決要旨

偽造證書ヲ法廷ニ提出シテ裁判官ヲシテ受理セシメタル所爲ハ私書偽造行使  
 罪ノ既遂トス(判旨第三點)

變造證書ノ沒收ハ其變造ニ係ル部分ニ限ルモノトス從テ其證書ノ全部ヲ沒收  
 シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス(判旨第十點)

第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 秋本勘之助 辯護人 關 幸太郎 高木益太郎

明治二十八年十月二十四日宮城控訴院ニ於テ右勘之助ニ對スル私書變造私書偽造詐欺取財被  
 告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告勘之助ヲ重禁錮八月ニ處シ罰金十五圓監視六  
 月ヲ附加ス偽造及變造ノ證書各一通ハ之ヲ沒收シ公訴裁判費用ハ全部被告人ニ負擔セシムト  
 言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長犬塚盛誠ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑  
 事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

上告趣意書第一點ハ栗山福太郎宛ノ計算書ニハ本件預金殘額ハ一圓八錢ナリトアリテ全部ノ  
 辨濟ヲ受ケタルモノニアラサルコト明カナルニ原院ニ於テ右ノ計算書ヲ採テ斷罪ノ證據ト爲  
 シタルニモ拘ラス全部辨濟ヲ受ケタルモノト判示シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院  
 カ諸般ノ證據ニ依テ認定シタル事實ニ對シ徒ニ批難ヲ試ミルニ過キサルヲ以テ上告ノ原由ト  
 ナラス第二點ハ繼々陳辯スル處アルモ結局原判文第二ニ栗山福太郎ノ署名押印アル紙片云々

偽造證書ノ行使○變造部分ノ沒收

トアルノミニシテ其紙片ノ性質及記載ノ事實ヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ  
 ○判文ニ(前略)亡栗山福太郎ノ署名押印アル紙片ヲ利用シ之ヲ白紙ニ綴合セ明治廿四年六月二十五日付金百七十八圓ノ借用證書文面ヲ記載シ云々ト明示セシ上ハ私書偽造ノ事實ハ充分ニ明瞭ナルヲ以テ他ノ判決ニ必要ナシ故ニ之ヲ明示セサルモ理由不備トセス『第三點ハ偽造證書犯ノ目的ハ之ヲ使用シテ他人ヲ欺キ真正ノ證書ナリト信用セシメ始メテ行使ノ目的ヲ達シ行使既遂ノ罪ヲ構成スヘキモノナルニ原院カ偽造證書ヲ法廷ニ提出シタルモ其判決前云々ト既明シ直ニ證書行使ノ既遂罪ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○之ヲ法廷ニ提出シ且裁判官ハ受理スル所ト爲リタル場合ハ如キハ行使既遂ハ犯罪ナルコト論ヲ待タズトス』第四點ハ原院カ押收物件還付ノ旨渡チ爲サリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○右還付處分ノ如キハ固ヨリ本案ノ判決ト同時ニ之カ旨渡チ爲スコトヲ必要トセサルヲ以テ本論旨モ上告ノ原由トナラス『辯護士關幸太郎上告趣意擴張書第一ノ要旨ハ原判文第一ノ事實理由中ニ同裁判所控所ニ於テ云々トアレトモ其同裁判所トハ果シテ何レノ裁判所ヲ指シタルヤ判文上明カナラス即犯罪ノ場所ヲ明示セサル不法アルモノト云フニ在レトモ○右同裁判所トアルハ行文上聊カ穩當ナラサルノ嫌アルモ其前段花輪町ナル文詞ヲ受ケ花輪區裁判所ヲ指シタルコト自ラ明ナルヲ以テ犯罪ノ場所ヲ示サル不法ノ判決ト云フヲ得ス』第二點ハ同判文中ニ同月二十五日同裁判所ニ於テ云々トアレトモ一件記録中絶テ明治二十七年十二月二十五日佐藤福太ニ證書ヲ交付セシトノ事實ノ見ルヘキモノナシ即原判決ハ架空ニ事實ヲ認定シタル不法ノモノナリト云

判官第三點

フニ在レトモ○全ク裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノナルヲ以テ上告ノ原由トナラス『第三點ハ同判文中ニ金十一圓ヲ騙取シ云々トアレトモ記録中右十一圓ノ事實アルコトナシ是亦不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決原本ヲ檢スルニ金四十一圓云々トアリテ金十一圓トハ記載シテラス畢竟本論旨ハ判文ヲ誤解セルニ因ルモノナルヲ以テ上告ノ原由トナラス況ヤ右金額ノ差違ハ犯罪構成ニ影響ナキ事實ニ係ルニ於テカヤ』第四點ハ凡證書變造ノ罪ヲ構成センニハ其證書ノ必要ノ文字ヲ變造シタルモノナラサルヘカラス然ルニ原院ハ十二年ノ(二)ノ字ノ下ニ(六)ノ點ヲ加ヘ以テ六ノ字ニ變更シ云々トノミ判示シ果シテ如何ナル必要ノ爲メニシテ又如何ナル關係ヲ生セシメタルヤノ理由ヲ明示セサルハ理由不備ノ擬違アルモノナリト云フニ在レトモ○證書成立ノ年度ヲ變更シ因テ出訴ヲ爲シタルノ事實ヲ明示シタル上ハ其變更シタル文字ハ必要ノ事實ニ關スルモノナルコト明カナルヲ以テ因テ生スル關係ノ如何等ヲ詳説セサルモ理由不備トセス『第五點ハ原院ニ於テ呼出狀ヲ發セスシテ審理ヲ爲シタルハ不常ニシテ其判決モ不法タルヲ免レスト云フニ在レトモ○原院ニ於テ別ニ呼出狀ヲ發セスシテ被告人ニ對シ事件ノ審理ヲナシタリトスルモ前以テ呼出狀ヲ發スルハ辯論等ノ爲メ注意ヲ與フルニ過キサルヲ以テ已ニ被告人ニ於テ異議ナク其審理ニ應シタル上ハ今更呼出狀ノ有無ヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得ス同辯護士高木益太郎上告趣意辯明書ノ主旨ハ原院ニ於テ變造證書ノ全部ヲ沒收シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ本案スルニ變造ハ證書ニ付テハ其變造ニ係ル部分ヲ沒收スヘキモノニシテ之カ爲メ併セテ他ノ真正ノ部分迄ヲ沒收スヘキモノニ

判官第十點

偽造證書ノ行使○變造部分ノ沒收

アラス、然ルニ、原院於テ、全部ノ、沒收、ヲ、言、渡、タル、ハ、擬、律、錯、誤、ニ、シ、テ、本、論、旨、ハ、上、告、適、法、ノ、原、由、アル、モ、ハ、ト、ス。

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決變造證書ニ對スル一部ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

秋 本 勘之助

原判文ニ認メタル事實ニ依リ金三十圓預證書ノ變造ニ係ル部分ハ刑法第四十三條第一號及同第四十四號ニ照シ之ヲ沒收ス其他ハ原判決ノ通り

明治二十八年十二月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○鐵道略則違反及竊盜ノ件

明治二十八年第一四六五號  
明治二十八年十二月二十七日宣告

○判決要旨

陳供ノ幾部トアレハ證憑ヲ明示シタルモノニシテ特ニ其部分ヲ指定スルヲ要

セス

第一審 大津地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 堀本龜太郎

私訴被上告人 山本邦太郎

右龜太郎カ鐵道畧則違反罪及ヒ竊盜罪ノ被告事件ニ付明治二十八年十二月五日大阪控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ原判決ヲ取消シ更ニ被告龜太郎ヲ鐵道畧則違反罪ニ付輕禁錮二十日ニ處シ竊盜罪ニ付重禁錮四年監視六月ニ處ス私訴ニ付テハ本件控訴ハ之ヲ棄却ス云々ト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點ハ原判決ハ上告人ノ前科ヲ列記スルニ當リ第一ノ分ハ大阪輕罪裁判所ニ於テ罰セラルタルコトノ記載アルモ第二以下ノ分ニ付テハ罰セラルタル裁判所ノ明記ナキヲ以テ不法ナリト云フニ在リ然レトモ前ニ大阪輕罪裁判所ニ於テアルハ管ニ第一ノ分ニ冠スルノミナラス第二以下ノ分ニモ及フ可キモノナルハ行文上明瞭ナルヲ以テ則チ第二以下ニ付テモ裁判所ノ記載ナキモノト謂フヲ得ス同第二點ハ原判決ニハ被告ノ當公廷ノ陳供ノ幾部ニ徴シテ證憑十分ナリト記載シタルモ其幾部トハ果シテ如何ナル部分ナルヤヲ知ルヲ得ス則チ判決ニ理由ヲ示サトル不法アリト云フニ在リ然レトモ陳供ハ幾部トアル上ハ既ニ證憑ノ記載アルモハニシテ從テ判決ノ理由ヲ備フルモノナレハ其幾部トハ如何ナル部分ナルヤハ如キハ特ニ之ヲ明示セサルモ致テ不法ト云フヲ得ス同第三點ハ原判決ハ鐵道畧則違反罪ト竊盜罪トノ二罪俱發シタルヲ認メナカラフ刑法第百條ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在リ然レトモ

明治十四年第七十二號布告第五條ニ法律規則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス」トノ規定アルヲ以テ則チ鐵道署則違反罪ニ付刑法第百條ヲ適用セサルハ當然ナリ」同第四點ハ原判決ノ末段ニ於テ被告龜太郎ヲ鐵道署則違反罪ニ付輕禁錮二十日ニ處シ竊盜罪ニ付重禁錮四年監視六月ニ處ス」ト記載シ二罪ノ刑ヲ併科シタルモノ、如シト雖トモ二罪俱發ノ場合ニハ一罪ノ刑ヲ科スヘキモノナルコト刑法第百條ノ規定スル所ナリ然ルニ原院カ此規定ニ背キタルハ法律錯誤ノ不法ヲ免レスト云フニ在ルモ○本件ニ付刑法第百條ヲ適用スヘキモノニ非サルハ前ニ辯明セシ如クナルヲ以テ原院カ二罪ノ刑ヲ併科シタルハ相當ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第百八十五條ニ依リ本件公訴私訴ニ付テノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人ニ於テ負擔スヘシ

明治二十八年十二月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○取引所法違反件

明治二十八年第一四七六號  
明治二十八年十二月二十七日宣告

○判決要旨

事實ノ理由前後互ニ齟齬スル判決ハ不法ナリ

第一審 和歌山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人

津村重兵衛  
小澤早一  
南楠太郎

右三名カ取引所法違反被告事件ニ付明治二十八年十一月三十日大阪控訴院ニ於テ和歌山地方裁判所カ被告重兵衛早一楠太郎ノ所爲ヲ有罪ト認メ各罰金五拾五圓ニ處ス差押タル物件ハ各被告人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對スル被告三名ヨリノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ヲ不法ナリトシ被告三名及原院檢事長林誠一ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告カ上告第二點ノ要旨ハ原院文前段ニ於ケル事實ノ理由ニ依レハ「上告人共ハ米穀賣買所ニ於テ仲買人本多市兵衛外數名ヲシテ定期賣買類似ノ方法ニテ米穀若干ノ賣買ヲ爲サシメ手数料若干ヲ徴收シ賣買差金ノ授受ヲ取次キタルモノト云フニアリテ上告人等自ラ右ノ賣買ヲ爲シタルモノト云フニアラス仲買人等ヲシテ賣買ヲ爲サシメ以テ手数料ヲ徴シ差金授受ノ取次ヲナシタルモノト云フニアルコト明カナリ然ルニ該院文ノ末段ニ至リ前項陳辯ノ如ク取引所外ニ於テ米穀定期賣買類似ノ取引ヲ爲シタルモノト認定スト」ト判示シ上告人共自ラ賣買取引ヲ爲シタルモノト如ク認定シタルハ前後ノ理由齟齬セル不法ノ判決ナリト云フニアリ○依テ原院文ヲ閱スルニ其前段ニハ「被告等相通謀シ和歌山倉庫會社附屬米穀賣買所ニ於テ仲買人本多

理由齟齬ノ判決



市兵衛等ヲシテ客人ノ依頼ニ依リ定期米賣買類似ノ取引ヲ爲サシメタルモノト判示シタルニ拘ハラス其後段ニ於テハ云々取引所外ニ於テ米穀定期賣買類似ノ取引ヲ爲シタルモノト認定ス。トアリテ自ラ賣買取引ヲ爲シタルモノハ如何判示シ前後事實ノ理由ニ照臨アルモノニシテ要スルニ上告論旨ノ如何不法ノ判決タルヲ免レサルモノトス己ニ此點ニ於テ破毀ノ理由アリト認めタル上ハ被告カ他ノ上告論旨及ヒ檢事長上告論旨ニ對シテハ一々説明ヲ與ヘス以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ノ全部ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス

明治二十八年十二月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事若野新平立會宣告ス

○政府變亂謀殺豫備ノ件

明治二十八年十二月二十七日決定

○決定要旨

政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル所爲刑法第二百二十三條ハ其罪質單純ノ謀殺タルニ外ナラス唯其目的政府ヲ變亂スルニ在ルヲ以テ特ニ内亂ト同シシ論スルノミ而シテ同法第二百二十五條ハ同法第二百一一條及第二百二十二

條ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰スルノ規定タルニ過キス從テ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺スルノ豫備ヲ爲シタル所爲ハ刑法第二百二十五條ニ擬律スルヲ得

(參照) 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス(裁判所構成法第五十條)

第二 第一審ニシテ終審トシテ刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノ、豫審及裁判(同條)

政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ侵蝕シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス一、首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス二、群衆ノ指揮ヲ爲シ其他重要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス三、兵器金穀ヲ支給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁錮ニ處ス四、教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ輕禁錮ニ處ス五、教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス(刑法第一百一十條)

内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ(刑法第一百一十二條)

政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ聚ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス(刑法第一百三條)

政府變亂ノ謀殺

兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス(刑法第百) 被告人 渡邊武雄 篠崎有一郎

右政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺スルノ豫備ヲ爲シタル被告事件ニ付訴訟記録ヲ査閱シ檢察總長檢察事務官木義彰ノ意見ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

被告武雄ハ平素政府ノ施政ニ反對ノ意見ヲ懷キ第一千島艦事件ニ付國辱ヲ招キ第二條約改正ニ付外交政界強硬ナラス第三言論ノ自由ヲ妨ケ集會結社ノ自由ヲ許サトルカ如キハ伊藤總理大臣ノ處置ナレハ之ヲ斃シテ他ノ内閣大臣ヲシテ反省セシメ内閣ノ組織及ヒ施政ノ方針ヲ一變セント欲シ乃チ伊藤總理大臣ヲ暗殺セント決意シ明治二十七年十二月十九日頭髪ヲ截リ之ニ書面ヲ添ヘ竊ニ父母ノ許ニ遣シテ出京シタルモ未タ伊藤總理大臣ノ面辭ヲ知ラサルヲ以テ前大臣ノ寓居ヲ購求シ或ハ辭世ノ歌三首ヲ短冊ニ認メ置キ又其形跡ヲ晦マラス爲メ氏名ヲ變シテ各所ニ流寓シ而シテ或ハ伊藤總理大臣ノ官私邸ニ至リ或ハ新聞等ニ就キ其動靜ヲ窺ヒ居タルモ未タ時機ヲ得ス且兇行ノ用ニ供スル兇器又ハ金員ヲ得ルコト能ハスシテ躊躇スル際會々明治二十八年七月初旬被告有一耶方ニ密會シタル處被告有一耶モ亦現政府ニ對シ常ニ不滿ヲ懷キ特ニ遼東半島還付ノ事ニ付テハ最も憤激シ自ラ伊藤總理大臣ヲ斃シ内閣ノ組織及ヒ施政ノ方針ヲ變更セント企圖シ居リ被告兩名互ニ施政上ノ事ヲ語り談偶々遼東半島還付ノ事ニ及ヒ共ニ激昂シタル未被告武雄ハ其機ニ乘シ被告有一耶ト共ニ謀リテ大事ヲ遂ケント思惟シ於

是伊藤總理大臣ヲ斃サントスルノ決心ヲ明シ爆烈彈製造ノ事ヲ依頼シタルニ被告有一耶ハ被告武雄ヲシテ其事ヲ行ハシメント欲シ直ニ之ヲ請フ四村喜三郎等ニ就キ藥品ノ蒐集ヲ求メタルトモ之ヲ得ルコト能ハサルヨリ被告武雄ニ短銃及ヒ彈丸ヲ與ヘ若シ爆烈彈ヲ製造スルコトヲ得サルトキハ之ヲ以テ決行スルコトニ定メ尋テ被告武雄ハ被告有一耶ニ嫌疑ノ及ハンコト慮リ歸國ト言做シ一時旅行ノ上更ニ上野公園ニ密會スルコトヲ約シテ栃木縣下ニ旅行シ同年九月十八日芝區南佐久間町一丁目一番地所トシ方ニ立戻リ而シテ兇行趣意書ヲ認メ同月廿五日約ノ如ク上野公園ニ密會シ伯爵井上馨朝鮮ヨリ歸朝ノ際伊藤總理大臣カ停車場ニ出迎フヲ窺ヒ短銃ヲ以テ狙撃シ若シ命中セサル時ハ短刀ヲ以テ刺殺スルコトヲ謀議シ被告有一耶ハ爆烈彈製造ニ盡力セシ結果ヲ示ス爲メ爆烈彈ニ假裝シ針金ヲ卷キタル花骨牌在中ノ饅菓罐及ヒ金十圓ヲ被告武雄ニ與ヘ被告武雄ハ多少藥品ノ在中スルモノト想像シ右饅菓罐ヲ谷中墓地ニ埋メ尙ホ兇行ノ用ニ供スル短刀ヲ購求シ又兇行ノ際着用スル爲メ質入セシ袴ヲ受出シ而シテ事

遂ニ發覺シ被告兩名共逮捕セラレタルモノナリ 右ノ事實ハ之ヲ法律ニ照スニ刑法第百二十三條ニ規定スル犯罪ノ豫備ハ所爲タルニ過キスシテ同條ハ罪ハ其性質謀殺罪タルニ外ナラサントモ唯其目的政府ヲ變亂スルニ在ルヲ以テ持ニ之ヲ内亂ト同ク論スルハ而シテ同第百二十五條ハ同第百二十一條及ヒ第百二十二條ハ豫備又ハ陰謀ヲ罰スルハ規定タルニ過キサレハ本件被告等ハ所爲ニ付テハ同第百二十五條ヲ適用スルコトヲ得サレハトス

右ノ理由ナルヲ以テ被告等ノ所爲ハ罪トナラサルニ付刑事訴訟法第三百十五條第三項及ヒ第百六十五條ニ依リ免訴シ且放免ス  
明治二十八年十二月二十七日大審院第一刑事部ニ於テ決定ス

○大審院刑事部裁判長及部員姓名表

第一刑事部

本部ノ所管左ノ如シ

東京控訴院

長崎控訴院

函館控訴院

廣島控訴院

本部ノ開廷左ノ如シ

月曜日

木曜日

裁判長

院長 判事 三好退藏

部員

判事 寛元忠

判事 岡村爲藏

第二刑事部

本部ノ所管左ノ如シ

大阪控訴院

名古屋控訴院

宮城控訴院

本部ノ開廷左ノ如シ

火曜日

金曜日

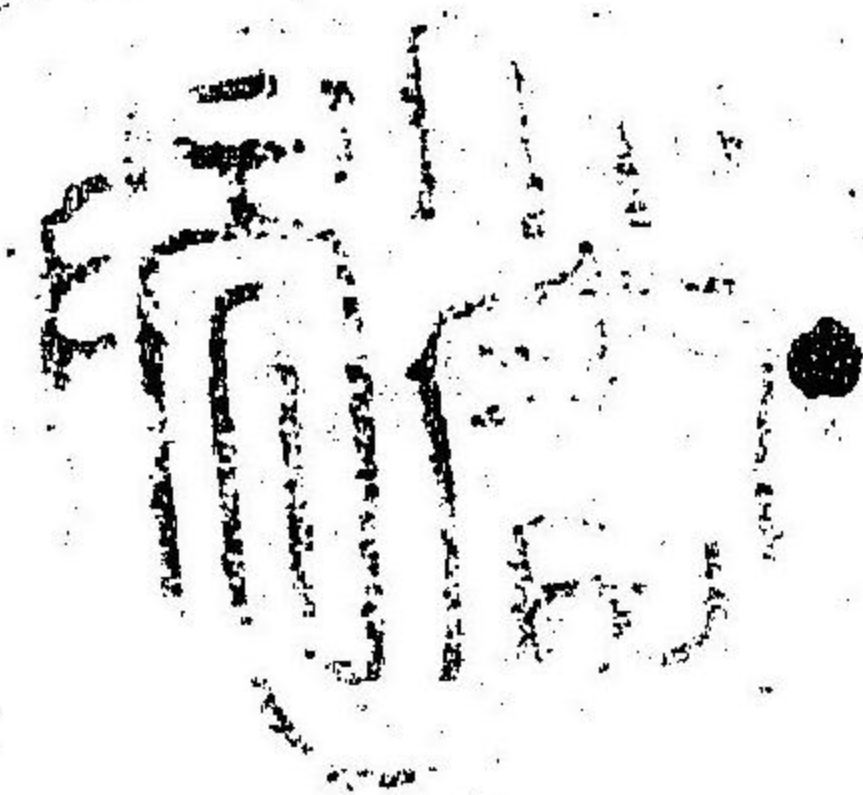
裁判長

部長 判事 原田種成

刑

版 權 所 有

大 審 院



明治二十九年一月三十日印刷  
明治二十九年二月八日發行

定 價 金 五 拾 錢

部 員

|       |         |         |           |         |         |
|-------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 判 事   | 判 事     | 判 事     | 判 事       | 判 事     | 判 事     |
| 津 村 董 | 柳 田 直 平 | 昌 谷 千 里 | 木 下 哲 三 郎 | 島 田 正 章 | 長 谷 川 喬 |

東京市神田區錦町貳丁目貳番地

發行者

東京法學院

東京市京橋區新着町一番地

代表者 菊池武夫

東京市神田區錦町三丁目八番地

印刷者 八尾新助

東京市京橋區銀座四丁目一番地

發賣所 八尾商店

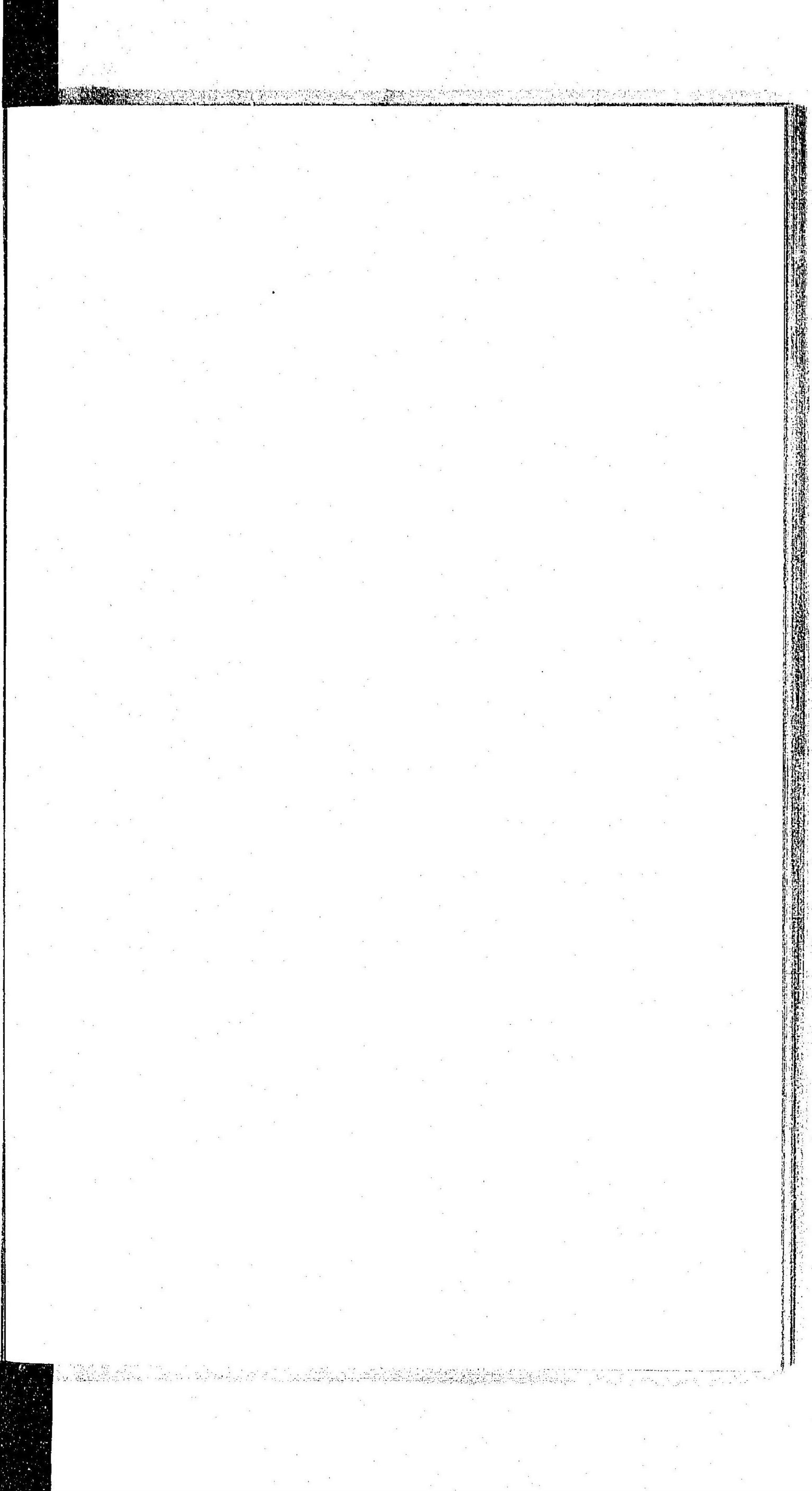
東京市神田區表神保町一番地

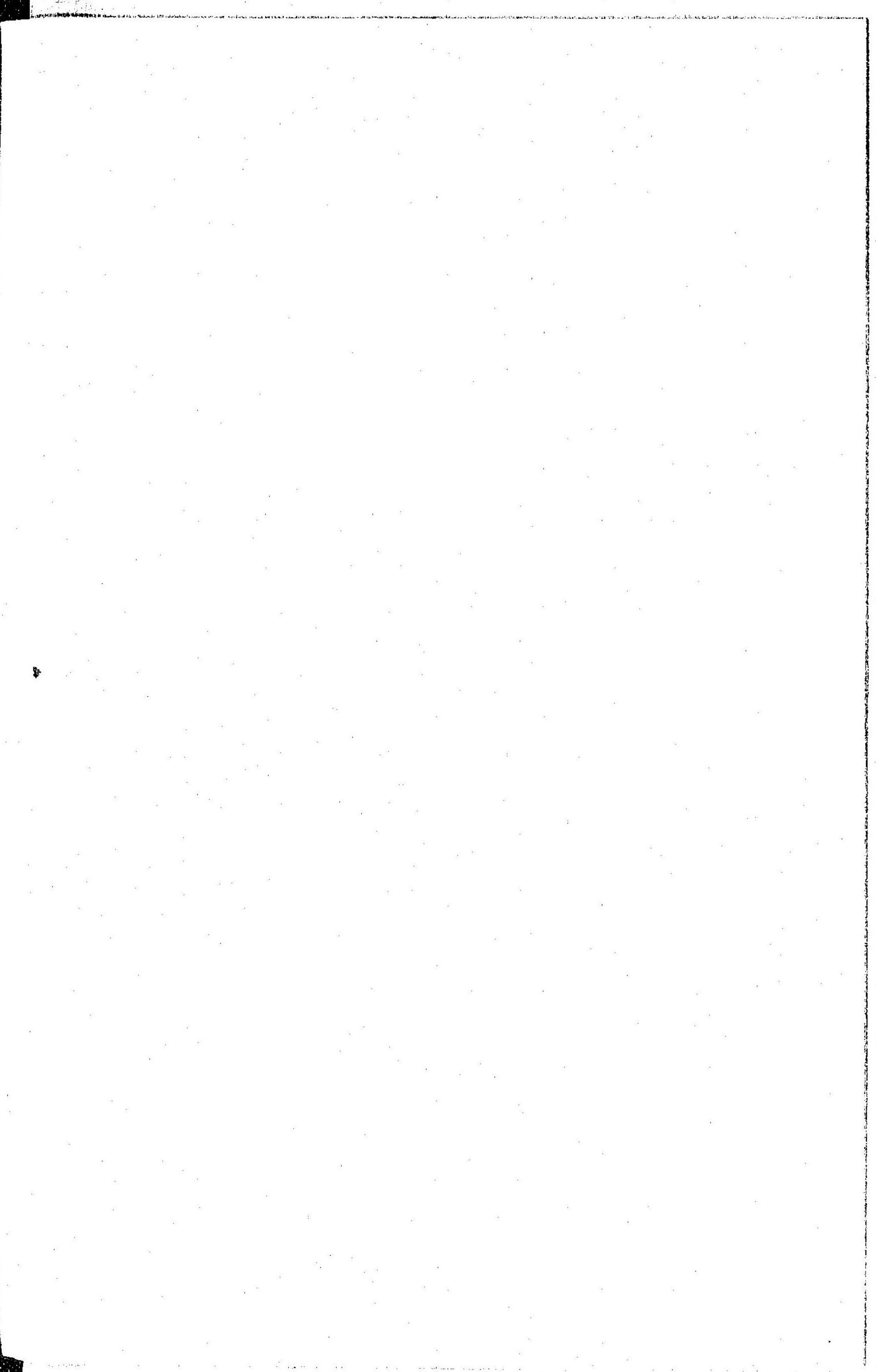
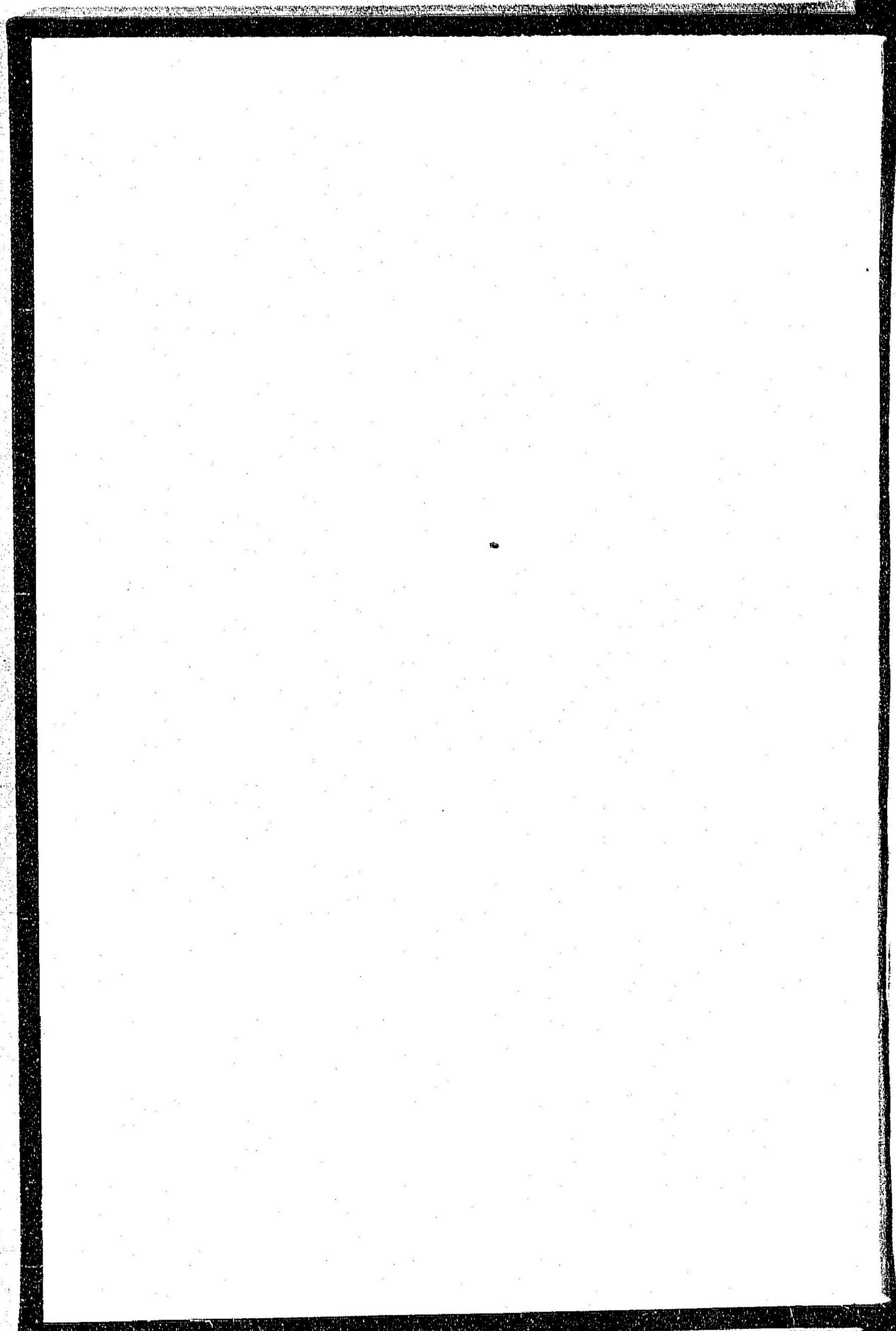
發賣所 八尾書店



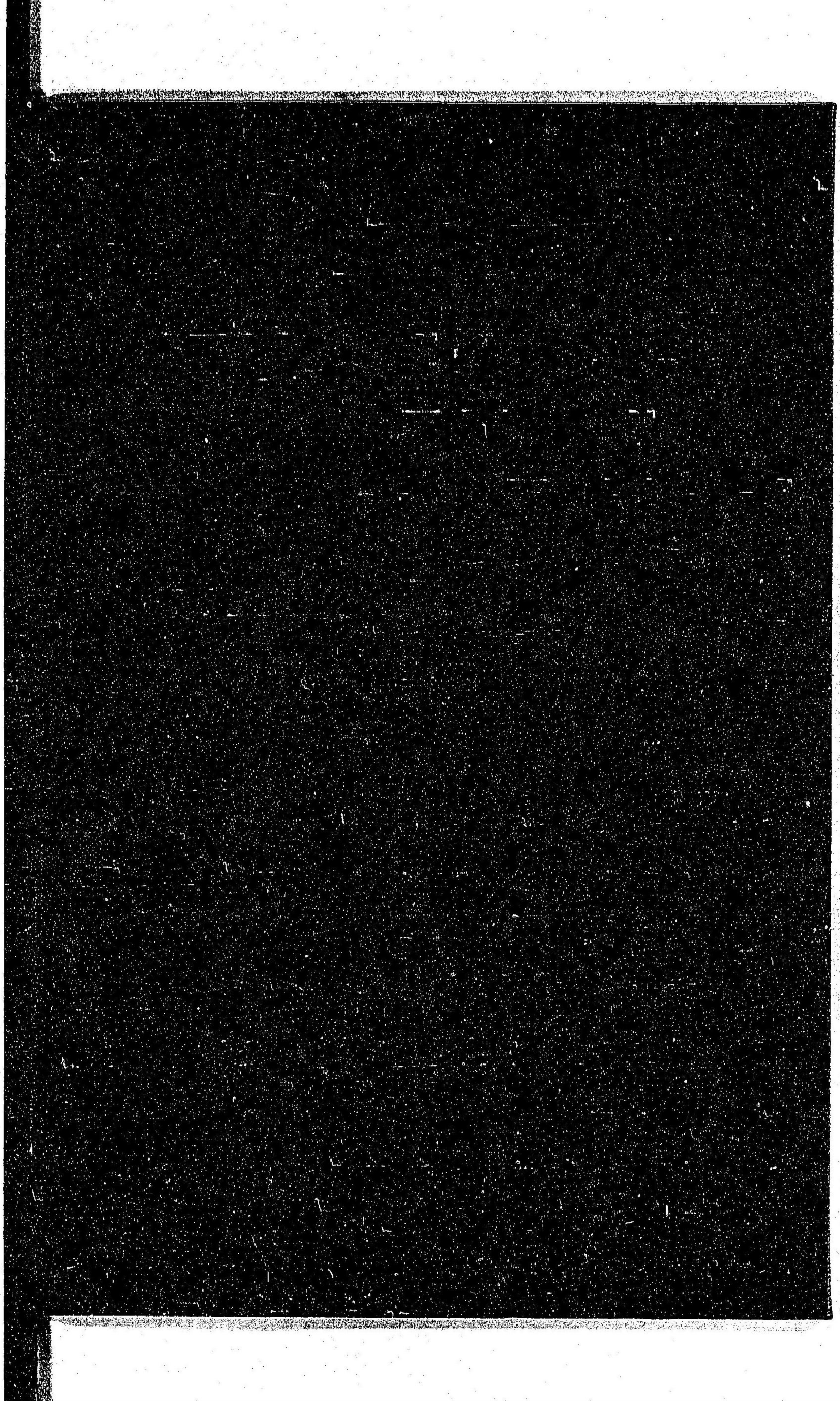
4# + G - 42











036551-001-5

CZ-2711-7

大審院刑事判決録

第1-18輯

中央大学

M28-45

BBR-0384



